

令和元年10月9日
(2019年)

平成30年度吹田市立博物館事業評価報告書

吹田市立博物館協議会
委員長 一瀬 和夫

吹田市立博物館協議会では館長への意見を述べる機関であるとする博物館法の規定及び「博物館の設置及び運営上の望ましい基準（平成23年12月20日文部科学省告示165号）」に基づき吹田市立博物館の平成30年度事業評価について令和元年5月31日および令和元年10月4日の協議会において慎重に審議した。以下に吹田市立博物館がめざす活動目標に沿って、その結果について報告する。

1 資料の収集と保管

資料の収集、文化財の虫害対策実施及び研究は事業目標に達成している。昨年より低い評価の項目が多いが、特に資料データベースの整備・検討が進捗していない。資料デジタル化の進展も低調であるが、徐々に改善はなされている。

2 調査研究

地域資料や特別展・企画展に係る調査研究、研究成果の公開は着実に実施され、改善がみられた。北大阪ミュージアム・ネットワークとの共同調査・事業も一定の成果をあげている。一方で常設展示更新に関する調査研究は更新に至っておらず、課題が残っている。学芸研究会は目標に達成しておらず、改善が必要である。

3 展示

リニューアル計画、紫金山公園との一体展示の進捗状況が思わしくないが、紫金山公園との一体展示は秋季展示の取り組みによりやや改善している。展示の更新については達成状況が低いと判断する。特別展示関係では大半が目標を達成しており評価できるが、さわる月間と博物館実習展は企画を再考する余地がある。

4 地域学習の拠点と連携

図書館・公民館との連携は幅が広がったことは評価できる。北大阪ミュージアム・ネットワークとの連携も中心的役割を果たしており、評価できる。出前講座も高い水準を保っている。また、レファレンス業務、博物館利用講座・バックヤードツアー、その他の連携事業も一定の水準を保っている。一方で旧西尾家、中西家との連携については台風の影響もあるが、より一層の事業進展が必要である。

5 市民参画

ボランティアの特別企画への参画の積極性と活動の質、そしてボランティア活動領域の増加に関して評価が高まった。ボランティア以外の市民、市民団体との連携も堅調である。一方でアンケートの調査・評価は達成度が低く、方法などの検討が必要である。

6 情報発信

ホームページのコンテンツの整理・充実およびソーシャルメディアによる広報は概ね目標を達成しており、評価できる。特別利用の促進、研究成果・事業報告・評価の公開については目標を達成し、サイト内での利用の改善がみられた。Eメールサービスの検討は検討が進展した点は評価が高まったが、実施に際しては館独自のサービスも必要である。

7 学校教育との連携

特別企画の展示改良、中学校への地域史テキストの刊行は学校からの評価も高く、高水準で目標を達成している。また、夏季展示の学習活用、その他の教材、出前授業の検討は一定の水準を保っている。いずれも学校の教育研究会や教育センター等とのより一層の緊密な連携が望まれる。吹田高校との連携事業は生徒の研究発表を実施したことで進展がみられた。しかし、高校生インターンシップは参加者を待つだけでなく、積極的に広報するなど工夫が必要である。

8 社会貢献

博物館実習は大学からの評価も高く事業計画を達成していることは高く評価できる。JICA研修も事業計画を達成し、高く評価できる。学芸員インターンシップと学会、研究会については一定の水準には達しているが、より一層の見直しを望む。

9 施設の整備・維持管理

外国語施設案内表示と紫金山公園ビジターセンター建設は進捗が見られない。事業を推進する必要がある。展示機器の定期点検、機械室の設備更新は継続的实施と順次更新を進めてほしい。JR岸辺駅前のアクセス表示は事業が完了したことを評価したい。

評価については学識経験者6名、学校教育関係者2名、社会教育関係者3名、市民公募委員2名からなる計13名の博物館協議会委員により評価した。外部評価はすべての項目にわたり、自己評価と大差ないものであると評価する。

なお、参考資料として別紙「平成30年度（2018年度）事業点検・評価」「平成30年度（2018年度）事業点検・評価詳細資料」を添付する。

平成30年度(2018年度)事業点検・評価

事業評価 1資料の収集と保管

総合評価点 5.98 前年度 6.82

	自己評価	外部評価
①資料の収集	a. 重点収集資料を中心とする資料収集	
	自己評価点 7	外部評価点 7.08
	美術分野において、大規模壁画「釈尊伝」をはじめとする西村公朝作品の寄贈をうけ、コレクションが充実	西村公朝資料の寄贈品を継続して受け入れ、着実に資料収集をおこない、コレクションの充実につとめた
②収蔵資料の保管・管理	a. 収蔵庫の増築・西村公朝資料収納	
	自己評価点 -	外部評価点 -
	平成29年度に事業完了	平成29年度に事業完了
	b. 文化財の虫害対策実施及び研究	
	自己評価点 8	外部評価点 8
	新規収蔵資料を対象に年2回の燻蒸庫燻蒸と、3年に1度の収蔵庫全体の燻蒸を実施し、良好な結果を得ている。	新規収蔵資料に関して年2回の燻蒸庫燻蒸が実施。収蔵庫燻蒸も3年に1度の燻蒸が実施。適切な虫害対策がおこなわれている。
a. 資料のデジタル化		
	自己評価点 7	外部評価点 6.77
③データベースとその公開	全分野で進展。特にデジタル化率が低い歴史資料で進捗。館蔵資料全体としては低調であり、引き続き対応策を講じる必要がある。	
	歴史資料を中心にデジタル化の進捗がみられた。館全体では依然としてデジタル化の進展は低調であり、いっそうの取り組みが求められる。	
	b. 資料データベースの整備・検討	
	自己評価点 2	外部評価点 2.08
	図書館との協議を含めて資料データベースの整備は進展していない。計画の遅滞の原因を明らかにし、データベースの必要性や現在の計画への見直しを行い、改めて実効性のある計画を策定していく必要がある。	博物館の情報発信にとって、資料のデータベース化とその公開は中核をなすものであり、実現可能な計画を早期に策定していくことが求められる。

2 調査研究

総合評価点 7.22 前年度 7.20

①館独自の自主研究事業	a. 館の目標に基づく調査研究	
	自己評価点 7	外部評価点 7.08
	歴史資料：橋本家文書の目録との照合作業は完了。未確認の資料（段ボール約5箱）を確認。原町文書の調査カード作成、データ入力終了。早田家文書、山田村文書は調査カード作成中。また、1970年大阪万博、国内外の博覧会資料の調査を実施し展示や講演活動などに反映させた。考古資料：市内出土の墨書土器・卒塔婆などの資料集成に着手。分析は次年度以降の課題美術資料：西村公朝作品の館蔵作品の周辺を調査。民俗資料：吹田のすまい・民話（怪談）分布調査で講演活動に反映させた。	11件の地域資料調査が行われ、調査カードの作成やデータ入力等も着実に進んでいる。展示関連の資料調査も行われ、展示や講演に有効に利用された。これらは評価できる。ただし、市内に眠る古文書の所在調査は遅れている。古文書はたえず廃棄・散逸の危機にさらされており、計画的・積極的な所在調査を行わねば取り返しのつかないことになりかねない。展示などに較べると目立たない地味な活動ではあるが、館活動の柱の一つとして積極的に位置づける必要がある。

b. 常設展示更新の調査研究	
自己評価点 7	外部評価点 6.62
<ul style="list-style-type: none"> ・岸部地域の弥生時代～古代にかけての土地利用に関する調査を実施、次年度以降展示へ具体的な展示へ反映させる。 ・常設展示リニューアルに向けて、各分野で展示内容を再検討・再構成の調査に着手した。美術資料については西村公朝の資料調査や展覧会開催が、常設展示の更新や増設計画のある展示室設計につながる 	常設展示更新のための調査研究は、一定程度実施され、成果を上げたといえるが、実際の展示更新に反映されるまでには至っておらず、その点、課題を残している。
c. 特別展・企画展に関する調査研究	
自己評価点 8	外部評価点 8
<ul style="list-style-type: none"> ・大塩平八郎関係資料調査 ・吹田の水辺にすむ動植物（夏季展示） ・吹田操車場遺跡・明和池遺跡関連調査および両遺跡の検出遺構・出土遺物に関する分析・周辺地域との比較調査 ・雛人形関係資料調査 ・博物館実習展に際し館蔵資料調査 ・西村公朝資料調査 ・西村家所蔵の西村公朝作品と関連資料調査 ・大坂画壇関係資料調査 ・千里ニュータウン・その他国内外のニュータウン資料調査。 ・甲南学園貴志記念室所蔵資料を中心とする貴志康一関係資料調査 	特別展・企画展に関する調査研究が精力的に行われ、その成果が展示に反映されたことは評価できる。なお、昨年度の外部評価コメントで、「館が作成した「実績・自己点検・自己評価」は、調査事実を記すのみである。展示によっては、調査研究では成果があったものの、それを十分展示に生かすことができなかつたというケースもあろう。その場合、なぜ生かせなかつたのかについて自己点検する必要がある」と記した。この点については、今回の「実績・自己点検・自己評価」は一定程度改善が見られ、評価できる。
d. 研究成果の公開	
自己評価点 8	外部評価点 8.08
企画展示に関する調査研究成果は、展示図録・たよりの刊行物、歴史講座において公表。館報については資料紹介を含めてであるが複数の成果公表となった。歴史講座は職員の異動もあり減少した。出前講座は過去最高となり、ニーズの高さと負担バランスを考慮する必要もある。	企画展示の準備過程や常設展示更新作業において、それぞれのテーマに関係する資料の調査と研究が行われ、その成果が展示図録、『博物館だより』、『吹田市立博物館館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。出前講座の回数も41回を数え、研究成果の地域への還元が積極的に行われていることが窺える。この点も評価できるところである。
e. 学芸研究会	
自己評価点 6	外部評価点 5.85
年1回の実施にとどまったが、博物館利用法に関するテーマの研究会としては初の試みとなった。次年度以降、複数回を定期的実施していくことが課題である。	平成27年度に発足した学芸研究会も4年目を迎えた。27年度・28年度はいずれも目標の2回以上回開催されたが、29年度および30年度はいずれも1回の開催に留まった。多忙な職務の傍ら、このような学術的な研究会を行うことが大変であることは理解できるが、館員全体の問題意識の共有や、館員のさらなる能力向上にとって貴重な機会であり、年2回開催は是非守って頂きたい。

② 共同研究事業	a. 北大阪ミュージアム・ネットワークとの共同調査・事業	
	自己評価点 8	外部評価点 7.69
	<p>北大阪ミュージアム・ネットワーク内に大阪万博50周年記念の連携事業を実施する作業部会を中心に北大阪ミュージアム・ネットワーク シンポジウム「大阪でEXPOを考える I 博覧会の歩みー'70万博への道ー」実施した。アンケート結果では1970年の大阪万博までの博覧会の歴史がよくわかった。さまざまな角度から万博が理解できた。という好意的な意見を多く得ることができ、大阪万博を中心とする博覧会を周知し、回顧と展望の一端を担うことができた。</p>	<p>1月12日開催の北大阪ミュージアム・ネットワーク シンポジウム「大阪でEXPOを考える I 博覧会の歩みー'70万博への道ー」は120名の参加を得、好評であった。吹田市立博物館からはパネリストとコーディネーター各1名を出したほか、会長館として準備・運営に携わった。北大阪ミュージアム・ネットワークの活動が活発に行われ、当館が中核館としてその活動を支えていることは大いに評価できる。今後も中核館としての役割を積極的に担い、北大阪の地域文化の発展に寄与することを期待したい。なお、「実績・自己点検・自己評価」では、北大阪ミュージアム・ネットワークにおける当館の役割について、もう少し具体的に書く必要がある。</p>

3 展示

総合評価点 7.79 前年度 7.82

① 常設展示	a. リニューアル計画の検討	
	自己評価点 6	外部評価点 6.08
	<p>開館30周年（2022年度）の常設展示リニューアルに向けて、各分野において展示構想を進めながら、リニューアルの規模と経費について検討をすすめている。</p>	<p>リニューアルには館の予算や人的配置、所蔵資料の内容など現実的な問題はあるだろうが、これまでの学芸活動の成果を盛り込み、地域ニーズも意識した斬新なアイディアも練って、積極的かつ計画的に進めるべきである。 今の利用者のうけねらいの需要ではなく、4年後、そして30年後を見通した展示をめざしてほしい。</p>
	b. 紫金山公園と一体化した展示計画	
	自己評価点 6	外部評価点 5.92
	<p>常設展示リニューアルに合わせて、秋季特別展「吹田操車場遺跡展」の調査成果、特に窯業関連資料を取り入れた展示設計に着手した。</p>	<p>秋季特別展「吹田操車場遺跡展」を企画したことは、紫金山公園と館との一体感を演出するエコ・ミュージアム的な発想への展開も可能なものとして評価できる。 吹田市域の足元、原点となる展示を期待する。 フィールド博物館としての窓のガイダンスは基盤となるものであろう。</p>
	c. 展示の更新	
	自己評価点 6	外部評価点 6.08
<p>吹田の美術コーナーの掛軸2幅を展示替え</p>	<p>作品保護のためにも美術作品（特に軸物や画帖など）は定期的に展示替すべきものである。学術的な内容の検討とともに保存上の問題から長期的な作品の展示替え計画が必要である。 展示替えの意図が知りたい</p>	

② 企画展示	a. 企画展示の中期計画立案	
	自己評価点 9	外部評価点 8.77
	平成30年度～34年度の企画展示案の立案。5年間の企画展示案を立案して中期の展示計画を進めている。	昨年度同様、吹田の歴史に触れながらも日本の近代現代の歴史や文化芸術に関する大きなテーマをあげたことが評価できる。館蔵品を有効活用した「西村公朝展」も多彩な切り口を設けて変化を与えており、調査研究における新発見も含めた実績が生まれる可能性が期待できる。 第三者による展示評価が必要である。 多彩な吹田市が感じられていいシリーズであるが、5年を通したストーリーはつくれないのか。
	b. 企画展の開催 b-1. 春季特別展『西村公朝 芸術家の素顔』	
	自己評価点 8	外部評価点 8.46
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度に寄贈・寄託を受けた作品の多くを公開できた。(初公開作品18点) ・公開できなかった作品も、図録で概要と特性を示し、重要なコレクションとして取り上げた。 ・アンケートにおいて「人柄が垣間見える作品の数々に心がなごみました」「人間性がにじみ出ている作品を鑑賞する事ができた」「いろんな側面をみる事ができた」「日常の生活に密着した物に施された作品など幅広く鑑賞することができて楽しめました」という回答にみられたように、日常生活から生まれた作品を数多く紹介したことによって、公朝という人物を身近に感じ、それによって作品や仏の世界にもさらに親しんでもらうことができた。 	西村公朝の活動の学術的意義と魅力は、1. 日本美術院国宝修理所の所長として日本の重文・国宝の仏像の修復に携わったこと、2. 自身のユニークな仏像や絵画を制作したこと、3. 教育者としての更新の育成、4. 宗教者としての活動、5. 以上の活動による社会的存在感などにあると思われる。その多面性を一つの展覧会で表すことは難しく、毎年企画展で切り口を変えて、様々な面白さを具体的展示で公開していくことは意義がある。吹田市立博物館の独壇場ともなる公朝作品であり、図書・図録の刊行なども含めて、さらに多彩な企画を進めてもらいたい。
	b. 企画展の開催 企画展『ニュータウン誕生ー千里&多摩ニュータウンに見る都市計画と人々ー』	
	自己評価点 9	外部評価点 8.85
	展示や関連イベントを通じて共通点と相違点を知っていただくことができた。また、当館の企画展としては珍しく図録を刊行した。そのことで、企画展終了後もより幅広い市民が、図録を購入したり市立図書館で閲覧したりすることが可能となり、中長期にわたり多くの市民が理解を深めていただく土台ができた。これら展示・関連イベントの開催や図録の刊行が、今後千里への愛着を持つきっかけとなり、今後の街づくりに向けての課題解決のためのヒントとなると思われる。	この企画展の特徴は、地元の千里ニュータウンだけでなく、多摩ニュータウンもあわせて取り上げたことである。誕生の経緯も性格も異なる二つのニュータウンを取り上げることにより、それぞれの個性がより強く浮かび上がるとともに、共通点も明らかになった。通常、地域博物館では、展示対象となるのは当該地域に関わるものに限られるが、この企画展はその枠を破る試みであり、大いに評価できる。観覧者の満足度も極めて高く、展示としては成功したといえる。 ただ、千里ニュータウンと聞いて足を運んだ人の中には、学術的関心よりも、昔懐かしさから来館した人が多くいたと思われる。展示の高評価は、そのような人たちによって支えられている部分も大きい。来館の動機が昔懐かしさであることは何ら否定されるべきことではないが、館としてはこのことをしっかりふまえておく必要がある。

b. 企画展の開催 b-3. 「さわる月間」	
自己評価点 7	外部評価点 7. 23
<p>常設化した「さわる展」の内容の充実を図り、その周知を目的に企画展と同時期に開催した。これまでの継続での開催があり、特に視覚障がい者の方々には貴重な年1回の機会となってきた。</p> <p>展示資料は、琴・琵琶・和太鼓などの日本の伝統楽器、須恵器・瓦、ニュータウン関連資料、西村公朝作品「ふれ愛観音」・仏像レプリカ、民俗資料としては履物・力石である。展示資料については昨年度と変わりがなく、昨年のアンケートに記載があった「新鮮味がなかった」と評されたことへの対応はできなかった。さわる資料のむずかしさがあらためて浮き彫りとなった。</p> <p>来館者の“さわる”物への興味は、アンケートや展示解説の反応によれば、昨年同様どの分野へも関心があるようであるが、「子ども達は楽しく学んでいたようです。」「子ども優先しすぎる。大人1人で来ると何もできない。」とあるように、子どもに対しては好評であったものの、大人に対する展示の考え方を資料の選定ともに工夫していく必要がある。また、さわることで資料の情報を入手することへの対応も今後の課題と考えられる。</p>	<p>同時期開催の企画展等との関連もあり、単純に比較できないが、過去に比べて多数の観覧者を得られたのは、良かった。関連イベントや市民参画が積極的になされたことも評価できる。</p> <p>さわれる資料の数やバリエーションを増やすのは簡単ではないと思うが、楽器・遺物・民俗／生活資料などの資料の充実を求めたい。素材が違って形のおもしろさを伝える目的であれば、3Dプリンターを使ったレプリカでも良いだろう。他機関、大学などの協力を得る方法もある。</p> <p>自己評価にあるとおり、大人向けの展示の工夫を期待する。</p>
b. 企画展の開催 b-4. 夏季展示『水からかんがえよう』	
自己評価点 8	外部評価点 8. 08
<p>わかりやすく、川の水が飲み水になるまで・下水が川に帰るまでの上下水道処理をパネル、模型で紹介した。また、私たちが1日に使う水を240リットル分のペットボトルで展示し、視覚に訴える展示にした。水の分子模型で水のしくみを立体的に表現した。水と文化を、絵図・古写真・航空写真や水鳥標本で融合した展示を行った。災害に備える展示として様々な防災グッズを展示した。今年はまだ災害が多かったため、より関心をもって見てもらえたと思う。</p> <p>展示資料では、アライグマ・ヌートリア、水鳥標本、昆虫標本、魚など水辺の生き物標本を展示し、実物資料の充実を図った。</p> <p>アンケートでは、「とてもよかった」が38名、「よかった」が52名、「わるかった」「とてもわるかった」は0名、「どちらともいえない」が3名であった。非常に来館者の満足度が高かったと言える。水のしくみがわかった、1日に使う水の量を視覚的にわかった、子どもにもわかりやすい展示だった、など実行委員が企画した意図がよく伝わっていると感じた。</p>	<p>楽しいことだけでなく、大人も子どももしっかり印象に残る展示にまとめあげたことは評価に値します。特に古地図や古い地形図、航空写真は歴史と自然環境の接点であり、有効でしょう。</p> <p>かつての水田をめぐる水利用と自然環境と現在の水道によって水利用と環境とのつながりが分断されている現状をうまく対比できると、テーマのまとまりがよかったのかもしれない。</p>

b. 企画展の開催 博物館実習展『大学生による館蔵品展－歴史・美術・考古・民俗資料がいっぱい－』	
自己評価点 7	外部評価点 7.38
<p>今年度は、14大学25名の実習生が美術、民俗、考古、近世史、近現代史の5班に分かれ展示実習を行った。展示実習では、班ごとに話し合いながら、展示のテーマ・構成、展示資料の決定、解説パネル・キャプションの作成、資料の陳列などを行い、展示を仕上げる。単なる資料の扱い方にとどまることなく、展示を作り上げる過程や考え方を実践として学ぶ機会となった。</p> <p>展示内容としては、実習生も観覧者いかにそれぞれの班の展示趣旨を伝えるかについて、キャプションや展示タイトルなどに工夫をこらしており、また、常設展では展示していない館蔵品を活用することで、吹田の歴史・文化の一側面を新たに提示できた。アンケートにおいても、「とてもよかった・よかった」の割合は86.2%と目標には達しなかったが、実習生の姿勢へのあたたかい評価がみられ、実習展の実施意義が理解を得られてきているようである。</p>	<p>目的どおり実習訓練ができたことを評価する。特に学生が展示解説に市民の高い評価が得られているのは、学生にとって多いに励みになっていることだろうと思う。ただ、例年に比して観覧者数が半分になっている。この理由を明らかにする必要がある。</p> <p>短期間の実習のためか、例年、せつかくの広報用チラシが型通りで展示内容が分からないのが残念である。自分の展示で作ったらこうなるというチラシやポスターを展示してみるのはどうだろうか。</p>
b. 企画展の開催 b-6. 秋季特別展『東洋一の夢の跡－吹田操車場遺跡－』	
自己評価点 8	外部評価点 8
<p>吹田操車場については、平成25年度（2013年度）秋季特別展「交通の20世紀」で取り上げたが、その操車場の地下に眠る遺跡については、今回初めて本格的に展示テーマとした。操車場跡地は貨物駅ターミナルや「健都」として再開発がなされ、特にJR岸辺駅北側は病院や商業ビルが建ち並び、大きく景観を変えている。本展は20年に及ぶ跡地再開発に伴う発掘調査の成果を、「健都」オープンに合わせて集成し、展示をすることで遺跡の存在や発掘によって判明した新たな歴史像を紹介する目的であった。アンケートによれば、吹田操車場遺跡という遺跡への認知が広まり、そこから出土した遺物にも興味を持って観覧していただけたことが伺え、その目的は達せられたように思う。また、満足度においても90.5%の方が「とてもよかった」「よかった」との評価であった。</p> <p>しかし一方で、遺跡全体を紹介するという意図に縛られすぎ、展示構成において、アンケートの「とてもわかった」「わかった」の評価にある「遺跡の見取り図と出土物を漫然と並べている印象があり、想像力を喚起するには足りません」という批判は、反省すべき点である。重要な知見をより分かりやすく展示・解説する工夫があるべきであった。</p> <p>また、展示タイトルとチラシデザインから近代の「吹田操車場」そのものの展示と誤解を招いてしまったことは、展示への興味や関心を促し来場に繋げるといふ点では、今後気をつけなければならないことと痛感した。</p>	<p>サテライトの展示、そして吹田操車場の展示は展示導入で今昔の提示が必要不可欠であろう。</p>

b. 企画展の開催 b-7. 特別企画『むかしのくらしと学校』	
自己評価点 7	外部評価点 8. 77
<p>市内小学校36校から28校（77.8%）が見学を訪れ、7校に出前授業を実施した。児童数では市内の第三学年児童総数3,576名のうち3,360名（93.9%）の児童が来館および出前授業を受けた。</p> <p>開催期間中の一般アンケートにおいても、「とてもよかった」と「よかった」の合計が97.0%とたいへん高い評価を得ている。学校から児童を引率する教員にとっても、教科社会科学習を進めるうえで、「博物館へ来てよかった」「子どもたちの興味関心を高めることができた」「実際に手で触れ、実感できる体験展示が多く、子どもたちが意欲的に学習できた」など、とても好評である。</p>	<p>小学校3年生のカリキュラム連携展示「むかしのくらしと学校」において、参加・体験型のプログラムを継続的に取り入れたことは子供たちの探求心・学習意欲を高めることができ高く評価できる。また、ボランティアによる解説が非常にわかりやすいという声を多く聞く。今後更に改善を期待したい。</p> <p>アンケートからすれば、小3向けの解説を開発する必要がある。</p>
c. 翌年度企画展示の準備	
自己評価点 9	外部評価点 8. 69
<p>次年度の展示準備は、資料調査・図録製作等を実践に行うことができた。</p>	<p>企画段階での第三者評価は行ったか。</p>
d. 連携展示の実施	
自己評価点 8	外部評価点 7. 92
<p>パルテノン多摩歴史ミュージアムとの連携展示が新年度も継続して実施され、吹田会場においても多摩ニュータウン資料を中心に展示テーマとなっている地元ニュータウン情報館において出張展示を実施した。「共生のひろば」は平成28年度から継続実施しているもので、夏季展のPRになるとも他の組織の取組を知り活動の参考となる点で貴重な取組となっている。</p>	<p>「ニュータウン誕生一千里&多摩ニュータウンの都市計画と人々」展などの出張展示、連携展示は、今後さらに全国的に求められる博物館のあり方であり、特に東京都多摩市など遠方の博物館との連携は、ダイナミックな館の運営モデルとして、吹田市立博物館の格をあげる上でも意義ある展覧会だったと思われる。ニュータウン情報館での展示なども、地元へのアピールとして評価できる。</p> <p>自然が入っているが、連携テーマがニュータウン展示に偏りすぎている。絵画、祭り、建造物方面での展開を期待したい。短期の目先よりも長期的な展望戦略が必要。</p>
e. 西村公朝展示の定期的開催	
自己評価点 9	外部評価点 8. 85
<p>春季特別展として「西村公朝 芸術家の素顔」を開催。その他応接室ギャラリーおよびロビーさわる展示コーナーにて常設展示を実施。31年度以降は企画展において定期的な公開活用を図る計画である。</p>	<p>西村公朝作品を多数収蔵している館として、その効果的な公開を続けていることが評価できる。西村公朝を多彩に公開できるようになったが、公朝の基本情報の展示方法に工夫がいるのではないか。</p>

①地域学習の支援	a. 幅広い年齢層への催事の実施	
	自己評価点 7	外部評価点 7.46
	イベント回数、特に子ども、親子向けイベントの増加は、主に夏季展示のイベントが再度増加したことによる。夏季展示は子どもをターゲットにした市民参画展示であり、委員の日頃の活動成果を示す場ともなっている。一方、その他の展示はイベント減となった。高学年の参加を狙った企画もある。	イベント回数、特に子ども、親子向けイベントの増加は、主に夏季展示のイベントが再度増加したことによる。夏季展示は子どもをターゲットにした市民参画展示であり、委員の日頃の活動成果を示す場ともなっている。一方、その他の展示はイベント減となった。高学年の参加を狙った企画もある。
	b. 博物館利用講座・バックヤードツアー	
	自己評価点 8	外部評価点 7.77
	バックヤードの見学だけでなく、学芸員の仕事を体験してもらい、博物館の業務を体験を通じて理解してもらうことになった。	(当該事項に関するコメントなし)
	c. 出前講座・依頼講座	
	自己評価点 9	外部評価点 8.84
	講師派遣の要請は増加し、過去最高となった。博物館の存在が周知されている表れと考えられる。今後も可能な限り積極的に応じていきたい。	高齢者の増加に伴い、公民館・図書館・市民センター等公的機関からの講師派遣要請が増加傾向にある。この増加する高齢者の知的要求を満たし、教養を高める機会を提供する存在として益々その役割が強く期待されている。運営途上、困難が生ずるかもしれないが、可能な限り継続していただきたい。 50回が限界に感じるが、出前先のジャンルや年齢、特に小中高大学生や老年層への対応はどうか。 出前を仕掛ける工夫がいるのではないかと。やや精査して依頼の件数の確保を考えたい。
	d. レファレンス業務	
自己評価点 7	外部評価点 7.15	
レファレンス数は前年度より減少している。質問者の傾向は変化がなく、質問のための来館者が最も多く、電話、観覧者と続く。FAX、Eメール、郵便はほとんどなかった。質問内容は観覧者は展示内容に関するものであり、電話によるものは吹田の歴史に関係するが、地名、伝説、寺社、○○の場所や名称を問うものが多い。来館者については古文書の読みに関するものが3割程度あり、特徴的である。その他は神社、古墳、城、街道、道標、伝説、芸能など展示で取り上げておらず、電話と重なる事項が中心である。	一番多いのは来館者による質問、次いで電話による照会・観覧者みよる質問であるが、情報発信拠点としての役割を担っている関係からスマホ・PCによるネット照会も可能となるよう検討する必要がある。(Eメール化、回答業務の効率化) 通常90%は同じような質問になるので、質問内容の多いものに対するマニュアル化を行い、専門性のある対応に比重を掛ける仕掛けがあるので。より深い専門性が高い内容の普及リーフレットを作成してはどうか。	

② 連携	a. 旧西尾家住宅、旧中西家住宅との連携事業	
	自己評価点 7	外部評価点 6.92
	<p>旧西尾家住宅 地震、台風の影響により休館となり、バスツアー「すいた歴史ぐるっとめぐり」、北大阪ミュージアムメッセに展示ブース設置のいずれもが中止となった。「貴志浩一」をテーマとする平成31年度春季特別展関連として資料調査と出品計画をたてる。</p> <p>旧中西家住宅 中学生職場体験にて旧中西家住宅を見学 地震、台風の影響により休館となり、バスツアー「すいた歴史ぐるっとめぐり」、北大阪ミュージアムメッセに展示ブース設置のいずれもが中止となった。</p>	<p>地震・台風等による影響により建物に被害を受けたことにより評価はなし。 台風はいたしかたないが、これからは代替え案の想定もありえるか。</p>
	b. 図書館・公民館との連携事業	
	自己評価点 8	外部評価点 8.92
	<p>図書館、公民館、浜屋敷との連携は堅調であり、今年度は豊一市民センター等との連携が大きく伸びた。その他の連携も増え、さらに幅が広がった。低年齢層向けの市民公益活動センターへの出張展示は展示内容の見直しをはかり、今年度は行わなかった。</p>	<p>増加する高齢者が文化知識向上、知的欲求を充足させるため気楽に近隣の公民館、図書館、コミュニティセンター等を利用するニーズが高まっており、このニーズに応じて公民館・図書館と連携して講師派遣・場所提供等を効率的に運営しており、大いに評価できる。 学芸員のスキルに頼ったものがほとんどであるが、博物館利用ガイダンス、特に低年齢層向けは必要だと思われる。</p>
	c. 北大阪ミュージアム・ネットワークとの連携	
	自己評価点 9	外部評価点 8.77
	<p>北大阪ミュージアム・ネットワーク会長館として連携事業を進めた。文化庁より外部資金を獲得し、北大阪ミュージアムメッセ及びシンポジウムを実施した。「大阪万博50周年」を控え、今年度からその回顧と歴史的検証を活動の重点テーマとし、メッセにおいても同テーマでネットワークの館収蔵品による合同エキシビションを初めて実施し、記録となる図録も刊行した。参加者数も5,527人と過去最高を記録した。シンポジウムも博覧会をテーマに実施した結果、120名の聴衆を集め、好意的なアンケート結果を得た。北大阪の文化資源の発信、地域連携に中心的な役割を果たすことができた。</p>	<p>北大阪ミュージアム・ネットワークのリーダー館として各館との連携に腐心し、北大阪の文化資源発信センターの中心的役割を果たしたことは大いに評価できる</p>

d. 近隣館との連携事業	
自己評価点 7	外部評価点 7
西国街道連携事業は西国街道沿いの市町の博物館と歴史街道推進協議会が連携する大阪府域を超えての広域連携事業である。今年度は歴史街道推進協議会の事情によりリレーウォークが中止となり、リレートークのみの実施となったが、会場を吹田市の施設を利用し、共催事業とした。各館のスタンプラリーや事業チラシには展覧会情報を掲示するなどの工夫をこらし、広域連携ならではの広報効果がでており、継続して参加していきたい。	今回はリレートークのみ。市民の根強い支持を得ており、リレーウォークともども事業継続を期待する。
e. 地元歴史団体との連携事業	
自己評価点 8	外部評価点 7.92
西国街道連携事業において、リレーウォークが中止となったため、独自の連携事業「すいた再見ウォーク」として、例年どおり講演会とウォークを実施した。歴史街道による広域広報がなかったためか参加者は昨年より減少した。しかし、対象とした春日地区は急速にマンションが増え、新住民が増えている地域であり、参加者には自分の住んでいる地域の周辺にはどのような場所や歴史があるのかを知るためといった新たな参加者層も目立った。実際現地へ足を運ぶという手段と市民連携を用いて地域の歴史に関心を持ってもらう貴重な機会として継続していきたい。	博物館と地元「吹田郷土史研究会」が共同企画する歴史街道推進協議会主催の「西国街道連携事業」に関するリレートーク及びウォークの開催について、連絡・打ち合わせ等を密にして事業を推進しており、毎年参加者が多く盛況である。今後も継続実施を期待する。

事業目標

5市民参画

総合評価点

7.71

前年度

7.67

a. アンケートの調査・集計	
自己評価点 6	外部評価点 6.08
<p>①市民ニーズの把握</p> <p>アンケートは展覧会ごとに実施した。回答率は5.3%~20.4%と改善されたが、まだ10%を下回るものが3例残されている。改善策を講じる必要がある。また、内容分析も強化したい。</p>	<p>アンケートの回答率は改善されつつある。自由記入欄の回答によって各展覧会の内容が観覧者にどのように受け取られていたかがえるようになったことを評価したい。さらに観覧者数の約40%*を占める子どもたちにとって、答えやすい評価の仕方や、ニーズの把握の方法があるのではないと思われる。また、アンケートの内容や答えやすさ、アンケート以外の方法についても検討を続けてほしい。</p> <p>*①有料観覧者のうち小・中学生182人 ②無料観覧者のうち小・中1045人+学校行事3530人 ③総観覧者12336 (①+②) ÷ ③ ≒ 0.386</p> <p>また、昨年の評価提案が生かされていない。</p>

② 市民との連携	a. 博物館事業への市民の参画	
	自己評価点 8	外部評価点 7. 85
	夏季展示に加わった委員の数は増えた。また、体験型講座の市民講師の大半は夏季展示のイベントによるもので、市民活動に裏付けされた企画・運営の効果といえるが、委員に活動の意義を感じ活動の継続が維持できるかが課題となる。	多くの市民が博物館事業に参画していること、それを積極的に推進しサポートしている博物館の努力を評価する。ただ、夏季展示における市民参画について、単年度募集の実行委員会ではテーマの継続性やスキルの蓄積が難しいのではないかと、長期的な実行委員会のあり方が必要ではないかと指摘されてきた。引き続き検討を重ねる必要があると考える。また、積極的に市民参画を促し、博物館をより活性化させるためには、市民が参画していることをより一層広報する必要があると考える。
	b. 市民団体との連携事業	
自己評価点 8	外部評価点 7. 92	
展示事業・共催事業・イベント等の教育普及活動において市民参画による事業を実施した。市民有志による「吹博の会」の博物館との連携事業となる常設展示解説、昆虫標本づくり等の準備会を実施した。	多様な市民団体が企画に参画していること、博物館がその場を提供し続けていることを評価する。また市民有志による「吹博の会」が博物館との連携事業を実施したことを評価する。市民が博物館により親しんでもらうために、市民団体との連携をより一層広報する必要がある。	
③ ボランティア	a. 特別企画への参入	
	自己評価点 9	外部評価点 8. 77
	特別企画について展示企画・製作、学校見学対応をボランティアに委託。ボランティア登録人数・活動日数、人数いずれも増加し、教員養成課程の大学生からの参加もあった。ボランティア個々の積極性が目立つ。特に団体見学対応においては、ミュージアムエデュケーターとしては年々質が向上し、体験コーナーの指導の幅も増え、より大きな学習効果を上げている。また、北大阪ミュージアムメッセでもボランティア組織としてブースの体験展示に対応している。	ボランティアの登録人数、活動日数などが増加し、研修も実施され、積極的にかつ質の高い活動を実施していることを評価する。このボランティア活動についてもっと積極的に広報を実施し、市民のための博物館の存在意義を高めてほしい。 ボランティア自身と館の積極性が頼もしい。
	b. ボランティアの活動領域の増加と研修	
自己評価点 8	外部評価点 7. 92	
ボランティアの活動人数は微減、活動日数は増加した。今年度は大学からの依頼による大学生ボランティアを受入れ、資料整理に従事してもらい、活動領域が増加した。	大学生ボランティアによる資料整理を実施し、活動領域が増加したことを評価する。ボランティアの継続性とスキルアップのためにより積極的に研修を実施する必要がある。また、さまざまな場面でボランティアが活動しているが、お互いの活動や課題について理解しているだろうか。層の厚い継続的なボランティア活動を創出するためには、ボランティアどうしの交流を図ることから始めてはどうかと考える。 ボランティア自身と館の積極性が頼もしい。	

① 広報の充実	a. ホームページのコンテンツの整理・充実	
	自己評価点 8	外部評価点 8
	アクセス数は前年度を上回り、目標数を大幅に超えた。ログ解析によれば、83.89%が新規ユーザーからのアクセスである。ホームページは、情報を適切に更新し、展示（行事）の開催、刊行物刊行、お知らせの記事、館長ページをその都度更新した。また、ホームページのコンテンツは、見やすさ、わかりやすさをめざして様々な修正を加え、充実化をはかった。	コンテンツに修正が加えられ、前年よりも充実した。アクセス数の伸びと新規ユーザーが増えていることも評価できる。アクセス数の維持とさらなる増加を図っていただきたい。 ・「スマホで閲覧した時、本文がベースからはみ出さないように…」の修正はなされたが、当該ページを含めてスマホで見ると文字が小さすぎる。モバイル端末からのアクセスが約半数であるので、文字サイズはスマホ対応を検討いただきたい。 ・昨年指摘したペーパークラフトについては、改善されていない。 わくわくするページを期待したい。 見やすく改善され、更新もされている点は評価できる。しかしトップページには展示と行事内容についての型通りのお知らせしかなく、詳しい情報や実施報告がないのが残念である。Facebookに内容についての記述があることは評価するが、ここに出ていることを的確に案内するか、同じ内容をトップにはりつけてはどうだろうか。一目で博物館に行ってみようと思わせる温かみのあるサイトになることを望んでいる。
	b. ソーシャルメディアによる広報	
	自己評価点 8	外部評価点 7.69
	市報・ホームページ・マスメディア・ローカルメディア等の従来実施してきた広報活動は着実に実行し、西村公朝展による新聞取材が増えた。フェイスブックは特別展の記事を中心に週1回のペースで投稿したが、ホームページにくらべ来館への効果はうすい。あらたなツール開発も検討が必要であろう。	メディアによる取材の目標値をクリアしており、市の公式Facebookへの投稿もほぼ目標どおりである。自己評価で「新たなツール開発も必要」とあるが、昨年度の評価にあるように、まずは館独自のFacebookを開発することを検討されたい。
	c. Eメールサービスの検討	
	自己評価点 7	外部評価点 6.69
	全庁的な実施にあわせて検討。市情報政策室による全庁的なe-mailサービスに参加し、次年度より実施することが決定した。	昨年の評価、および委員会での指摘のとおり、具体的にどのように取り組むのか、館の方針がわからない。 e-mailアドレスの表示は改善されている。
	② 博物館活動の公開	a. 特別利用の促進
自己評価点 7		外部評価点 7
特別利用の件数は前年度より若干増加した。利用は市内を含む近隣の施設が多く、遠方の博物館への貸出も若干ある。写真は近世文書の利用が多く。近現代資料としては館独自の資料活用が目立つ。		指標・目標値に達している。 利用案内に「館外貸出許可申請書」を加え、特別利用の説明の表示方法を変更したことも評価できる。

b. 研究成果・事業報告・評価の公開	
自己評価点 7	外部評価点 7.31
<p>使命・目標、事業点検・評価は『館報』・ホームページにて公開した。広報媒体として『博物館だより』は4回刊行、事業（展示・行事）情報や市民の博物館活動を公開した。閲覧しやすくなる方法を検討したい。</p>	<p>『館報』『博物館だより』等の印刷物およびホームページによって、使命・事業報告・事業評価・研究成果等は適切に公開されている。『博物館だより』はダウンロードして読むことができるが、可能であれば『館報』の内容もウェブ上で閲覧できるように検討していただきたい。サイト内検索ができるよう改善されたことも評価できる。</p>

事業目標 7学校教育との連携 総合評価点 7.32 前年度 6.99

① 利用 の 促進	a. 特別企画「むかしのくらしと学校」の展示改良	
	自己評価点 9	外部評価点 8.77
	<p>毎月開催のボランティア会議では、ボランティア・学校連携担当職員及び学芸員の3者で、教員からのアンケートやボランティアのアンケートをもとに、改善に向けた検討協議を重ねた。その結果については学校説明会や事前打ち合わせ（予め、各校より提出された『見学計画書』に基づいた連絡・連携）を密にし、団体見学当日に臨むよう努めた。</p>	<p>特別企画「むかしのくらしと学校」は、市内小学校3年生の93.9%が来館および出前授業を受け、博物館の見学等を通して、社会科学習で身に着けるべき学力の礎となった。 また、一般アンケート調査も97.0%が肯定的な回答であり、教員からの評価も高い。今後、さらに連携・改善を期待したい。 団体の反応結果が知りたい</p>
	b. 夏季展示の学習活用	
	自己評価点 7	外部評価点 7.23
	<p>岸部第二小学校が学年単位で応募してくれた。今回初めて、4年生と一緒に兄弟の2年生の応募があった。展示最終日に児童に発表をしてもらったが、今後も増やしていけるよう工夫したい。</p>	<p>岸部第二小学校からは、概ね高い評価を聞いている。今後、応募者を増やすために、小学校教育研究会理科部等との連携を検討してはどうか。</p>
	c. さまざまな学年教科への教材・出前授業の検討・表示	
	自己評価点 8	外部評価点 7.77
<p>小中教職員研修は年々参加者が少なく、吹田の小中学校の教員が地域史を学ぶ折角の機会とはなり得ていない現状がある。中核市移行で、教職員研修が大阪府から吹田市へ委譲される。現在は法定研修選択履修の一講座という位置づけになっている点も含めて、根本的なその在り方について改めて考える契機とし、教育委員会指導室及び教育センターと検討を始めたところである。また、新たな学年教科との連携として中学校美術科2・3年生において博物館での授業が実施された。実物絵画を利用した授業は博物館ならではの強みを発揮でき、今後の展開が期待できる。</p>	<p>博物館を知り、活用していくためにも小・中学校の教員が研修で訪れる機会は、大変重要であると考える。また、吹田の教員として吹田の歴史を知ること、意識を高めることも必要であるので、教育委員会指導室及び教育センターと検討し実現してほしい。 出前授業に関しては、博物館を活用することが難しい学校にとっては、本物を体験できる貴重な機会であると考えている。今後も継続してほしい。 歴史探訪に工夫がいるのでは。</p>	

② 学校 教育 へ の 支 援	a. 中学校への地域史テキストの刊行	
	自己評価点 8	外部評価点 8.38
	千里丘中学校と意見交換会を実施して作成。全生徒に配布。校区の歴史的特徴として江戸期以来の街道や名神高速道路、産業道路といった道路交通の発達、校区の遺跡などを特集したページと、その他市域全体の歴史的特徴を古代窯業、古文書、古建築等のテーマごとに紹介したページで構成。	『吹田の歴史にふれてみよう（千里丘中学校版）』は、当該校の社会科教員からの評価も高い。さらに今後、社会科教員に広く博物館を知ってもらい、生徒の利用促進をするために「学研社会科部」に対する働きかけが有効と考える。また、各中学校が取り組んでいる「職場体験学習」も体験した生徒や、中学教員にとって非常に有効であるので、生徒達にとって魅力ある職場であることをアピールするプログラム作成や発信方法を検討していただきたい。
	b. 吹田高校との高博連携事業	
	自己評価点 8	外部評価点 8
	生徒の発表の場を博物館にて設定できた。また、学校側で教育的に手薄とする国際交流の分野において講演会を実施し、学校側との人材資源交流を果たすことができた。	中牧館長の出前授業にとどまらず、「理科系生徒による研究発表」が博物館で開催されたことは大変評価できる。今後、さらに連携を深め、吹田市広報などで発信されることを期待する。
	c. 高校生インターンシップ	
	自己評価点 4	外部評価点 3.77
	希望校がなく、実施せず。高校生へのインターンシップについては、実効性の検討と高校への働きかけも肝要である。	高校生インターンシップの受け入れは、職業体験の一環として意義があるものだと考えるが、ここ数年希望校がないのは非常に残念である。市内5校の府立高校を中心に周知・広報の工夫を期待したい。大学生との共同プログラムはいかがか。

事業目標

8社会貢献

総合評価点 8.04 前年度 8.53

① 人 材 育 成	a. 博物館実習	
	自己評価点 9	外部評価点 9
	博物館実習生を受け入れ、例年通り、展示実習と実習展における展示解説を行った。講評会・反省会では、学生の意見としては貴重な体験をできたと概ね好評であり、大学からも実習内容は高い評価を得ている。さらに展示の質と展示実習の幅を広げ、内容を充実させていきたい。	実習を受け入れることが館の向上につながるような工夫を展示をさせることを目的にすることで館に何かメリットがあるのだろうか。20代の声を活かす方向にはなっていない。
	b. JICA研修	
	自己評価点 9	外部評価点 9
	研究期間中の様々な事例紹介やデモンストレーションのほか、ディスカッションを通じて、外国人研修員と日本側関係者の双方が博物館の国際事情を知ることで、所属館の事業に活かすための情報収集と技能・意識向上の機会となっている	地域博物館の意義を伝え、再確認する機会を吹田市役所内部に向けての情報発信にも利用してほしい。

c. 学芸員インターンシップ		
自己評価点 7	外部評価点 7	
博物館活動の根幹となる資料に関わる作業を体験すること、来館者との交流は学芸業務を理解する上で貴重な機会となっている。 館にとっても資料整理などの業務が進展することにもなる。大学生は観覧者層としても少ない年齢層であり、業務を通じての交流ではあるが、その世代の博物館や労働に対する価値観に触れることができる機会となっている。	インターンシップを受け入れたことは評価することはできるが、博物館はそこで何を不得、何を失ったのか、その評価をすべきである。 受け入れに際しても博物館実習・ボランティアとの境は明確にしておく必要がある。 客ではなく、仕事として向き合うことができたか？	
② 学 会 、 研 究 会 等 へ の 支 援	a. 学会、研究会への支援	
	自己評価点 7	外部評価点 7.15
	・吹田郷土史研究会と「吹田再見ウォーク」講座及び歴史ウォークを実施した。講演会は博物館と郷土史研究会から1名ずつの講師をだし、研究活動の発表の機会とするとともにその成果の一部を市民に還元する。 博物館単独では実施しづらい野外事業を共同で実施している。	リーダー層だけでなく、次世代の育成も重要。戦略的实施を

事業目標 9 施設の整備・維持管理 総合評価点 5.91 前年度 5.97

① 施 設 の 維 持 ・ 管 理	a. 展示機器の定期点検	
	自己評価点 8	外部評価点 7.85
	定期点検は年2回実施。 特別展示室のガラスケースパッキンを修繕	年2回の定期点検は、展示機器の日常的な運用にあたって最低限必要なものであり、今後とも継続して行ってほしい。 清掃、始業点検の項目が必要か？ 屋外の地層を見る望遠鏡が草木で見えない。日常点検が必要。
	b. 外国語施設案内表示	
	自己評価点 3	外部評価点 3.08
	施設内の外国語表示は進んでいない。	大阪を訪れる外国人旅行者は増加の一途である。来館者の動向を把握しつつ、施設内の必要な外国語表示を進めていくことが求められる。
	c. 機械室の設備更新	
自己評価点 8	外部評価点 7.92	
空調機器設備の修繕を実施 2階ロビーの漏水対策として3階エントランス付近の床面改修工事を実施。	空調機器をはじめ機械室の設備は施設の生命線であり、定期的な点検にもとづき、順次更新を進めて行ってほしい。	
② ア ク セ ス	a. JR岸辺駅前アクセス表示	
	自己評価点 9	外部評価点 8.38
健都のオープンに伴い、JR岸辺駅前にアクセス表示を新設した。従来の駅改札前の掲示は継続し、駅周辺地図上への博物館明記と各所に矢印表記を設置した。	JR岸辺駅前の整備にあわせて、アクセス表示等が新設されたことは評価できる。 念願が果たされた。	

b. 名神高速道路吹田サービスエリアからのアクセスロード				
自己評価点 6	外部評価点 5.15			
博物館とのアクセスロードは進展が期待できないため、サービスエリアと紫金山公園駐車場とを結ぶルート変更を検討する。	博物館にとって、吹田サービスエリアとのつながりは重要であり、実現可能なアクセス・ルートの検討に期待したい。			
③ ビ ジ タ ー セ ン タ ー	a. 紫金山公園ビジターセンターの建設			
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">自己評価点 3</td> <td style="text-align: center;">外部評価点 3.08</td> </tr> <tr> <td>平成21年度に庁内検討委員会において策定された基本構想に基づき、平成34年度設計、35年度建設の予定で実施計画として要求。結果は「査定せず」。紫金山公園ビジターセンターの建設は財政問題があり課題は多いが、引き続き協議、検討。</td> <td>博物館を含めた紫金山公園エリアの活性化のため、その実現に向けて、引き続きの協議を進めていってほしい。 ビジターセンターの建設は博物館の機能を多様化させ活性化させるものとして期待されている。引き続き実現に向けての努力を期待する。 吹田市の自然環境は気候の影響や開発により激しく変化している。いま調査し保全しなければ失われてしまう希少種もある。ビジターセンターの建物建設以前にその内容と保全について、市民団体、市民との協働により、早急に検討を開始し準備すべきと思われる。</td> </tr> </table>	自己評価点 3	外部評価点 3.08	平成21年度に庁内検討委員会において策定された基本構想に基づき、平成34年度設計、35年度建設の予定で実施計画として要求。結果は「査定せず」。紫金山公園ビジターセンターの建設は財政問題があり課題は多いが、引き続き協議、検討。
自己評価点 3	外部評価点 3.08			
平成21年度に庁内検討委員会において策定された基本構想に基づき、平成34年度設計、35年度建設の予定で実施計画として要求。結果は「査定せず」。紫金山公園ビジターセンターの建設は財政問題があり課題は多いが、引き続き協議、検討。	博物館を含めた紫金山公園エリアの活性化のため、その実現に向けて、引き続きの協議を進めていってほしい。 ビジターセンターの建設は博物館の機能を多様化させ活性化させるものとして期待されている。引き続き実現に向けての努力を期待する。 吹田市の自然環境は気候の影響や開発により激しく変化している。いま調査し保全しなければ失われてしまう希少種もある。ビジターセンターの建物建設以前にその内容と保全について、市民団体、市民との協働により、早急に検討を開始し準備すべきと思われる。			

*平成22～26年度は第1次中期計画、平成27年度以降は第2次中期計画。
 *平成24～26年度の評価点は5段階評価、平成27年度以降の評価点は10段階評価。平成22・23年度は大項目の総合評価点のみで、事業ごとの評価点は採点していない。
 *総合評価及び事業ごとの外部評価点数は吹田市立博物館協議会委員13人による個別評価の平均点とした。

平成30年度(2018年度)事業点検・評価詳細資料

1. 資料の収集と保管		過去の総合評価点	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平成30年度総合評価点	5.98
①資料の収集	事業概要	点検項目		指標・目標								
	重点収集資料を中心に資料収集を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 資料の収集方針は確定しているか。 重点収集資料点数 新規収蔵資料点数 		指標・目標値は設定していない。								
平成30年度(2018年度)実績												
[重点収集資料の方針] 博覧会関係資料 大坂画壇関係資料 ニュータウン関係資料 窯業関係資料を重点収集資料とする。 (重点収集資料及び各分野の収集点数は下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。)												
	年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価							評価点
第2次中期計画	H30(2018)	[重点収集資料] 大坂画壇関連資料 1点 [歴史] 33点(資料総数 20,328点) [美術] 68点(資料総数 1,067点)主に西村公朝資料受入による増加 [考古] 79点(資料総数 2,891点) デジタル化に伴う新規登録 [民俗] 31点(資料総数 3,256点) 美術分野において、昨年に続き応接間の大規模壁画「釈尊伝」をはじめとする西村公朝作品の寄贈をうけ、コレクション充実となった。		(10段階) 7	西村公朝資料の寄贈品を継続して受け入れ、着実に資料収集をおこない、コレクションの充実につとめた							(10段階) 7.08
	H29(2017)	[重点収集資料] 大坂画壇関連資料 24点 [歴史] 80点(資料総数 20,295点) [美術] 723点(資料総数 999点)主に西村公朝資料受入による増加 [考古] 122点(資料総数 2,812点) デジタル化に伴う新規登録 [民俗] 21点(資料総数 3,225点) 美術分野において、西村公朝作品の寄贈・寄託を受けることができた。今後も重点収集資料や地域史料の収集に努めていきたい。		(10段階) 7	西村公朝作品の寄贈・寄託を中心に、今後の館の中核となる資料群の受入が大きく進展したことは評価できる。							(10段階) 7.36
	H28(2016)	[重点収集資料] 博覧会資料 1点、大坂画壇関連資料 4点 [歴史] 51点(資料総数 20,215点) [美術] 2点(資料総数 276点) [考古] -6点(資料総数 2,690点) 寄託資料の返却による減 [民俗] 82点(資料総数 3,204点) 今後も資料調査を行い、寄贈、寄託を進めつつ、重点収集資料収集を進めながら他分野資料も積極的に収集。		(10段階) 6	早田家文書など地域の歴史に関連する重要な史料の収集や寄託も着実に進められたことは評価できる。							(10段階) 6.30
	H27(2015)	[重点収集資料] 博覧会資料 16点、大坂画壇関連資料 3点 [歴史] 48点(資料総数 20,164点) [美術] 7点(資料総数 274点) [考古] 391点(資料総数 2,696点) [民俗] 4点(資料総数 3,122点)		(10段階) 6	収集方針に沿いながら重点収集資料では博覧会関係資料を中心に着実に資料収集が進められたと認められる。また、特別展の開催をきっかけに近世吹田村の絵図が寄託されるなど、地域の歴史に関する重要な資料の収集が着実に進められたことは評価できる。							(10段階) 6.46
第1次中期計画	H26(2014)	(「資料収集方針の検討」の項目で点検・評価) [重点収集資料] 博覧会資料 15点、ニュータウン関連資料 1点、大坂画壇関連資料 1点 [歴史] 366点(資料総数 20,116点) [美術] 1点(資料総数 267点) [考古] 0点(資料総数 2,305点) [民俗] 0点(資料総数 3,118点) 収集資料は前年度に続き、近現代史の分野が中心となった。今後とも重点収集資料と手薄な分野の資料を中心に収集を進める必要がある。		(5段階) 3	(「資料収集方針の検討」の項目で評価) 収集方針に沿いながら重点収集資料を中心に近現代史の分野で着実に資料収集が進められた。独自性、普遍性、風土性、進取性、継続性、開放性、学術性、大衆性を踏まえて収集計画を検討して欲しい。							(5段階) 3.0
	H25(2013)	(「資料収集方針の検討」の項目で点検・評価) [重点収集資料] 博覧会資料 3点、大坂画壇関連資料 1点、窯業関連資料 145点 [歴史] 4,304点(資料総数 19,750点) [美術] 1点(資料総数 266点) [考古] 145点(資料総数 2,305点) [民俗] 4点(資料総数 3,118点) 大量の史料を持つ竹中家文書の整理を終えて収集が完了。また、秋季特別展『交通の20世紀』の開催を機に吹田操車場、名神高速道路に関する資料を多数収集することができた。		(5段階) 4	(「資料収集方針の検討」の項目で評価) 収集方針に沿いながら竹中家文書や近現代史の分野で多数の資料が収集されるとともに、秋季特別展『交通の20世紀』開催を契機に吹田操車場や名神高速道路に関する資料が多数寄贈・寄託される等、地域の歴史を知る上で重要な資料の収集が積極的に進められたことは高く評価できる。							(5段階) 3.9
	H24(2012)	(「資料収集方針の検討」の項目で点検・評価) [重点収集資料] 博覧会資料 135点、ニュータウン関連資料 10点 [歴史] 249点(資料総数 15,446点) [美術] 0点(資料総数 265点) [考古] 0点(資料総数 2,160点) [民俗] 4点(資料総数 3,114点) 秋季特別展「ニュータウン半世紀展」に関連して千里ニュータウン関連資料の寄贈を受けた。		(5段階) 3	(「資料収集方針の検討」の項目で評価) 収集方針は特別展に関連して寄贈・寄託が行われていることは評価できるが、日常的に未調査の市内旧家の古文書発掘・整理等は行われていない。これらの業務を担えるのは唯一吹田市立博物館のみであり、館としてその責任を果たす義務がある。							(5段階) 3.9
	H23(2011)	(「資料収集方針の検討」の項目で点検・評価) [重点収集資料] 博覧会資料 52点 [歴史] 873点(資料総数 15,197点) [美術] 1点(資料総数 265点) [考古] 0点(資料総数 2,160点) [民俗] 32点(資料総数 3,110点) 博覧会資料の寄贈・購入が増え、その他は戦争資料。手薄な分野はあるが、これからは量より収集ポイントや質に重点をおく収集時期にきている。		—	(「資料収集方針の検討」の項目で評価) 収集資料数は昨年より減少しているが、重点収集資料である博覧会資料を春季特別展『万博市民展』において市民からの寄贈や購入が行われている。今後は、計画予定の展覧会で、関連する史・資料等の重点的で能動的、目的的な収集活動が必要であり、その対処が望まれる。また、有機的につながる、ジオラマ展示を意識した一括資料の収集を検討してはどうか。							—
	H22(2010)	(「資料収集方針の検討」の項目で点検・評価) [重点収集資料] 博覧会資料 125点、窯業関連資料 9点 [歴史] 141点(資料総数 14,324点) [美術] 2点(資料総数 264点) [考古] 9点(資料総数 2,160点) [民俗] 41点(資料総数 3,078点)		—	(「資料収集方針の検討」の項目で評価) 資料の収集については古写真、フィルムの収集、地域性を示すコレクション形成のための博覧会資料等を積極的に収集している点は評価できるが、歴史資料に片寄りがあり、バランスに欠く。他分野も積極的な収集を進めていく必要がある。							—

② 収蔵資料の保管・管理					
a. 収蔵庫の増築・西村公朝資料収納 (第1次中期計画は「収蔵庫増設の検討」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
収蔵庫を増築し、土器や瓦類を一般収蔵庫から移動させ、西村公朝資料を収納する。		<ul style="list-style-type: none"> ■収蔵庫増設事業は完了したか。 ■西村公朝資料の受け入れはできたか。 		■平成29年度末までに収蔵庫増設を完了し、西村公朝資料の寄贈・寄託を受ける。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点	
H30 (2018)	平成29年度に事業完了のため点検・評価せず。	(10段階) —	平成29年度に事業完了のため評価なし。	(10段階) —	
H29 (2017)	【収蔵庫増設】 平成30年2月26日に収蔵庫増設工事が竣工し、3月14日に一般収蔵庫の埋蔵文化財を新収蔵庫に移動した。事業完了。 【西村公朝資料】 平成30年3月30日に寄贈(682点)・寄託(17点)を受け、収納した。	(10段階) 10	長期に取り組んできた収蔵庫の増設が完了し、収蔵計画にもとづき埋蔵文化財の移転や西村公朝資料の収蔵など、資料の収蔵をめぐる課題に一区切りを付けることができたことは高く評価できる。 一方で、土器や瓦類を一般収蔵庫から移動させたことはマイナスである。	(10段階) 9.90	
H28 (2016)	【収蔵庫増設】 収蔵庫増設の予算を要求し、認められた。29年度に増設工事を実施予定。また、本市環境部南吹田庁舎に埋蔵文化財・民具の一部を一般収蔵庫より移動。 【西村公朝資料】 西村公朝資料は、吹田市、当館ともに収蔵資料の特性に新分野を開き公開・活用の面でも重要。収蔵庫増設に伴い、西村作品収集は前進。	(10段階) 7	収蔵庫の増築については、西村公朝作品受入のための収蔵庫増設予算が確保され、平成29年度に増設工事が実施される見通しがついたことは、長期間の取り組みが結実したものとして評価できる。	(10段階) 7.50	
H27 (2015)	【収蔵庫増設】 収蔵庫増設は実施計画で必要性が認められたが、予算が認められず、継続して検討していくべき課題である。 【西村公朝資料】 西村公朝資料は保管していく収蔵スペースの不足が解決できず、収集が進捗していない。	(10段階) 6	西村公朝作品の受入のための保管場所の確保という位置づけで収蔵庫増設の要求が実施計画レベルで認められたことは評価できる。今後は予算確保に向けてさらなる検討が課題となる。	(10段階) 6.23	
第1次中期計画	H26 (2014)	(「収蔵庫増設の検討」の項目で点検・評価) 収集資料を保管していく収蔵スペースの不足が解決できていない。その点で博物館に新たな特徴をもたらす可能性があると考えられる西村公朝資料の収集が進捗していない。収蔵庫の増設は継続して検討していくべき課題である。	(5段階) 2	(「収蔵庫増設の検討」の項目で評価) 西村公朝資料は、館蔵コレクションを充実、新たな特色を作り出す上で博物館に不可欠な資料群である。その受入のためにも収蔵庫の拡充は継続していかなければならない課題である。案の提示が予算獲得の第一歩であろう。	(5段階) 2.3
	H25 (2013)	(「収蔵庫増設の検討」の項目で点検・評価) 収蔵庫の増設は今後の財政的見通しを考慮しながら計画を継続的に検討する。	(5段階) 2	(「収蔵庫増設の検討」の項目で評価) 西村公朝資料をはじめ、新たな資料の収集は博物館事業の根幹をなすものであり、そのために必要な収蔵庫の拡充は今後とも継続して取り組まなければならない重要課題である。	(5段階) 2.3
	H24 (2012)	(「収蔵庫増設の検討」の項目で点検・評価) 収蔵庫の増設は今後の財政的見通しを考慮しながら計画を継続的に検討していくべき課題である。	(5段階) 2	(「収蔵庫増設の検討」の項目で評価) 収蔵庫の拡充は財政当局、議会筋、関係文化団体等への積極的な働きかけが継続的に必要と思われる。	(5段階) 2.5
	H23 (2011)	(「収蔵庫増設の検討」の項目で点検・評価) 収蔵資料スペースの不足が重点資料収集に支障をきたしている。特に西村公朝資料は館蔵コレクションの性格を一変する可能性があり、収集を前提に保管場所の確保について継続的に検討した。その最適な保管場所となる収蔵庫の増設は今後の財政的見通しを考慮しながら計画を継続的に検討する。	—	(「収蔵庫増設の検討」の項目で評価) 西村公朝資料についてはその価値を内外にアピールし、そのための収蔵スペース確保に努力していただいたい。また、新規資料収集のためにも収蔵庫の増設に関する予算措置等に早期に対応すべきである。	—
	H22 (2010)	(「収蔵庫増設の検討」の項目で点検・評価) 平成23年度に収蔵庫(器具庫スペースも含む)拡幅を計画、実施計画に提出。当初予算では「不実施」と査定。	—	(「収蔵庫増設の検討」の項目で評価) 収集された資料は適切な環境で保存され、広く公開していくことが必要である。そのためにも収蔵スペースの確保は重要な課題であり、西村公朝資料の収蔵のためにも収蔵庫の拡幅を是非実現してほしい。	—

b. 文化財の虫害対策実施及び研究 (第1次中期計画は「収蔵庫の環境維持管理」及び「資料の燻蒸」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
文化財の虫害対策について環境法などの燻蒸の最新情報を研究し、将来計画に備える。		■収蔵庫の環境が良好に保たれているか。 ■虫害対策の最新情報を収集しているか。		■新規収集資料燻蒸回数(2回/年) ■収蔵庫燻蒸(特別収蔵庫・一般収蔵庫)(1回/3年) ■館内環境調査回数(2回/年) *館内環境調査は収蔵庫燻蒸実施年は行わない。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	収蔵庫燻蒸 12月14日～18日 新規収集資料燻蒸 8月29日～31日、2月20日～22日(2回) 新規収集資料を対象に年2回の燻蒸庫燻蒸と、3年に1度の収蔵庫全体の燻蒸を実施し、良好な結果を得ている。	(10段階) 8	新規収集資料に関して年2回の燻蒸庫燻蒸が実施され、また収蔵庫燻蒸についても予定どおり3年に1度の燻蒸が実施された。全体として、適切な虫害対策がおこなわれているといえる。	(10段階) 8
	H29 (2017)	新規収集資料燻蒸 6月7日～11日、10月4日～6日(2回) 西村公朝資料燻蒸 3月1日～3日、3月15日～17日(2回) 館内環境調査 6月27日～7月12日、10月17日～11月1日(2回) 新規収集資料対象に燻蒸庫燻蒸を年2回実施。29年度は収蔵庫燻蒸を未実施年度のため、館内の棲息昆虫・黴菌等のモニター調査を2回実施して良好な状態であった。また、西村公朝作品収納に伴う燻蒸を2回行った。	(10段階) 8	新規収集資料および西村公朝資料に対して年2回の燻蒸が実施され、館内モニター調査も2回実施され、良好な状態が保たれていることが認められる。現在のところエキヒュームは有効であるようだが、効果を再検証し、今後の代替薬剤の検討も進めていくべきである。	(10段階) 8.09
	H28 (2016)	新規収集資料燻蒸 2月9日～11日、3月8日～10日(2回) 館内環境調査 12月21日～1月7日、3月10日～24日(2回) 新規収集資料対象に年2回燻蒸庫燻蒸を実施。28年度は収蔵庫燻蒸を未実施年度であることから館内の棲息昆虫等のモニター調査を2回実施、良好な状態。	(10段階) 8	資料の虫菌害対策について、平成28年度においては収蔵庫燻蒸は実施されなかったが、館内の棲息有害虫・浮遊菌・カビに関するモニター調査が2回実施され、良好な状態が保たれていることが認められる。	(10段階) 8.00
	H27 (2015)	収蔵庫燻蒸 3月25日～29日 新規収集資料燻蒸 2月4日～6日、3月10日～12日(2回) 新規収集資料を対象に年2回の燻蒸庫燻蒸と、3年に1度の収蔵庫全体の燻蒸を実施し、良好な結果を得ている。	(10段階) 8	新規収集資料に対して年2回の燻蒸庫燻蒸が実施され、また3年に1回の収蔵庫燻蒸も実施されるなど、良好な収蔵環境が保たれていると認められる。	(10段階) 7.69
第1次中期計画	H26 (2014)	(「収蔵庫の環境維持管理」及び「資料の燻蒸」の項目で点検・評価) 新規収集資料燻蒸 7月8日～10日、2月18日～20日(2回) 館内環境調査 7月15日～30日、11月27日～12月12日(2回) 新規収集資料を対象に年2回の燻蒸庫燻蒸と、館内が資料保存に適切な環境を維持できているかどうかについて館内環境維持管理モニター調査を実施し、良好な結果を得ている。	(5段階) 5	(「収蔵庫の環境維持管理」及び「資料の燻蒸」の項目で評価) 新規収集資料に対する2回の燻蒸庫燻蒸と、環境モニター調査が確実に実施されており、良好な収蔵環境が保たれていると認められる。	(5段階) 4.6
	H25 (2013)	(「収蔵庫の環境維持管理」及び「資料の燻蒸」の項目で点検・評価) 新規収集資料燻蒸 2月23日～25日、2月19日～21日(2回) 館内環境調査 12月21日～1月8日、3月11日～25日(2回) 燻蒸庫燻蒸2回実施。館内環境維持管理モニター調査を2回実施し、おおむね良好な結果であった。	(5段階) 4	(「収蔵庫の環境維持管理」及び「資料の燻蒸」の項目で評価) 燻蒸庫燻蒸および館内モニター調査が定期的に行われており、適切な環境維持が実現されているといえる。	(5段階) 4.1
	H24 (2012)	(「収蔵庫の環境維持管理」及び「資料の燻蒸」の項目で点検・評価) 収蔵庫燻蒸 7月6日～10日 新規収集資料燻蒸 2月23日～25日、3月14日～16日(2回) 新規収集資料を対象に年2回の燻蒸庫燻蒸と、3年に1度の収蔵庫全体の燻蒸を実施し、良好な結果を得た。	(5段階) 4	(「収蔵庫の環境維持管理」及び「資料の燻蒸」の項目で評価) 毎年の新収集品燻蒸事業とともに数年ごとに史資料等を展示する展示室の燻蒸作業が必要ではないだろうか。	(5段階) 4.0
	H23 (2011)	(「収蔵庫の環境維持管理」及び「資料の燻蒸」の項目で点検・評価) 新規収集資料燻蒸 11月13日～15日、3月28日～31日(2回) 館内環境調査 7月10日～27日、10月12日～11月1日(2回) モニター調査は2回ともカビ、菌の検出はなく、良好。10月には3階事務室、特別展示室にてゴキブリを多数捕獲。対応策として12月に殺虫駆除作業を実施した。燻蒸庫を新燻蒸剤エキヒューム対応の装置へ改造した。	—	(「収蔵庫の環境維持管理」及び「資料の燻蒸」の項目で評価) 定期的に燻蒸作業を実施し、虫菌害の防止が確実に行われている。また、新たな燻蒸剤であるエキヒューム対応の装置への改造を早期に実施した点は評価できる。	—
	H22 (2010)	(「収蔵庫の環境維持管理」及び「資料の燻蒸」の項目で点検・評価) 新規収集資料燻蒸 7月6日～8日、1月12日～14日(2回) 館内環境調査 8月6日～20日、11月5日～19日(2回) 8月には一般収蔵庫と第2展示室で害虫を捕獲。11月には捕獲害虫はなし。黴菌は微少で概ね良好。平成23年度に燻蒸剤エキヒュームへの装置改良を検討。	—	(「収蔵庫の環境維持管理」及び「資料の燻蒸」の項目で評価) 収蔵庫の環境維持管理は適切になされ、アイオガード代替剤(エキヒューム)への移行もスムーズに進んでいる。今後は環境法に基づく燻蒸について研究を進めていただきたい。	—

③ データベースとその公開					
a. 資料のデジタル化 (第1次中期計画は「資料記録のデジタル化」、「図書の整理・デジタル登録」及び「古写真の整理・デジタル化」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
資料のデジタル化を進める。		<ul style="list-style-type: none"> ■資料のデジタル化は進んでいるか。 ■各分野のデジタル化点数、デジタル化率 		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	歴史 デジタル化総点数 3,050点、デジタル化率 15% 美術 デジタル化総点数 313点、デジタル化率 29% 考古 デジタル化総点数 1683点、デジタル化率 58% 民俗 デジタル化総点数 2,415点、デジタル化率 67% 資料のデジタル化は、全分野で進展がみられた。特にデジタル化率が低いことが課題であった歴史資料で進捗がみられた。まだまだ館蔵資料全体としては低調である。引き続き対応策を講じる必要がある。	(10段階) 7	歴史資料を中心にデジタル化の進捗がみられたが、館全体では依然としてデジタル化の進展は低調であり、いっそうの取り組みが求められる。	(10段階) 6.77
	H29 (2017)	歴史 デジタル化総点数 2,215点、デジタル化率 10% 美術 デジタル化総点数 280点、デジタル化率 28% 考古 デジタル化総点数 1,575点、デジタル化率 56% 民俗 デジタル化総点数 2,369点、デジタル化率 66% 資料のデジタル化は、考古資料でやや進捗があるが、館蔵資料全体としては低調である。引き続き対応策を講じる必要がある。	(10段階) 6	考古資料のデジタル化にやや進捗がみられたものの、館全体としては低調な状態であり、さらなる取り組みが求められる。	(10段階) 6.18
	H28 (2016)	[資料デジタル化進捗度] 歴史 10%、美術 30%、考古 16%、民俗 75% 資料デジタル化は民俗資料以外の各分野は進捗せず。各分野で個別作成のデジタル目録の統合を引き続き検討。	(10段階) 6	新規の収蔵資料の整理・登録は進んでおり、分野ごとのデジタル目録は個別には作成され、図書のデジタル化とホームページでの公開は進捗しているが、新規に収蔵された資料のデータベース化に遅れがみられる。	(10段階) 6.30
	H27 (2015)	[資料デジタル化進捗度] 歴史 10%、美術 28%、考古 8%、民俗 70% デジタル化の進捗度が低く、対応が課題である。	(10段階) 6	基本的な作業はしっかり行われ、新規収蔵資料の整理・登録は確実に進められたが、デジタル化についてはあまり進捗がみられず、今後の課題といえる。	(10段階) 6.08
第1次中期計画	H26 (2014)	(「資料記録のデジタル化」の項目で点検・評価) [資料デジタル化進捗度] 歴史 10%、美術 25%、考古 3%、民俗 58% 収蔵資料のデジタル化の進捗度が低く、対応が課題である。	(5段階) 3	(「資料記録のデジタル化」の項目で評価) 新規収蔵資料の整理・登録はおおむね進められているが、デジタル化についてはあまり進捗がみられず、今後の課題といえる。	(5段階) 2.7
	H25 (2013)	(「資料記録のデジタル化」の項目で点検・評価) [資料デジタル化進捗度] 歴史 10%、美術 25%、考古 3%、民俗 55% 資料の登録作業はおおむね進んでいるが、デジタル化の進捗度が低く、対応が課題である。	(5段階) 3	(「資料記録のデジタル化」の項目で評価) 新規収蔵資料の整理・登録は、歴史の大量資料を含めて着実に進められており、評価できる。そのなかで収蔵資料のデジタル化が低迷している。資料の公開。活用のためにも収蔵資料のデジタル化・データベース化を進めていくことが大きな課題といえる。	(5段階) 2.7
	H24 (2012)	(「資料記録のデジタル化」の項目で点検・評価) [資料デジタル化進捗度] 歴史 7%、美術 23%、考古 0%、民俗 43% デジタル化の進捗度が低く、対応が課題である。	(5段階) 2	(「資料記録のデジタル化」の項目で評価) 基礎的、基本的な資料のデータベース化の作業が滞っている。その日常的な作業化と効率化と促進化を図るためにホームページのコンテンツに加えて逐次、更新し、情報発信ツールに高めていく必要がある。	(5段階) 2.5
	H23 (2011)	(「資料記録のデジタル化」の項目で点検・評価) [資料デジタル化進捗度] 歴史 5%、美術 2%、考古 0%、民俗 43% 資料の登録作業は順調に進んでいるが、デジタル化率は低い。データベース化への取組は財政問題があり、進んでいない。	(5段階) -	(「資料記録のデジタル化」の項目で評価) 資料の整理、登作業に関するデジタル化への進捗度は昨年と比べると上がっているが、全体的に低い。	(5段階) -
	H22 (2010)	(「資料記録のデジタル化」の項目で点検・評価) [資料デジタル化進捗度] 歴史 3%、美術 0%、考古 0%、民俗 41% デジタル化の進捗度が低く、対応が課題である。	(5段階) -	(「資料記録のデジタル化」の項目で評価) 資料のデータのデジタル化に着手したことは一定の評価ができるが、現代の情報社会においては急務の課題であり、その進捗は「博情報館」のメルクマークとあって過言ではない。歴史、考古、美術の進捗度が低く、課題を残している。	(5段階) -

③ データベースとその公開					
b. 資料データベースの整備・検討 (第1次中期計画は「資料データベース」及び「蔵書データベースの公開・閲覧・複写」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
資料のデータベースの整備を図書館データベースとの連携を視野に検討する。		<ul style="list-style-type: none"> ■資料データベースの公開に向けて準備は進んでいるか。 ■図書館との協議は行っているか。 		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点	
第2次中期計画	H30 (2018)	図書館との協議を含めて資料データベースの整備は進展していない。これまでの計画の遅滞の原因を明らかにし、データベースの必要性や現在の計画への見直しを行い、改めて実効性のある計画を策定していく必要がある。	(10段階) 2	博物館の情報発信にとって、資料のデータベース化とその公開は中核をなすものであり、実現可能な計画を早期に策定していくことが求められる。	(10段階) 2.08
	H29 (2017)	平成29年度は図書館との協議は行っていない。今後協議を再開し、引き続き検討する。	(10段階) 2	図書館との協議に進捗がみられない。引き続き将来を見据えた検討が必要である。	(10段階) 2.55
	H28 (2016)	平成28年度は協議までには至らなかった。今後協議を再開し、引き続き検討。	(10段階) 2	図書館データベースとの連携の問題がベースにあるものの、博物館資料のデータベース化とその公開は博物館の情報発信力を高めていくための基盤になるものであり、引き続き将来を見据えた検討が必要。	(10段階) 2.70
	H27 (2015)	資料目録のデータの遅延や図書館ホームページのサーバー機の更新などのため、平成27年度は協議までには至らなかった。	(10段階) 4	データベースの公開は、博物館の情報発信の柱となるものであり、博物館の将来を見据えながらの検討が引き続き求められる。	(10段階) 4.46
第1次中期計画	H26 (2014)	(「資料データベース」及び「蔵書データベースの公開・閲覧・複写」の項目で点検・評価) データベースについては市立図書館の情報公開システムの更新を利用して博物館データベースを構築する可能性をさぐっている。今後とも公開に向けて努力していく必要がある。	(5段階) 3	(「資料データベース」及び「蔵書データベースの公開・閲覧・複写」の項目で評価) 収蔵資料のデジタル化は博物館の情報発信力を高めていくためにも必要であり、また、資料の公開方法も含めてデータ利用者の博物館リテラシーに向けた明確な目標、利用効果と影響を考えた方針を示す必要がある。	(5段階) 2.7
	H25 (2013)	(「資料データベース」及び「蔵書データベースの公開・閲覧・複写」の項目で点検・評価) データベース化への取組は財政問題があり進んでいないが、情報公開の基本でもあり、今後とも検討していく必要がある。	(5段階) 3	(「資料データベース」及び「蔵書データベースの公開・閲覧・複写」の項目で評価) 博物館にはこれまで収集してきた館蔵品のほか古写真等多くの資料データが集積されているが、それらのデータベース化とその公開に関して進捗がみられない。システムの完成を待たなくても、需要の高いところから順次公開できるよう、引き続き一層の努力を期待したい。	(5段階) 2.7
	H24 (2012)	(「資料データベース」及び「蔵書データベースの公開・閲覧・複写」の項目で点検・評価) データベース化への取組は財政問題があり進んでいない。情報公開の基本でもあり、検討を要するところである。	(5段階) 2	(「資料データベース」及び「蔵書データベースの公開・閲覧・複写」の項目で評価) 基礎的、基本的な資料のデータベース化の作業が滞っている。その日常的な作業化と効率化と促進化を図るためにホームページのコンテンツに加えて逐次、更新し、情報発信ツールに高めていく必要がある。	(5段階) 2.4
	H23 (2011)	(「資料データベース」及び「蔵書データベースの公開・閲覧・複写」の項目で点検・評価) 資料データベースは調査中。蔵書データベースは博物館ホームページにて公開しているが、利用率は低い。	—	(「資料データベース」及び「蔵書データベースの公開・閲覧・複写」の項目で評価) デジタル化及びデータベースはこれからの博物館資料の情報管理、情報公開の基本となるものであり、一層の努力が必要である。	—
	H22 (2010)	(「資料データベース」及び「蔵書データベースの公開・閲覧・複写」の項目で点検・評価) 資料データベースは調査中。蔵書データベースは博物館ホームページにて公開しているが、利用率は低い。	—	(「資料データベース」及び「蔵書データベースの公開・閲覧・複写」の項目で評価) 資料のデータのデジタル化に着手したことは一定の評価ができるが、現代の情報社会においては急務の課題であり、その進捗は「博情報館」のメルクマークといって過言ではない。歴史、考古、美術の進捗度が低く、課題を残している。	—

2. 調査研究	過去の総合評価点	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平成30年度総合評価点	7.22
		3.40	3.70	3.33	3.50	3.17	7.36	7.53	7.20		

①館独自の自主研究事業	a. 館の目標に基づく調査研究 (第1次中期計画は「調査研究事業の展開」・「調査研究」)										
	事業概要			点検項目				指標・目標			
	館の目標に基づく調査研究事業を展開する。			■研究成果が館の活動に反映されたか。				常設展示リニューアルに向けて最新の学会等の知見・研究成果を取り入れた調査を行う。次年度からの橋本家文書(東京在住)の完了、早田家文書、原町(片山村)文書の継続調査。山田村文書調査。			
	平成30年度(2018年度)実績										
	歴史資料については、橋本家文書の過去の文書目録との照合作業は完了し、新たに未確認の資料(段ボール約5箱)が確認できた。原町文書の調査カード作成、データ入力終了。早田家文書、山田村文書については調査カード作成中である。また、1970年大阪万博やその他国内外の博覧会資料の調査を実施し展示や講演活動などに反映させた。市内出土の墨書土器・卒塔婆などの資料集成に着手した。集成後の分析は次年度以降の課題である。西村公朝作品については将来の常設化や企画展をみすえ、館蔵作品の周辺まで調査する。吹田のすまい・民話(怪談)分布調査は講演活動に反映させた。										
	年度	実績・自己点検・自己評価				評価点	外部評価				評価点
	H30(2018)	[地域資料調査 11件] 早田家(吹田村)文書 原町(片山村)文書 山田村文書、橋本家(吹田村)文書・市内出土文字資料調査 吹田のすまい・民話(怪談)分布調査 西村公朝資料 西邨家資料 1970年大阪万博やその他国内外の博覧会資料の調査				(10段階) 7	11件の地域資料調査が行われ、調査カードの作成やデータ入力等も着実に進んでいる。展示関連の資料調査も行われ、展示や講演に有効に利用された。これらは評価できる。ただし、市内に眠る古文書の所在調査は遅れている。古文書はたえず廃棄・散逸の危機にさらされており、計画的・積極的な所在調査を行わねば取り返しのつかないことになりかねない。展示などに較べると目立たない地味な活動ではあるが、館活動の柱の一つとして積極的に位置づける必要がある。				(10段階) 7.08
	H29(2017)	[地域資料調査 9件] 豊一小学校所蔵室戸台風関連資料調査、千里ニュータウン情報館所蔵ニュータウン資料調査、北大阪の祭礼、西村公朝資料調査、西邨家資料調査、早田家文書調査、原町(片山村)文書の調査、大塩平八郎関連資料の調査 地域資料調査は企画展示準備におけるものが多いが、他施設所蔵の室戸台風やニュータウン等の新出資料を調査できた。				(10段階) 7	29年度の地域資料調査は9件で、例年に較べると多い件数である。これは精力的な資料調査活動が行われたことを物語っており、評価できる。また、早田家文書や原町(片山村)文書の整理作業も、ますます進んでいるといえる。企画展示準備のための調査の中で新たな資料が発掘され、当該テーマの研究の進展に寄与することになったことも意義深い。ただ、地域資料調査は展示関係のものに偏っており、市内の旧家等に眠っている古文書の調査や目録作成などは遅れている。吹田市域に限らないが、旧家が伝えてきた古文書類はたえず廃棄・散逸の危機にさらされており、館として計画的・積極的な史料所在調査と整理を進めていく必要がある。今後の評価にあたっては、館の目標の提示をしていただきたい。				(10段階) 6.55
	H28(2016)	[地域資料調査 5件] 大阪万博関連資料、山田別所史料、早田家文書、大坂三大大火(妙智焼・天保の大火)、原町(片山村)文書の調査 調査研究は主に企画展、特別展などの展示事業や講座などの教育普及事業の準備について実施されたが、地域資料調査においては、山田別所史料や原町(片山村)文書など新たな史料の掘り起こしも行われた。				(10段階) 7	早田家文書、山田別所史料、原町(片山村)文書など、地域史料の収集・調査・整理を行ったことは評価できるが、市内の旧家などに眠っている近世・近代史料を積極的・計画的に発掘・調査するという点ではまだまだ不十分といわざるを得ない。館としては未発掘史料の収集・調査・整理・保存を行うことの責任を積極的・計画的に果たす義務がある。				(10段階) 7.10
	H27(2015)	[地域資料調査 3件] 浄土真宗寺院の講行事、岸部の開発史、京屋製唐箕 出前講座や依頼に基づく地域資料調査を実施した。				(10段階) 6	市内の旧家等に眠っている古文書類の積極的発掘という試みがなされていない。1970年代の『吹田市史』編纂をきっかけに多数の史料が発見されたが、未調査・未確認のものも多いはずである。これらの史料は廃棄や散逸の危機にさらされており、早急に調査を行うとともに収集・保存の手立てを講じる必要がある。これらの業務は、市域の歴史を明らかにし、展示に反映させる上でも、また、廃棄・散逸を防ぐ上でも重要であり、是非主体的積極的に進めていただきたい。事業計画に「未調査史料の調査・収集」を盛り込むべきである。				(10段階) 6.31
H26(2014)	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で点検・評価) [地域資料調査 8件] 西尾家書簡調査、公儀御掬御触其外色々、悪水井路関連史料調査、亀岡街道道標調査、吹田の地名調査、戦時下の吹田に関する調査、イギリス外交官とスイド村に関する調査、千里山住宅地に関する調査 調査研究は主に企画展、特別展などの展示事業や講座などの教育普及事業の準備について実施された。				(5段階) 3	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で評価) 調査・研究は企画展示関連のものが中心で、未調査の市内旧家の古文書調査や目録作成などがおろそかになっている。地味で多大な労力を必要とする作業であるが、重要な業務であるので主体的・積極的に進めていただきたい。				(5段階) 3.2	
H25(2013)	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で点検・評価) [地域資料調査 7件] 西尾家・中西家・佐井寺美術品調査、悪水井路関連史料調査、はきもの資料調査、五反島遺跡出土瓦調査、吉志部瓦窯跡・七尾瓦窯跡出土瓦調査、大阪万博開催に至る経緯、アーネスト・サトウとスイド村に関する調査 調査研究は主に企画展、特別展などの展示事業や講座などの教育普及事業の準備について実施された。				(5段階) 3	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で評価) 未調査の市内旧家の古文書調査や目録作成などがおろそかになっている。地味で多大な労力を必要とする作業であるが、市域の歴史を明らかにし、展示に反映させる上でも、また、資料の散逸を防ぐ上でも、きわめて重要であり、積極的に進めていただきたい。				(5段階) 3.7	
H24(2012)	(「館独自の調査研究事業」の項目で点検・評価) [地域資料調査 5件] 西尾家所蔵美術工芸調査、蔵人稲荷神社所蔵美術資料調査、千里ニュータウン関連資料調査、吹田市内小中学校校歌調査、触れる美術資料に関する調査 調査研究は主に企画展、特別展などの展示事業や講座などの教育普及事業の準備について実施された。				(5段階) 3	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で評価) 調査・研究が企画展示関連のものが中心で、古文書調査や目録作成等は疎かになっている。古文書調査や目録作成は、地域学習にもつながる有益な事業であることをもっと認識する必要がある。				(5段階) 3.3	
H23(2011)	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で点検・評価) [地域資料調査 5件] アーネスト・サトウとスイド村に関する調査、万博を考える会に関する調査、西尾家所蔵美術工芸調査、蔵人稲荷神社所蔵美術資料調査、全国の小規模ミュージアムに関する調査				—	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で評価) 館が所蔵・保管している古文書の目録作成やそれをふまえた研究はどの程度進められているのか。また、未調査の市内旧家の古文書調査や目録作成なども地味で多大の労力を必要とする作業であるが、市域の歴史を明らかにし、展示に反映させ、未来の市民生活へも身近なものとして伝承する上でも基礎的なものとなろう。また、資料の価値付けは未来に託さなければならないようなものであっても資料の散逸を防ぐ上でも極めて重要である。				—	
H22(2010)	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で点検・評価) [地域資料調査 3件] 早田家・竹中家文書調査、西村公朝資料・作品調査				—	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)				—	

b. 常設展示更新の調査研究 (第1次中期計画は「調査研究事業の展開」・「調査研究」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
常設展示を更新させるための館蔵資料調査の推進		■研究成果が展示更新に反映されたか。		常設展示リニューアルに向けて最新の学会等の知見・研究成果を取り入れた調査を行う。 コーナー更新のための資料収集・調査	
平成30年度(2018年度)実績					
<p>下記「実績・自己点検・自己評価」に記載 主に岸部地域の弥生時代～古代にかけての土地利用に関する調査を行ったが、具体的な展示への反映は次年度以降の課題である。その他、常設展示リニューアルに向けて、各分野ごとに展示内容を再検討・再構成するための調査に着手した。美術資料については西村公朝の資料調査や展覧会開催が、常設展示の更新や増設計画のある展示室設計につながる</p>					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	<ul style="list-style-type: none"> ・続日本紀、三代記など購入資料の調査 ・神崎川流域の遺跡に関する調査 ・大坂画壇関係の収蔵資料調査 	(10段階) 7	常設展示更新のための調査研究は、一定程度実施され、成果を上げたといえるが、実際の展示更新に反映されるまでには至っておらず、その点、課題を残している。	(10段階) 6.62
	H29 (2017)	<ul style="list-style-type: none"> ・アサヒビールに関する歴史の展示更新に係る資料調査 ・千里山住宅地及びその周辺の歴史の展示更新に係る資料調査 ・吹田への空襲等戦争に関する歴史の展示更新に係る調査 <p>その他、常設展示リニューアルに向けて、各分野ごとに展示内容を再検討・再構成するための調査に着手した。</p>	(10段階) 7	29年度は、アサヒビール、千里山住宅、吹田空襲等について、常設展示更新のための館蔵資料調査が行われたこと自体は評価できるが、それがどのような形で展示の更新につながったのか不明である。従って、この点について評価を行うことはできない。 年次ごとの実績にも著しい片寄りがみられる。展示更新の目標を定め、計画性をもって調査を進めるべきである。	(10段階) 7.18
	H28 (2016)	常設展示の更新に関する調査では、「さわる展示」の常設化によって、各分野において、対応可能な資料について調査が行われた。	(10段階) 7	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 6.90
	H27 (2015)	<ul style="list-style-type: none"> ・吹田操車場遺跡出土の七尾瓦窯と吉志部瓦窯焼成瓦調査 ・近現代資料における回想法との関連調査 	(10段階) 6	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 6.23
第1次中期計画	H26 (2014)	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で点検・評価) <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサル・ミュージアム・資料にふれる学習効果 ・資料の防虫防菌処理 <p>調査研究は主に企画展、特別展などの展示事業や講座などの教育普及事業の準備について実施された。調査研究成果を企画展に反映させ、中学校の社会科教材を開発、触れる体験展示を進めた。</p>	(5段階) 3	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.2
	H25 (2013)	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で点検・評価) <ul style="list-style-type: none"> ・諸外国の博物館 ・博物館教育理論とその実践化に関する調査 <p>調査研究は主に企画展、特別展などの展示事業や講座などの教育普及事業の準備について実施された。調査研究成果を企画展に反映させ、中学校の社会科教材を開発、触れる体験展示を進めた。</p>	(5段階) 3	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.7
	H24 (2012)	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で点検・評価) <ul style="list-style-type: none"> ・市内遺跡の古環境に関する調査 ・近世唐箕調査 ・ひな人形調査 	(5段階) 3	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.3
	H23 (2011)	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で点検・評価) <ul style="list-style-type: none"> ・全国の小規模ミュージアムに関する調査 	—	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で評価) 調査・研究事業も館にとって必要であり、館全体の力の配分を念頭に置きつつ、これら市民サービスのあり方を考えることも重要ではないか。事業計画として、「調査研究計画の検討」を掲げているが、23年度は「検討中」という結果になっている。共同研究もふまえて、なるべく早く調査研究計画の大綱を決定する必要がある。	—
	H22 (2010)	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で点検・評価) 当該項目に相当する内容での自己点検・自己評価は行っていない。	—	(「調査研究事業の展開」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	—

c. 特別展・企画展に関する調査研究 (第1次中期計画は「調査研究事業の展開」・「調査研究」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
特別展・企画展に関する調査研究を実施。		■研究成果が展示内容に反映されたか。		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載					
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点	
第2次中期計画	H30 (2018)	<ul style="list-style-type: none"> ・大塩平八郎関係資料調査 ・吹田の水辺にすむ動植物(夏季展示) ・吹田操車場遺跡・明和池遺跡関連調査 両遺跡の検出遺構・出土遺物に関する分析・周辺地域との比較調査を行った ・雛人形関係資料調査 博物館実習展に際し館蔵資料調査 ・西村公朝資料調査 西村家が所蔵していた西村公朝作品およびその周辺関連資料について調査を行った。 ・大坂画壇関係資料調査 ・千里ニュータウン・その他国内外のニュータウン資料調査 ニュータウンに関する調査研究を実施し、吹田市立博物館&パルテノン多摩歴史ミュージアム連携展示「ニュータウン誕生～千里&多摩ニュータウンの都市計画と人々～」の連携相手であるパルテノン多摩歴史ミュージアムとの調整を図りながら展示に反映させた。 ・貴志康一関係資料調査 甲南学園貴志記念室所蔵資料を中心とした貴志康一関連資料の調査を行った。 	(10段階) 8	特別展・企画展に関する調査研究が精力的に行われ、その成果が展示に反映されたことは評価できる。なお、昨年度の外部評価コメントで、「館が作成した「実績・自己点検・自己評価」は、調査事実を記すのみである。展示によっては、調査研究では成果があったものの、それを十分展示に生かすことができなかつたというケースもあろう。その場合、なぜ生かせなかつたのかについて自己点検する必要がある」と記した。この点については、今回の「実績・自己点検・自己評価」は一定程度改善が見られ、評価できる。	(10段階) 8
	H29 (2017)	室戸台風関連資料調査、北大阪の祭礼調査、西村公朝資料調査、千里ニュータウン関連資料調査、吹田操車場遺跡出土遺物調査、貴志康一関係資料調査(計6件)	(10段階) 8	特別展・企画展に関する調査研究が精力的に行われ、その成果が展示に反映されたことは評価できる。この項目は、これらの調査研究の成果が展示内容に生かされたのかどうかについて評価を行うものであるが、館が作成した「実績・自己点検・自己評価」は、調査事実を記すのみである。展示によっては、調査研究では成果があったものの、それを十分展示に生かすことができなかつたというケースもあろう。その場合、なぜ生かせなかつたのかについて自己点検する必要がある。外部評価者としては、そのような自己点検あるいは自己評価がなされていないことが問題であることを指摘しておきたい。また、企画展示の展示計画との関連が不明瞭である。常設展示に関する調査と同様、計画的な調査を行う必要がある。	(10段階) 7.82
	H28 (2016)	田園都市関連資料調査、千里山住宅地資料調査、大坂画壇関係資料調査、五反島遺跡出土遺物調査、室戸台風関連資料調査、北大阪の祭礼調査、千里ニュータウン関連資料調査、大塩平八郎関係資料調査(計8件)	(10段階) 8	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 7.90
	H27 (2015)	西村公朝修復文化財・修理記録、絵図調査、さわる展示のあり方に関する調査、千里山住宅地資料調査、昭和時代の家電製品に関する調査、五反島遺跡出土遺物調査、大坂画壇関係資料(計7件)	(10段階) 8	企画展示の準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』、『館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。	(10段階) 8.00
	H26 (2014)	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で点検・評価) 西尾家所蔵書画・茶道具・着物調査、紫金山公園にいた動植物の調査、釈迦ヶ池水利利用の調査、中国古代瓦・朝鮮半島古代瓦調査、市内出土古代瓦調査、西村公朝資料の調査、千里ニュータウン入居当初の宗教や生活に関する調査、大阪万博各国パビリオン展示品の地元吹田市への寄贈に関する調査(計8件)	(5段階) 3	(「館独自の自主研究事業」・「調査研究」の項目で評価) 企画展示の準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』、『館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。	(5段階) 3.2
第1次中期計画	H25 (2013)	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で点検・評価) 行基関連資料調査、金子雪操関係資料調査、大阪画壇関係の資料調査、市内道路堆積物調査、吹田操車場関連資料調査、名神高速道路関連資料調査、西尾家所蔵書画・茶道具・着物調査、大阪麦酒会社関連資料調査(計8件)	(5段階) 3	(「館独自の自主研究事業」・「調査研究」の項目で評価) 企画展示の準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』、『館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。	(5段階) 3.7
	H24 (2012)	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で点検・評価) 中西家所蔵美術資料調査、行基関連資料調査、気比家旧蔵資料調査、金子雪操関係資料調査、千里ニュータウン関連資料調査(計5件)	(5段階) 3	(「館独自の自主研究事業」・「調査研究」の項目で評価) 特別展・企画展の準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』、『館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。	(5段階) 3.7
	H23 (2011)	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で点検・評価) 万博関連資料・市民提供資料調査、室戸台風関連資料調査、世界の災害資料調査、災害史関連資料調査、鯉絵調査、展示手法と資料の調査、西宮市岡太神社の一時上臈・野里住吉神社の一夜官女、どんじ祭りに関する現地調査および頭屋祭祀に関する写真・文献調査、小松家所蔵写真調査、万国博関連資料調査(計11件)	(5段階) —	(「館独自の自主研究事業」・「調査研究」の項目で評価) 企画展示の準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』や『館報』に適宜反映されている点は評価できる。しかし、企画展示の図録刊行がやや手薄な感がある。	(5段階) —
	H22 (2010)	(「調査研究事業の展開」・「調査研究」の項目で点検・評価) さわる五感の挑戦V開催のための調査、市民によるヒメボタル調査、水害調査、吉志部神社の本殿発掘調査・吉志部神社小祠調査、古瓦調査・糸里関連資料調査、館蔵万博資料調査(計6件)	(5段階) —	(「館独自の自主研究事業」・「調査研究」の項目で評価) 市民団体によるヒメボタルに関する長年の調査はその成果が吹田市指定天然記念物への指定につながり、夏季展示への公開につながっている。今後も調査成果を活動計画に反映させることが必要である。	(5段階) —

d. 研究成果の公開 (第1次中期計画は「研究成果の発表」)																																																							
事業概要		点検項目		指標・目標																																																			
調査研究成果を展示や講演会、論文・レポートなどに記録していく。		■研究成果が外部に公開されているか。		指標・目標値は設定していない。																																																			
平成30年度(2018年度)実績																																																							
①館独自の自主研究事業	【刊行物】 博物館だより 「吹田操車場遺跡の発掘調査でわかったこと①ー粘土採掘坑ー」「吹田操車場遺跡の発掘調査でわかったこと②ー嶋下郡南部条里ー」(No.75)(高橋) 「人間 貴志康ーと音楽家 貴志康一の誕生、そして晩年」(No.77)(五月女) 展示図録 平成30年度秋季特別展図録『東洋一の夢の跡ー吹田操車場遺跡展ー』 平成31年度春季特別展図録『音楽家 貴志康ー 生誕110年ー吹田に生まれた若き天才ー』 館報19 「収蔵資料を活用した水墨画と絵巻の鑑賞事業ー博物館で行う中学生向け授業プログラムの実践例ー」(河島) 「資料紹介: 未曾有ノ猛台風、襲ヒタルー昭和9年室戸台風の記録ー」(五月女) 「資料紹介: 日本の博覧会黎明期ー大学南校物産会から湯島聖堂博覧会までー」(五月女) 「内部公開された『太陽の塔』について」(五月女)		【口頭発表】 歴史講座 「ニュータウン誕生ー英国から千里へー」(五月女) 「吹田操車場遺跡にみる耕地開発ー嶋下郡南部条里ー」(高橋) 「ひいおじいさん・ひいおばあさんが子どものころのくらしーいまとどうちがったのー」(藤井) 西国街道関連事業「歴史街道」ルートーク 「摂津名所図会にみる吹田の史跡」(池田) 吹田再見ウォーク「講演会」 「下新田(春日)の歴史」(池田) 北大阪ミュージアム・ネットワークシンポジウム 「日本の博覧会黎明期ー大学南校物産会から湯島聖堂博覧会までー」(五月女) その他 出前講座 41回																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績・自己点検・自己評価</th> <th>評価点</th> <th>外部評価</th> <th>評価点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30 (2018)</td> <td> 【刊行物】 博物館だより 3件、展示図録 2件、館報 4件 【口頭発表】 歴史講座 3回、西国街道関連事業1回、吹田再見ウォーク講演会1回、北大阪ミュージアム・ネットワーク 1回、出前講座 41回 企画展示に関する調査研究成果は、展示図録・たよりの刊行物、歴史講座において公表。館報については資料紹介を含めてであるが複数となった。歴史講座は職員の異動もあり減少した。出前講座は過去最高となり、ニーズの高さと負担バランスを考慮する必要もある。 </td> <td>(10段階) 8</td> <td>企画展示の準備過程や常設展示更新作業において、それぞれのテーマに関する資料の調査と研究が行われ、その成果が展示図録、『博物館だより』、『吹田市立博物館館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。出前講座の回数も41回を数え、研究成果の地域への還元が積極的に行われていることが窺える。この点も評価できるところである。</td> <td>(10段階) 8.08</td> </tr> <tr> <td>H29 (2017)</td> <td> 【刊行物】 博物館だより 3件、展示図録 3件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 4回、西国街道関連事業 2回、北大阪ミュージアム・ネットワーク 1回、出前講座 38回 企画展示に関する調査研究成果は、展示図録・たよりの刊行物、歴史講座において公表。出前講座等は地域史料や博物館利用法に関する講座、体験講座等を行った。 </td> <td>(10段階) 8</td> <td>企画展示の準備過程や常設展示更新作業において、それぞれのテーマに関する資料の調査と研究が行われ、その成果が展示図録、『博物館だより』、『吹田市立博物館館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。ただし、企画展「未曾有の猛台風、襲ヒタルー昭和9年室戸台風の記録ー」の図録は刊行されておらず、図録刊行という点では問題を残している。さらに、関係する館外の個人業績も掲載する必要もある。</td> <td>(10段階) 7.45</td> </tr> <tr> <td>H28 (2016)</td> <td> 【刊行物】 博物館だより 4件、展示図録 2件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 5回、西国街道関連事業 2回、北大阪ミュージアム・ネットワーク 1回、出前講座 37回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。 </td> <td>(10段階) 8</td> <td>展示や講座の準備過程で必要な調査・研究が行われ、その成果が特別展図録、『吹田市立博物館だより』、『吹田市立博物館館報』、歴史講座などに適切に反映されている点は評価できる。</td> <td>(10段階) 7.63</td> </tr> <tr> <td>H27 (2015)</td> <td> 【刊行物】 博物館だより 4件、展示図録 2件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 6回、西国街道関連事業 2回、北大阪ミュージアム・ネットワーク 1回、出前講座 31回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。 </td> <td>(10段階) 6</td> <td>展示や講座の準備過程で必要な調査・研究が行われ、刊行物や講座に適切に反映されている。</td> <td>(10段階) 6.85</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">第1次中期計画</td> <td>H26 (2014)</td> <td>(「研究成果の発表」の項目で点検・評価) 【刊行物】 博物館だより6件、展示図録 2件、館報 2件 【口頭発表】 歴史講座 4回、西国街道関連事業 2回、北大阪ミュージアム・ネットワーク 1回、出前講座 33回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。 </td> <td>(5段階) 3</td> <td>(「研究成果の発表」の項目で評価) 企画展示の「準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』、『館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。 </td> <td>(5段階) 3.4</td> </tr> <tr> <td>H25 (2013)</td> <td>(「研究成果の発表」の項目で点検・評価) 【刊行物】 博物館だより4件、展示図録 2件、館報 2件 【口頭発表】 歴史講座 6回、西国街道関連事業 1回、出前講座 30回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。 </td> <td>(5段階) 3</td> <td>(「研究成果の発表」の項目で評価) 企画展示の「準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』、『館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。 </td> <td>(5段階) 3.7</td> </tr> <tr> <td>H24 (2012)</td> <td>(「研究成果の発表」の項目で点検・評価) 【刊行物】 博物館だより2件、展示図録 2件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 6回、出前講座 20回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。 </td> <td>(5段階) 3</td> <td>(「研究成果の発表」の項目で評価) 企画展示の「準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』、『館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。 </td> <td>(5段階) 3.7</td> </tr> <tr> <td>H23 (2011)</td> <td>(「研究成果の発表」の項目で点検・評価) 【刊行物】 博物館だより 5件、展示図録 2件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 7回、出前講座 19回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。 </td> <td>—</td> <td>(「研究成果の発表」の項目で評価) 企画展示の準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』や『館報』に適宜反映されている点は評価できる。しかし、企画展示の図録刊行がやや手薄な感がある。 </td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>H22 (2010)</td> <td>(「研究成果の発表」の項目で点検・評価) 【刊行物】 博物館だより 5件、展示図録 2件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 9回、出前講座 17回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。 </td> <td>—</td> <td>(「研究成果の発表」の項目で評価) 発信拠点としての評価に資する情報提供がなされていない。歴史講座・トーク等の口頭発表や館報・たよりの刊行物以外にもデジタル通信メディアや動画での成果の公表も必要ではなからうか。 </td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>					年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点	H30 (2018)	【刊行物】 博物館だより 3件、展示図録 2件、館報 4件 【口頭発表】 歴史講座 3回、西国街道関連事業1回、吹田再見ウォーク講演会1回、北大阪ミュージアム・ネットワーク 1回、出前講座 41回 企画展示に関する調査研究成果は、展示図録・たよりの刊行物、歴史講座において公表。館報については資料紹介を含めてであるが複数となった。歴史講座は職員の異動もあり減少した。出前講座は過去最高となり、ニーズの高さと負担バランスを考慮する必要もある。	(10段階) 8	企画展示の準備過程や常設展示更新作業において、それぞれのテーマに関する資料の調査と研究が行われ、その成果が展示図録、『博物館だより』、『吹田市立博物館館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。出前講座の回数も41回を数え、研究成果の地域への還元が積極的に行われていることが窺える。この点も評価できるところである。	(10段階) 8.08	H29 (2017)	【刊行物】 博物館だより 3件、展示図録 3件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 4回、西国街道関連事業 2回、北大阪ミュージアム・ネットワーク 1回、出前講座 38回 企画展示に関する調査研究成果は、展示図録・たよりの刊行物、歴史講座において公表。出前講座等は地域史料や博物館利用法に関する講座、体験講座等を行った。	(10段階) 8	企画展示の準備過程や常設展示更新作業において、それぞれのテーマに関する資料の調査と研究が行われ、その成果が展示図録、『博物館だより』、『吹田市立博物館館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。ただし、企画展「未曾有の猛台風、襲ヒタルー昭和9年室戸台風の記録ー」の図録は刊行されておらず、図録刊行という点では問題を残している。さらに、関係する館外の個人業績も掲載する必要もある。	(10段階) 7.45	H28 (2016)	【刊行物】 博物館だより 4件、展示図録 2件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 5回、西国街道関連事業 2回、北大阪ミュージアム・ネットワーク 1回、出前講座 37回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。	(10段階) 8	展示や講座の準備過程で必要な調査・研究が行われ、その成果が特別展図録、『吹田市立博物館だより』、『吹田市立博物館館報』、歴史講座などに適切に反映されている点は評価できる。	(10段階) 7.63	H27 (2015)	【刊行物】 博物館だより 4件、展示図録 2件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 6回、西国街道関連事業 2回、北大阪ミュージアム・ネットワーク 1回、出前講座 31回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。	(10段階) 6	展示や講座の準備過程で必要な調査・研究が行われ、刊行物や講座に適切に反映されている。	(10段階) 6.85	第1次中期計画	H26 (2014)	(「研究成果の発表」の項目で点検・評価) 【刊行物】 博物館だより6件、展示図録 2件、館報 2件 【口頭発表】 歴史講座 4回、西国街道関連事業 2回、北大阪ミュージアム・ネットワーク 1回、出前講座 33回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。	(5段階) 3	(「研究成果の発表」の項目で評価) 企画展示の「準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』、『館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。	(5段階) 3.4	H25 (2013)	(「研究成果の発表」の項目で点検・評価) 【刊行物】 博物館だより4件、展示図録 2件、館報 2件 【口頭発表】 歴史講座 6回、西国街道関連事業 1回、出前講座 30回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。	(5段階) 3	(「研究成果の発表」の項目で評価) 企画展示の「準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』、『館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。	(5段階) 3.7	H24 (2012)	(「研究成果の発表」の項目で点検・評価) 【刊行物】 博物館だより2件、展示図録 2件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 6回、出前講座 20回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。	(5段階) 3	(「研究成果の発表」の項目で評価) 企画展示の「準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』、『館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。	(5段階) 3.7	H23 (2011)	(「研究成果の発表」の項目で点検・評価) 【刊行物】 博物館だより 5件、展示図録 2件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 7回、出前講座 19回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。	—	(「研究成果の発表」の項目で評価) 企画展示の準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』や『館報』に適宜反映されている点は評価できる。しかし、企画展示の図録刊行がやや手薄な感がある。	—	H22 (2010)	(「研究成果の発表」の項目で点検・評価) 【刊行物】 博物館だより 5件、展示図録 2件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 9回、出前講座 17回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。	—	(「研究成果の発表」の項目で評価) 発信拠点としての評価に資する情報提供がなされていない。歴史講座・トーク等の口頭発表や館報・たよりの刊行物以外にもデジタル通信メディアや動画での成果の公表も必要ではなからうか。
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点																																																			
H30 (2018)	【刊行物】 博物館だより 3件、展示図録 2件、館報 4件 【口頭発表】 歴史講座 3回、西国街道関連事業1回、吹田再見ウォーク講演会1回、北大阪ミュージアム・ネットワーク 1回、出前講座 41回 企画展示に関する調査研究成果は、展示図録・たよりの刊行物、歴史講座において公表。館報については資料紹介を含めてであるが複数となった。歴史講座は職員の異動もあり減少した。出前講座は過去最高となり、ニーズの高さと負担バランスを考慮する必要もある。	(10段階) 8	企画展示の準備過程や常設展示更新作業において、それぞれのテーマに関する資料の調査と研究が行われ、その成果が展示図録、『博物館だより』、『吹田市立博物館館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。出前講座の回数も41回を数え、研究成果の地域への還元が積極的に行われていることが窺える。この点も評価できるところである。	(10段階) 8.08																																																			
H29 (2017)	【刊行物】 博物館だより 3件、展示図録 3件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 4回、西国街道関連事業 2回、北大阪ミュージアム・ネットワーク 1回、出前講座 38回 企画展示に関する調査研究成果は、展示図録・たよりの刊行物、歴史講座において公表。出前講座等は地域史料や博物館利用法に関する講座、体験講座等を行った。	(10段階) 8	企画展示の準備過程や常設展示更新作業において、それぞれのテーマに関する資料の調査と研究が行われ、その成果が展示図録、『博物館だより』、『吹田市立博物館館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。ただし、企画展「未曾有の猛台風、襲ヒタルー昭和9年室戸台風の記録ー」の図録は刊行されておらず、図録刊行という点では問題を残している。さらに、関係する館外の個人業績も掲載する必要もある。	(10段階) 7.45																																																			
H28 (2016)	【刊行物】 博物館だより 4件、展示図録 2件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 5回、西国街道関連事業 2回、北大阪ミュージアム・ネットワーク 1回、出前講座 37回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。	(10段階) 8	展示や講座の準備過程で必要な調査・研究が行われ、その成果が特別展図録、『吹田市立博物館だより』、『吹田市立博物館館報』、歴史講座などに適切に反映されている点は評価できる。	(10段階) 7.63																																																			
H27 (2015)	【刊行物】 博物館だより 4件、展示図録 2件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 6回、西国街道関連事業 2回、北大阪ミュージアム・ネットワーク 1回、出前講座 31回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。	(10段階) 6	展示や講座の準備過程で必要な調査・研究が行われ、刊行物や講座に適切に反映されている。	(10段階) 6.85																																																			
第1次中期計画	H26 (2014)	(「研究成果の発表」の項目で点検・評価) 【刊行物】 博物館だより6件、展示図録 2件、館報 2件 【口頭発表】 歴史講座 4回、西国街道関連事業 2回、北大阪ミュージアム・ネットワーク 1回、出前講座 33回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。	(5段階) 3	(「研究成果の発表」の項目で評価) 企画展示の「準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』、『館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。	(5段階) 3.4																																																		
	H25 (2013)	(「研究成果の発表」の項目で点検・評価) 【刊行物】 博物館だより4件、展示図録 2件、館報 2件 【口頭発表】 歴史講座 6回、西国街道関連事業 1回、出前講座 30回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。	(5段階) 3	(「研究成果の発表」の項目で評価) 企画展示の「準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』、『館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。	(5段階) 3.7																																																		
	H24 (2012)	(「研究成果の発表」の項目で点検・評価) 【刊行物】 博物館だより2件、展示図録 2件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 6回、出前講座 20回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。	(5段階) 3	(「研究成果の発表」の項目で評価) 企画展示の「準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』、『館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。	(5段階) 3.7																																																		
	H23 (2011)	(「研究成果の発表」の項目で点検・評価) 【刊行物】 博物館だより 5件、展示図録 2件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 7回、出前講座 19回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。	—	(「研究成果の発表」の項目で評価) 企画展示の準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』や『館報』に適宜反映されている点は評価できる。しかし、企画展示の図録刊行がやや手薄な感がある。	—																																																		
	H22 (2010)	(「研究成果の発表」の項目で点検・評価) 【刊行物】 博物館だより 5件、展示図録 2件、館報 1件 【口頭発表】 歴史講座 9回、出前講座 17回 調査研究成果を歴史講座・出前講座等の口頭発表や館報・たよりの刊行物において公表。	—	(「研究成果の発表」の項目で評価) 発信拠点としての評価に資する情報提供がなされていない。歴史講座・トーク等の口頭発表や館報・たよりの刊行物以外にもデジタル通信メディアや動画での成果の公表も必要ではなからうか。	—																																																		

e. 学芸研究会					
事業概要		点検項目		指標・目標	
学芸研究会を実施する。		■学芸研究会を実施したか。		■学芸研究会実施回数(2回/年)	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	<ul style="list-style-type: none"> ・「収蔵資料を活用した鑑賞授業」(河島) 年1回の実施にとどまったが、博物館利用法に関するテーマの研究会としては初の試みとなった。次年度以降、複数回を定期的実施していくことが課題である。	(10段階) 6	平成27年度に発足した学芸研究会も4年目を迎えた。27年度・28年度はいずれも目標の2回以上回開催されたが、29年度および30年度はいずれも1回の開催に留まった。多忙な職務の傍ら、このような学術的な研究会を行うことが大変であることは理解できるが、館員全体の問題意識の共有や、館員のさらなる能力向上にとって貴重な機会であり、年2回開催は是非守って頂きたい。	(10段階) 5.85
	H29 (2017)	<ul style="list-style-type: none"> ・「北大阪のまつり」(藤井) 学芸研究会は29年度は1回の実施であった。次年度以降、複数回を定期的実施していくことが課題である。	(10段階) 6	学芸研究会は平成27年度に発足し、同年度は3回、28年度は2回開催されたものの、29年度は1回の開催に留まった。活動が年を追って低下していることは明らかである。発足の趣旨を改めて確認し、活発な活動を行うことが望まれる。	(10段階) 6.09
	H28 (2016)	<ul style="list-style-type: none"> ・「千里山住宅地平面図の年代特定について」(五月女) ・「早田家所蔵金子雪操作品について」(市村) 学芸研究会は2回実施した。館内での研究会を行うことで、学芸員の技術向上に繋がっている。	(10段階) 8	昨年度発足した館内の研究会である「学芸研究会」については、今年度2回の報告会を行ったとのことである。この種の研究会は、発足当初は活発に活動するものの、間もなく活動が低調になることが多いものであるが、活動を継続させていることは評価できる。	(10段階) 7.82
	H27 (2015)	<ul style="list-style-type: none"> ・「吹田操車場遺跡出土瓦と七尾瓦窯跡」(高橋) ・「さわる展示について」(広瀬浩二郎氏) ・「西村公朝 修理・調査ノートからみる仏像修理の業績」(市村) 本年度、新たに学芸研究会を立ち上げ、3回実施。うち1回は「さわる展示」の継続法に関して国立民族学博物館准教授の広瀬浩二郎氏を講師に迎えて、議論も実施した。	(10段階) 8	学芸研究会を新たに発足させ、3回の報告会を開催したことは評価できる。有意義な研究会であるので、定例化するなど継続的な活動の工夫が必要である。	(10段階) 9.15
第1次中期計画	H26 (2014)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H25 (2013)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H24 (2012)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H23 (2011)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H22 (2010)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—

② 共同研究事業					
a. 北大阪ミュージアム・ネットワークとの共同調査・事業(第1次中期計画は「外部機関との共同調査・事業」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
北大阪ミュージアム・ネットワークによる共同調査を実施する。		■共同調査を実施し、成果を公表しているか。		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
北大阪ミュージアム・ネットワーク シンポジウム(「4. 地域学習の拠点と連携 ②連携 c. 北大阪ミュージアム・ネットワークとの連携」の項を参照)					
テーマ「大阪でEXPOを考える I 博覧会の歩みー'70万博への道ー」 《内容》 開催日 平成31年1月12日 ネットワーク構成員5人(当館からは1名のパネリストとコーディネーター1名)のパネリスト 会場 関西大学梅田キャンパス KANDAI MeRISEホール と外部講師1人により大阪万博までの博覧会の歴史と展開について議論、検証した。 参加者数 120人					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30(2018)	北大阪ミュージアム・ネットワーク シンポジウム 「大阪でEXPOを考える I 博覧会の歩みー'70万博への道ー」 北大阪ミュージアム・ネットワーク内に大阪万博50周年記念の連携事業を実施する作業部会を中心に実施した。アンケート結果では1970年の大阪万博までの博覧会の歴史がよくわかった。さまざまな角度から万博が理解できた。という好意的な意見を多く得ることができ、大阪万博を中心とする博覧会を周知し、回顧と展望の一端を担うことができた。	(10段階) 8	1月12日開催の北大阪ミュージアム・ネットワークシンポジウム「大阪でEXPOを考える I 博覧会の歩みー'70万博への道ー」は120名の参加を得、好評であった。吹田市立博物館からはパネリストとコーディネーター各1名を出したほか、会長館として準備・運営に携わった。北大阪ミュージアム・ネットワークの活動が活発に行われ、当館が中核館としてその活動を支えていることは大いに評価できる。今後も中核館としての役割を積極的に担い、北大阪の地域文化の発展に寄与することを期待したい。なお、「実績・自己点検・自己評価」では、北大阪ミュージアム・ネットワークにおける当館の役割について、もう少し具体的に書く必要がある。	(10段階) 7.69
	H29(2017)	北大阪ミュージアム・ネットワーク シンポジウム 「北大阪のまつり」(聴講56人) 2020年大阪万博50周年記念の関連事業を北大阪ミュージアム・ネットワークの連携事業とするため、共同調査や企画を行う作業部会を立ち上げた。 シンポジウム「北大阪のまつり」は、それぞれのまつりの地元の研究者による研究発表であり、その地域ならではの視点も加わって、北大阪という地域のまつりのあり方を捉える良い機会となった。	(10段階) 8	11月5日開催の北大阪ミュージアム・ネットワークシンポジウム「北大阪のまつり」に見られるように、北大阪ミュージアム・ネットワークの活動が活発に行われ、吹田市立博物館が中核館としてその活動を支えていることは大いに評価できる。今後も中核館としての役割を積極的に担い、北大阪の地域文化の発展に寄与することを期待したい。	(10段階) 8.09
	H28(2016)	北大阪ミュージアム・ネットワーク シンポジウム 「現代に問う自然系ミュージアム」(聴講56人) 北大阪ミュージアムネットワークでは、自然系ミュージアムを主体とした事業は初めてのことである。発表した8館の設立や運営母体はそれぞれ異なるが、歴史系ミュージアムにとっても展示や事業のあり方、集客の工夫など参考になる事例が多く、有意義であった。	(10段階) 8	北大阪ミュージアム・ネットワークについては、北大阪ミュージアムメッセやシンポジウムを開催するなど意欲的に連携事業を展開し、中核館として大きな役割を果たしている。	(10段階) 7.82
	H27(2015)	北大阪ミュージアム・ネットワーク シンポジウム 「北大阪の絵画をめぐって」(聴講85人) 北大阪ミュージアム・ネットワーク連携展示 「北大阪の絵画」(参加者 延べ774人) 北大阪ミュージアムネットワークにおいて初めて連携展示「北大阪の絵画」を関西大学博物館にて実施した。当館からも金子雪操の作品など、庄屋宅に残された作品を出陳した。	(10段階) 8	関西大学における連携展示は評価できる。今後もこのような積極的な取り組みを期待したい。	(10段階) 7.62
	H26(2014)	(外部機関との共同調査・事業)の項目で点検・評価) 北大阪ミュージアム・ネットワーク シンポジウム 「これから売り出すわが館の一手一品」(聴講37人) 広域ネットワークの長所を活かし、北大阪の文化資源をより多くの方に発信することができた。	(5段階) 3	(外部機関との共同調査・事業)の項目で評価) 北大阪ミュージアム・ネットワークにおいて、メッセやシンポジウムを開催し、多くの参加者を得たことは、積極的な地域連携事業を着実に進めていることをしめすもので評価できる。今後もこのような取り組みを期待したい。	(5段階) 3.0
第1次中期計画	H25(2013)	(外部機関との共同調査・事業)の項目で点検・評価) 北大阪ミュージアム・ネットワーク シンポジウム 「謎の古墳を探る」(聴講68人) 文化庁補助金により初めてメッセを開催。ネットワークの強化とネットワークの紹介、北大阪の文化資源の発信に取組みむことができた。	(5段階) 3	(外部機関との共同調査・事業)の項目で評価) 北大阪ミュージアム・ネットワークにおいては、シンポジウムに加え、新たに北大阪ミュージアムメッセを開催し、ネットワークの紹介・強化等に前向きに行動しており、積極的な地域連携事業を着実に進めていることを示すものとして評価できる。一過性のイベントではなく、博物館間のノウハウ交換や相互理解につながるようなさらなる発展を期待したい。	(5段階) 3.1
	H24(2012)	(外部機関との共同調査・事業)の項目で点検・評価) 北大阪ミュージアム・ネットワーク シンポジウム 「こんなんあんなねん! 地域でがんばるいろいろミュージアム」(聴講62人) 外部資金を獲得できなかったが、パネル巡回展やシンポジウムを実施し、新たな活動の展開がみえてきた。北大阪ミュージアム・ネットワークなど外部機関との連携調査も計画していく必要がある。	(5段階) 2	(外部機関との共同調査・事業)の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.0
	H23(2011)	(外部機関との共同調査・事業)の項目で点検・評価) 北大阪ミュージアムネットワークにおける共同調査、連携展示は実施していないが、吹田市立博物館・高槻市立今城塚古代歴史館・島本町立歴史文化資料館の3館をめぐり、展示解説を行うバスツアーを開催。	(外部機関との共同調査・事業)の項目で点検・評価) -	(外部機関との共同調査・事業)の項目で評価) 他館との連携については、高槻市など歴史に力を入れている団体との連携は評価できる。しかし、北大阪ミュージアム・ネットワーク事業が、実際には3館めぐりとなったことについては、やや安易な取り組みであったように思われる。	(外部機関との共同調査・事業)の項目で点検・評価) -
	H22(2010)	(外部機関との共同調査・事業)の項目で点検・評価) 北大阪ミュージアムネットワーク全体会1回を実施。メーリングリストを作成。	(外部機関との共同調査・事業)の項目で点検・評価) -	(外部機関との共同調査・事業)の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(外部機関との共同調査・事業)の項目で点検・評価) -

3. 展示		過去の総合評価点	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平成30年度総合評価点	7.79	
①常設展示	a. リニューアル計画の検討												
	事業概要	点検項目				指標・目標							
	観覧者ニーズ、参加体験型、ハンズオンをとりいれた常設展の大規模リニューアル計画の可能性を検討する。	■常設展示のリニューアル計画の検討は進んでいるか。				■開館30周年(2022年度)に常設展示のリニューアルを実施できるよう準備を進める。							
平成30年度(2018年度)実績													
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。													
	年度	実績・自己点検・自己評価				評価点	外部評価					評価点	
第2次中期計画	H30(2018)	開館30周年(2022年度)の常設展示リニューアルに向けて、各分野において展示構想を進めながら、リニューアルの規模と経費について検討をすすめている。				(10段階) 6	リニューアルには館の予算や人的配置、所蔵資料の内容など現実的な問題はあるだろうが、これまでの学芸活動の成果を盛り込み、地域ニーズも意識した斬新なアイデアも練って、積極的かつ計画的に進めるべきである。 今の利用者のうけねらいの需要ではなく、4年後、そして30年後を見通した展示をめざしてほしい。					(10段階) 6.08	
	H29(2017)	開館30周年(2022年度)の常設展示リニューアルに向けて、各分野において展示構想を進めることとした。				(10段階) 6	開館30周年の記念の年にむけてのリニューアルは通常の年度計画よりも規模や構想の大きさが要求され、財政的な問題と学芸的な理想との間で調整が難しいものだが、それを踏まえた上でより理想的な展示の構想をとりあえずは構想してもらいたい。 地域博物館ならではの質をいかに向上させるかを検討項目に加えるべきである。					(10段階) 6.18	
	H28(2016)	常設展示全体のリニューアルは、現在はロビーで展開している「さわる展」の成果をいかに取り入れていくかを検討していく必要がある。				(10段階) 6	常設展示は開館以来、大きな変革はなされていない。常設展示のリニューアルは、大きな課題であろう。					(10段階) 6.18	
	H27(2015)	さわる展示の成果を取り入れ、ふれ愛観音、仏像レプリカをロビーにて、常設展示した。				(10段階) 6	展示開発は、ワークショップ、モックアップ、通常展示、特別な触る展示となるが、最近増設された展示物は、一足飛びの場当たりの分断された個別的な展示開発の感がぬぐい切れない。					(10段階) 6.15	
第1次中期計画	H26(2014)	常設展示に資料に触れることで資料情報を伝える展示を構想。				(5段階) 3	リニューアル計画については、まだ具体的な構想案が示されないままになっている。展示評価・点検、そして絵コンテ、モックアップを示すことが予算獲得の第一歩であろう。					(5段階) 3.0	
	H25(2013)	常設展示に資料に触れることで資料情報を伝える展示を構想。				(5段階) 3	リニューアル計画が未検討のままになっている。すくなくとも、具体的な構想案を早めに出す必要があるだろう。					(5段階) 2.8	
	H24(2012)	財政的に困難な現状において、常設展示に資料に触れることで資料情報を伝える展示を構想。また、応接室を西村公朝作品と村居正之氏の絵画を展示するギャラリーとした。				(5段階) 3	常設展示室の展示は開館20年を経過して大きくリニューアルされていない。隣接する国史跡の吉志部瓦窯跡との立地性に関わる配慮をしながら、リニューアルが実現するよう継続的に努力する必要がある。					(5段階) 3.2	
	H23(2011)	リニューアル計画は進捗していない。参加型展示として特別企画において、稲作道具の体験(千歯扱き・すりうす)弥生時代の貫頭衣を着るコーナーを継続開設。				—	常設展示はリニューアルが難しい現況の中で体験コーナーや展示品の展示替えや解説方法で変化をもたせようと工夫している点は評価できる。財政的な問題もあろうが、今後の大規模リニューアルが難しい場合、このような部分的な手直しを行っていくのか、展示構成の見直しをどのように考えるのが課題である。					—	
	H22(2010)	リニューアル計画は進捗していない。参加型展示として特別企画において、稲作道具の体験(千歯扱き・すりうす)、弥生時代の貫頭衣を着るコーナーを開設。				—	リニューアルについては中期計画事項とはいえ、「検討中」ではなく、年ごとの何ならかの成果を出していただきたい。多くの特別展、企画展において出陳された資料は常設展示に利用できるものは速やかに活用すべきである。アンケートの結果をしっかりと集約し、構想の検討につなげていただきたい。					—	

① 常設展示					
b. 紫金山公園と一体化した展示計画 (第1次中期計画は「リニューアル計画の検討」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
博物館が立地する紫金山公園の史跡や釈迦が池と博物館との関係性を示す一体化した展示を計画する。		■紫金山公園と一体化した展示計画の検討は進んでいるか。		■開館30周年(2022年度)に紫金山公園と一体化した展示を実施できるよう準備を進める。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	常設展示リニューアルに合わせて、秋季特別展「吹田操車場遺跡展」の調査成果、特に窯業関連資料を取り入れた展示設計に着手した。	(10段階) 6	<p>秋季特別展「吹田操車場遺跡展」を企画したことは、紫金山公園と館との一体感を演出するエコ・ミュージアム的な発想への展開も可能なものとして評価できる。</p> <p>吹田市域の足元、原点となる展示を期待する。フィール博物館としての窓のガイダンスは基盤となるものであろう。</p>	(10段階) 5.92
	H29 (2017)	窯跡実物大模型に付随したビデオ機器の改修に伴い、窯跡模型前に「市内須恵器窯跡分布図」と「七尾瓦窯跡・吉志部瓦窯跡位置図」を設置。特に「瓦窯位置図」は博物館と両瓦窯跡の位置関係も示すことで、観覧者が瓦窯跡へ足を運ぶきっかけの一つになった。	(10段階) 5	ビデオ機器については年々、新製品が開発されており、継続的な機器の刷新を意識しつつ、プロジェクトを進めて欲しい。	(10段階) 5.00
	H28 (2016)	第2展示室の古代窯業について平成26年度秋季特別展「一片の瓦から」の成果を盛り込んだ展示リニューアルを設計中。	(10段階) 4	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 4.64
	H27 (2015)	第2展示室の須恵器、瓦の各展示コーナーのスペース配分や展示資料の選択などはおおむね終了しているが、解説パネル、キャプションの作成を引き続き継続していくことが必要である。	(10段階) 6	都市化の中で残された数少ない里山である紫金山公園に立地することは、逆に自然環境やこれまで企画展示で取り上げてきた須恵器・瓦窯跡・大庄屋の建物、それらがかもし出す文化等、地域を取り込んだ「エコ・ミュージアム」の中核として機能する展示も期待できる。	(10段階) 6.15
第1次中期計画	H26 (2014)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H25 (2013)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H24 (2012)	点検・評価項目なし	—	(「リニューアル計画の検討」の項目で評価) 常設展示室の展示は開館20年を経過して大きくリニューアルされていない。隣接する国史跡の吉志部瓦窯跡との立地性に関わる配慮をしながら、リニューアルが実現するよう継続的に努力する必要がある。模型資料と実物資料のわかりやすい関連づけ、吉志部瓦窯跡とのリンクとテーマ性をより以上に強調することを希望する。	—
	H23 (2011)	点検・評価項目なし	—	(「リニューアル計画の検討」の項目で評価) 館蔵資料の展示替えはしっかりした当初の展示設計に対して、散漫さと雑然さが目立つので、常設展示ストーリーとなじませる努力が必要と考える。模型と実物資料のわかりやすい関連づけ、ひいては吉志部瓦窯とのリンクとテーマ性をより以上に強調することを希望する。	—
	H22 (2010)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—

c. 展示の更新					
事業概要		点検項目		指標・目標	
館蔵資料を活用した常設展示を定期的に更新し、わかりやすい解説を行う。		■常設展示の定期的な展示替えが行われているか。		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	吹田の美術コーナーの掛軸2幅を展示替え	(10段階) 6	作品保護のためにも美術作品(特に軸物や画帖など)は定期的に展示替すべきものである。学術的な内容の検討とともに保存上の問題から長期的な作品の展示替え計画が必要である。 展示替えの意図が知りたい	(10段階) 6.08
	H29 (2017)	さわるコーナーに常設の体験展示として力石、米俵を設置した。新収資料として駕籠をロビー展示。	(10段階) 7	実物資料に直接手を触れることができる展示は博物館の醍醐味であり、こどもの教育だけでなく、成人にとっても重要である。触れたり体験することが可能な、歴史資料を今後も増やして欲しい。製作途中や展示中における第三者による展示評価が必要である。	(10段階) 7.09
	H28 (2016)	昭和30～40年代の洗濯機1台、冷蔵庫2台をロビーにて常設展示(さわるコーナーの充実)。	(10段階) 7	これまでの「さわる展示」の成果を取り入れ、「さわるコーナー」として常設化してはいるが、展示全体の中でどれほど機能しているか今一度検討する必要があるだろう。	(10段階) 6.64
	H27 (2015)	西村公朝氏の「ふれ愛観音」および仏像レプリカをロビーにて常設展示した。	(10段階) 6	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 6.08
第1次中期計画	H26 (2014)	新規収蔵資料である絵画作品を常設展示し、大阪万博にて吹田市へ寄贈された各国パピリオン展示品を企画展後に常設展示し、展示更新がなされた。	(5段階) 3	(当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.1
	H25 (2013)	千里ニュータウンの団地生活に関連した展示『千里ニュータウンの新生活』を新構築。常設展示の通史展示の一コマとして位置付け、解説および触れて体験する展示計画の意図のもと展示の更新がなされた。	(5段階) 4	常設展示については、平成24年度秋季特別展「ニュータウン半世紀展ー千里発・DREAMー」の成果を展示につなげたことは評価できる。	(5段階) 3.4
	H24 (2012)	ロビーにて藤白台公社住宅団地の玄関扉・住棟番号・バスオール3点を展示。江戸時代の絵画コーナーで2回の展示替えで5点の作品を展示更新。応接室ギャラリーで西村公朝作品の活用を果たした。	(5段階) 3	館蔵資料の展示替えはしっかりした当初の展示設計に対して、散漫さと雑然さが目立つので、常設展示ストーリーとなじませる努力が必要と考える。	(5段階) 3.3
	H23 (2011)	館蔵資料の展示替え。「江戸時代の娯楽」コーナーにおいて絵画2点の展示替え。	—	常設展示については、館蔵資料を用いた展示替えをさらに積極的に取り組んでいただきたい。	—
	H22 (2010)	館蔵資料展示替え。「稲作の1年」コーナーにおいてコルトン式農具使用法解説に変え、解説画像の装置を導入。	—	展示方法、展示解説の工夫、展示に関する多様な企画が重要になってくると考える。	—

② 企画展示					
a. 企画展示の中期計画立案					
事業概要		点検項目		指標・目標	
企画展の中期計画(5年)を立案し、計画的に開催する。		■中期計画に基づく企画展示が立案されているか。		■中期計画(5年)を立案し、年度当初に公表する。	
平成30年度(2018年度)実績					
平成30年度～34年度の企画展示案(展示テーマ)を立案した。					
平成30年度(2018年度)	春季特別展「西村公朝 芸術家の素顔」、企画展「ニュータウン誕生ー千里&多摩ニュータウンに見る都市計画と人々ー」・同時開催「さわる月間」、夏季展示「水からかんがえよう!」、博物館実習展、秋季特別展「東洋一の夢の跡ー吹田操車場遺跡ー」、特別企画「むかしのくらしと学校」				
令和元年度(2019年度)	春季特別展「音楽家 貴志 康一 生誕110年」、企画展「西村公朝 作仏のこころ」・同時開催「さわる月間」、夏季展示「めぐる・かわる・つながるー自然の循環のふしぎー」、博物館実習展、秋季特別展「大塩平八郎と吹田」 特別企画「むかしのくらしと学校」				
令和2年度(2020年度)	春季特別展「神崎川の歴史と恵み」、企画展「西村公朝展」・同時開催「さわる月間」、夏季展示「自然と環境展」、博物館実習展、秋季特別展「万博50周年」、特別企画「むかしのくらしと学校」				
令和3年度(2021年度)	春季特別展「西村公朝展」、企画展「吹田の古写真」・同時開催「さわる月間」、夏季展示「自然と環境展」、博物館実習展、秋季特別展「十三ー千里山間鉄道開通100周年記念展」、特別企画「むかしのくらしと学校」				
令和4年度(2022年度)	春季特別展「名所図会の世界」、企画展「西村公朝展」・同時開催「さわる月間」、夏季展示「自然と環境展」、博物館実習展、秋季特別展「大坂画壇」、特別企画「むかしのくらしと学校」				
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30(2018)	平成30年度～34年度の企画展示案の立案。5年間の企画展案を立案して中期の展示計画を進めている。	(10段階) 9	昨年度同様、吹田の歴史に触れながらも日本の近代現代の歴史や文化芸術に関する大きなテーマをあげることが評価できる。館蔵品を有効活用した「西村公朝展」も多彩な切り口を設けて変化を与えており、調査研究における新発見も含めた実績が生まれる可能性が期待できる。 第三者による展示評価が必要である。 多彩な吹田市が感じられていいシリーズであるが、5年を通したストーリーはつukれないのか。	(10段階) 8.77
	H29(2017)	平成29年度～33年度の企画展示案の立案。5年間の企画展案を立案して中期の展示計画を進めている。	(10段階) 9	吹田の歴史に触れながらも、それにとどまらず日本の近代現代の歴史や文化芸術に関する大きなテーマをあげることが評価できる。また、館蔵品を有効活用する意味でにおいて継続的な「西村公朝展」開催にも意義がある。 第三者による展示評価が必要である。	(10段階) 8.73
	H28(2016)	平成28年度～32年度の企画展示案の立案。5年間の企画展案を立案して中期の展示計画を進めている。	(10段階) 9	5年間の中期計画が示され、多彩なテーマの企画を実践していることは評価できる。千里ニュータウンや大阪万博、吹田ゆかりの歴史的な事象を扱ったテーマは館の個性として重要である。しかし、それらの企画が市民ニーズと合致しているのか、そうした検証も必要ではあろう。	(10段階) 8.80
	H27(2015)	平成27年度～31年度にわたる5年間の企画展示案を立案した。5年間の企画展案を立案して中期の展示計画を進めている点は評価できる。	(10段階) 8	企画展示に関して中期計画を立案することは重要であり、ここ何年かの企画では、吹田に密着し、古代から現代まで多彩なテーマが展開される。大阪近隣の諸都市の博物館施設の中でも企画に対する姿勢が明確であり、それを実践していることは評価できる。	(10段階) 8.08
第1次中期計画	H26(2014)	平成26年度～30年度にわたる5年間の企画展示案を立案した。5年間の企画展案を立案して中期の展示計画を進めている点は評価できる。	(5段階) 4	(当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.8
	H25(2013)	平成25年度～29年度にわたる5年間の企画展示案を立案した。5年間の企画展案を立案して中期の展示計画を進めている点は評価できる。	(5段階) 4	特別展・企画展は全体に単発という感がぬぐいきれない。中期的に相互がテーマ性や関連性をもち吹田の独特な顔を見せるような蓄積ある展示が望まれる。現在の常設展示の質と内容、表現をふくらす方向性をもつもの及び吹田の本質を問い、示す関連をもった吹田市立博物館の展示の蓄積を期待したい。	(5段階) 3.7
	H24(2012)	平成24年度～28年度にわたる5年間の企画展示案を立案した。5年間の企画展案を立案して中期の展示計画を進めている点は評価できる。	(5段階) 3	1年間に5回もの特別展・企画展を開催するのは、展示室が狭いとはいえ、大変な仕事量であり、評価に値する。これから準備や調査を十分に行い、市民や子供たちにとって大切なものは何かを自覚し、さらに大切と思えることを誘う博物館として、一層の磨きをかけていただきたい。	(5段階) 3.9
	H23(2011)	平成23年度～27年度にわたる5年間の企画展示案を立案した。	—	年6回の企画展開催は比較的狭い展示スペースであることから可能なのかもしれないが、狭いスペースで企画をしっかり立てて、それに応じた展示をしている点は評価できる。しかし、過去の展示と同様な内容とテーマがあり、博物館利用者の多方面からのニーズを取り扱うことができるよう内容検討を十分に図っていただきたい。	—
	H22(2010)	平成22年度～26年度 5年間の企画展示を立案した。	—	特別展においては、中期(5年)の展示計画を立案していることは評価したい。今後も市民のニーズを把握しながら企画を進めていただきたい。また、1年間に多様な多くの展示を企画実施した点を評価したい。	—

b-2. 平成30年度企画展『ニュータウン誕生 - 千里 & 多摩ニュータウンに見る都市計画と人々 -』会期：6月9日～7月8日			
展覧会実績		アンケート結果(回答数 57人、回答率 5.3%)	
② 企画展示	〔展示趣旨〕 大阪の千里丘陵に日本初の本格的ニュータウンとして成立した「千里ニュータウン」(1962年まちびらき)と、東京の多摩丘陵に日本で最大規模のニュータウンとして成立した「多摩ニュータウン」(1973年まちびらき)は、地域や開発手法、経緯が異なる一方、ニュータウンとしての特有の共通課題がみられる。短期間での核家族の入居による世代の偏りや急激な高齢化、建物の老朽化をどのように乗り越えるか、コミュニティをどのように展開していくのかなど、互いに抱える課題は枚挙にいとまがない。本企画展では、日本のニュータウンがどのような理想のもと計画され、どのような姿になって現実化したのかを、共通点と異質な点を持ち合わせる千里ニュータウンと多摩ニュータウンの事例をもとに見つめなおす。	住まい 市内 60% 市外 40% (高槻市・豊中市・茨木市・大阪市・京都市・奈良市・宇治市・奈良県・栃木県)	年齢層 19歳以下 8.9%、20歳代 8.9%、30歳代 14.3%、40歳代 16.1%、50歳代 19.6%、60歳代 25.0%、70歳代 5.4%、80歳以上 1.8%
	展覧会の目標 ●吹田市民や千里ニュータウン住民に、多摩ニュータウンとの比較を通じて、各ニュータウンの共通点と相違点を知っていただくことで千里ニュータウンの特徴を理解していただく。 ●中長期的には千里という郷土に愛着を持つきっかけとするとともに、今後のまちづくりに向けての課題解決のためのヒントを提供する。	男女別 男性 74% 女性 26%	満足度 展示を良かったと評価した人の割合 92.7%
会期中の観覧者数 (30年度)観覧者数 1,076人、総入館者数 4,014人	リピート率 市内 64% 市外 46%	《参考》過去3年の観覧者数 (29年度)観覧者数 764人、総入館者数 2,367人 (平成29年度企画展『未曾有の猛台風、襲ヒタルー昭和9年室戸台風の記録ー』) (28年度)観覧者数 736人、総入館者数 1,948人 (平成28年度企画展『魅せる!青と緑ー浪華の文人画家・金子雪操ー』) (27年度)観覧者数 835人、総入館者数 2,171人 (平成27年度企画展『さわって楽しむはくぶつかん in すいた』)	
シナリオ 1. ニュータウンの背景 1-1. ニュータウンとは 1-2. ニュータウンの理論的背景 1-3. 世界と日本のニュータウン 2. 千里ニュータウンー日本初の大規模ニュータウン 2-1. 千里ニュータウン開発前夜 2-2. 理想的な都市をめざして「計画と開発」 2-3. 千里ニュータウンに見る「理想のかたち」 2-4. 住民たちが作り上げたコミュニティ 2-5. 理想のくらし 2-6. 千里ニュータウンの再生 3. 多摩ニュータウンー日本最大規模のニュータウン 3-1. 多摩ニュータウン開発前夜 3-2. 具体化する多摩ニュータウン計画 3-3. 初期入居 3-4. 開発の課題 3-5. 開発の再開 3-6. 開発と農業 3-7. 環境への配慮 3-8. 多様な選択肢 3-9. 「普通」の街へ 4. ニュータウンのこれからー 4-1. 千里と多摩の共通点・相違点 4-2. 課題と取り組み 4-3. ニュータウンの今 4-4. 課題に取り組む世界のニュータウン	【とてもよかった・よかった】(抜粋) ・ニュータウンの歴史を知ることができてよかった。特に、「上新田がニュータウンに含まれていない点」が、今まで自分の中で謎だったので、そこがわかって良かった。(市内40代男性) ・計画から系統的にみることが出来た。(市内60代男性) ・生の資料や最新の資料(竹見台スターハウスのらくがき)が面白かった。(市外30代男性) ・大学の講義で「1970年代」に関することを学んでいるため、今回の展示と講義内容が重なり、とても勉強になった。(市外20代女性)		
調査とその公表 〔調査〕 千里ニュータウンおよび国内外のニュータウン資料 〔出版物〕 企画展図録『ニュータウン誕生ー千里&多摩ニュータウンに見る都市計画と人々ー』 〔口頭発表〕 歴史講座「ニュータウン誕生ー英国から千里へー」(五月女)	【とてもわるかった・わるかった】 ・年寄りの団体歩きの下見で、50年の変化を知りたかった。展示内容が乏しい。特に訴えるもの(目玉になるもの)の表現がなされていない。(市内80代以上男性) ・展示が少ない(市内70代女性)		
関連イベント ()内は実施回数 講演会(3)、展示解説(5)、歴史講座(1)、見学会(2)、上映会(1)、演奏会(1)	【どちらともいえない・その他】 (記載なし)		
市民参画 見学会			
広報 吹田市報・ホームページ・吹田市公式Facebook			
取材・報道 産経新聞(6月1日付)			
記録 展示・関連イベントの写真記録			
目標の達成度・自己評価 展示や関連イベントを通じて共通点と相違点を知っていただくことができた。また、当館の企画展としては珍しく図録を刊行した。そのことで、企画展終了後もより幅広い市民が、図録を購入したり市立図書館で閲覧したりすることが可能となり、中長期にわたり多くの市民が理解を深めていただく土台ができた。これら展示・関連イベントの開催や図録の刊行が、今後千里への愛着を持つきっかけとなり、今後の街づくりに向けての課題解決のためのヒントとなると思われる。	評価点 (10段階)	委員の評価・評価点 この企画展の特徴は、地元の千里ニュータウンだけでなく、多摩ニュータウンもあわせて取り上げたことである。誕生の経緯も性格も異なる二つのニュータウンを取り上げることで、それぞれの個性がより強く浮かび上がるとともに、共通点も明らかになった。通常、地域博物館では、展示対象となるのは当該地域に関わるものに限られるが、この企画展はその枠を破る試みであり、大いに評価できる。観覧者の満足度も極めて高く、展示としては成功したといえる。 ただ、千里ニュータウンと聞いて足を運んだ人の中には、学術的関心よりも、昔懐かしさから来館した人が多くいたと思われる。展示の高評価は、そのような人たちによって支えられている部分も大きい。来館の動機が昔懐かしさであることは何ら否定されるべきことではないが、館としてはこのことをしっかりふまえておく必要がある。	評価点 (10段階)
	9		8.85

b-4. 平成30年度夏季展示『水からかんがえよう!』 会期：7月21日～8月26日			
展覧会実績		アンケート結果(回答数 97人、回答率 6.5%)	
② 企画展示	【展示趣旨】 当館では、平成21年度(2009年度)より「吹田市の自然と環境」を主題とする企画展示を開催してきた。これまでの成果もふまえつつ、博物館周辺の自然を中心に吹田の自然を紹介し、「水」をキーワードに吹田の自然と環境問題について考える。 生物に欠かせない水、くらしに必要な水。水は生命の源であると同時に、水害など私たちが脅かす存在でもある。水と私たちのくらし、生き物との関係をパネルや模型などで紹介する。	住まい 市内 68% 市外 32% (高槻市・茨木市・豊中市・箕面市・大阪市・岸和田市・西宮市・明石市・兵庫県・千葉市・富士市)	
	展覧会の目標 ●吹田にも自然が残っていることを知ってもらう。とくに博物館周辺の紫金山公園の豊かな自然に関心を持ってもらう。 ●水と生物、水とくらしなど、私たちのくらしに欠かせない水との関わりについて理解を深めてもらう。 ●アンケートの「とてもよかった・よかった」の割合を90%以上とする。	年齢層 19歳以下 21.9%、20歳代 5.2%、30歳代 16.7%、40歳代 29.2% 50歳代 12.5%、60歳代 8.3%、70歳代 4.2%、80歳以上 2.0%	性別 男性 47% 女性 53%
会期中の観覧者数 (30年度) 観覧者数 1,504人、総入館者数 4,688人	《参考》過去3年の観覧者数 (29年度) 観覧者数 1,567人、総入館者数 3,376人 (平成29年度夏季展示『自然のふしぎをあそぼう』) (28年度) 観覧者数 1,965人、総入館者数 5,773人 (平成28年度夏季展示『まもる自然・つくる環境Ⅲ』) (27年度) 観覧者数 1,401人、総入館者数 3,823人 (平成27年度夏季展示『まもる自然・つくる環境—こんなのみつけたよ—』)	満足度 展示を良かったと評価した人の割合 96.8%	
シナリオ ①私たちが1日に使う水②上水道・下水道のしくみ③池や川の景観のうつりかわり④水の科学—水の分子模型—⑤安全に暮らすために(防災・減災)⑥吹田にいる虫⑦伝統野菜 吹田くわい⑧すいたまちなか水族館⑨地下水濾過模型展示⑩自然はっけんシート	リポート率 市内 62% 市外 23%	来館のきっかけ 市内 市報 23%、チラシ 17%、公園掲示 17%、知人から 13%、HP 8%、ポスター 3%、学びの情報 2%、その他 17% 市外 HP 26%、市報 11%、公園掲示 7%、チラシ 4%、知人から 4%、DM 4%、新聞等 4%、ブログ 4%、ポスター 3%、その他 33%	
調査とその公表 【調査】 上下水道の処理方法の調査、吹田の古絵図と現在の川池の変遷調査、防災知識・防災グッズの調査、千里丘陵の地層に関する調査。 【出版物】 『博物館だより』No.70(夏季展示特集号)	【とてもよかった・よかった】(抜粋) ・古地図&防災コーナー。ペットボトルの壁も圧巻。(市内70代男性) ・水の使い方を考えさせられました。トイレの1回あたりに使う水の量についても、災害時には大変な量だと思いました。(市内40代女性) ・わかりやすく、展示だけではなく作ったり押したり、実験があったり、子どもたちも楽しかったようです。(市内30代女性) ・水の仕組みがわかりやすかった。防災での持ち物や備える物がわかりやすかった。折り紙コーナーは親切に教えていただいて楽しかった。(市内40代女性) ・今の生活を下支えする上水道と下水道の仕組みをわかりやすく展示していてよかったです。(市内50代男性) ・子どもでも見やすい高さ・文字の大きさだと思いました。入口のトンネルやペットボトルの展示等、視覚的にも楽しめました。 ・(魚の)お面がたのしかった。水の音が楽しかった。 ・溜池のことなど、知らないことがいろいろあった。(市内60代女性)	【とてもわるかった・わるかった】 (記載なし)	
関連イベント ()内は実施回数 講演会(3)、フォーラム(1)、展示解説(1)、発表会(2)、夏休み工作(7)、親子体験講座(2)、体験イベント(13)、見学会(2)、観察会(5)、上映会(1)、朗読会(1)、演奏会(2)、クイズラリー(5)、展示室ワークショップ(19)	市民参画 公募による市民実行委員による展示及び関連イベントの企画、準備、運営		
広報 市立小学校全児童・市立幼稚園全園児にチラシ配布 吹田市報 ホームページ 吹田市公式Facebook			
取材・報道 産経新聞			
記録 展示・関連イベントの写真、市民実行委員による各イベントの動画			
目標の達成度・自己評価		委員の評価・評価点	評価点
わかりやすく、川の水が飲み水になるまで・下水が川に帰るまでの上下水道処理をパネル、模型で紹介した。また、私たちが1日に使う水を240リットル分のペットボトルで展示し、視覚に訴える展示にした。水の分子模型で水のしくみを立体的に表現した。水と文化を、絵図・古写真・航空写真や水鳥標本で融合した展示を行った。災害に備える展示として様々な防災グッズを展示した。今年のはたまたま災害が多かったため、より関心をもって見てもらえたと思う。 展示資料では、アライグマ・ヌートリア、水鳥標本、昆虫標本、魚など水辺の生き物標本を展示し、実物資料の充実を図った。 アンケートでは、「とてもよかった」が38名、「よかった」が52名、「わるかった」「とてもわるかった」は0名、「どちらともいえない」が3名であった。非常に来館者の満足度が高かったと言える。水のしくみがわかった、1日に使う水の量を視覚的にわかった、子どもにもわかりやすい展示だった、など実行委員が企画した意図がよく伝わっていると感じた。	(10段階)	楽しいことだけでなく、大人も子どももしっかり印象に残る展示にまとめあげたことは評価に値します。特に古地図や古い地形図、航空写真は歴史と自然環境の接点であり、有効でしょう。かつての水田をめぐる水利用と自然環境と現在の水道によって水利用と環境とのつながりが分断されている現状をうまく対比できると、テーマのまとまりがよかったのかもしれない。	(10段階)
	8		8.08

b-6. 平成30年度秋季特別展『東洋一の夢の跡 - 吹田操車場遺跡 -』 会期:10月6日~12月2日			
展覧会実績		アンケート結果(回答数 203人、回答率 10.2%)	
② 企画展示	〔展示趣旨〕 吹田操車場遺跡は、「東洋一の規模」と称えられた旧国鉄吹田操車場(1923~1984操業)の跡地(約27ha)に広がる遺跡で、摂津市域に属する範囲を明和池遺跡とする。JR梅田貨物駅の一部機能の同地への移転計画、また跡地利用の再開(北大阪健康都市整備事業)に伴い、大阪府文化財センターと吹田市教育委員会によって平成10年(1998)以降、発掘調査が行われ、旧石器時代から近代にかけての遺物が出土しているが、特に古墳~奈良時代の窯業関係の遺物・遺構、平安時代の総柱建物跡・条里関連遺構などこれまで不明であった岸部地域の古代史に新しい成果があった。本展覧会では、今秋に吹田市民病院が移転開業することを一つの区切りとして、吹田操車場遺跡の様相と明らかになった岸部地域の開発史について紹介する。	市内 66.0%	
		住まい 市外 34.0% (高槻市・茨木市・摂津市・豊中市・箕面市・池田市・大阪市・門真市・寝屋川市・枚方市・八尾市・河内長野市・泉佐野市・尼崎市・西宮市・川西市・神戸市・明石市・宝塚市・姫路市・京都市・宇治市・亀岡市・奈良市・奈良県・橿原市・和歌山市・東京都・横浜市・静岡県・伊豆の国市)	
展覧会の目標	<ul style="list-style-type: none"> ●吹田操車場遺跡の存在を周知し、これまでの発掘調査成果により、現段階の知見として岸部地域の開発史をまとめ紹介する。 ●アンケートの「とてもよかった・よかった」の割合を9割以上とする。 	年齢層 19歳以下 3.0%、20歳代 3.0%、30歳代 4.5%、40歳代 14.1%、50歳代 20.7%、60歳代 18.2%、70歳代 29.8%、80歳以上 6.6%	
会期中の観覧者数	(30年度)観覧者数 1,984人、総入館者数 9,061人	男女別 男性 74.1% 女性 25.9%	
《参考》過去3年の観覧者数	(29年度)観覧者数 1,308人、総入館者数 6,677人 (平成29年度秋季特別展『北大阪のまつりーまもりつたえる心ー』) (28年度)観覧者数 1,535人、総入館者数 9,443人 (平成28年度秋季特別展『古代の港か?祭場か?ー五反島遺跡の謎に迫るー』) (27年度)観覧者数 2,071人、総入館者数 3,812人 (平成27年度秋季特別展『絵図っておもしろー国絵図と村絵図ー』)	満足度 展示を良かったと評価した人の割合 90.6%	
シナリオ	①旧石器~弥生時代の吹田操車場遺跡②明和池遺跡の弥生時代③千里丘陵における古代窯業と吹田操車場遺跡④古代の集落⑤祭祀遺物⑥吹田操車場遺跡の近代遺物	リピート率 市内 69.5% 市外 49.3%	
調査とその公表	〔調査〕 吹田操車場遺跡・明和池遺跡出土資料調査 〔出版物〕 秋季特別展図録『東洋一の夢の跡ー吹田操車場遺跡ー』 『博物館だより』No.75(秋季特別展特集号) 〔口頭発表〕 歴史講座「吹田操車場遺跡にみる耕地開発ー嶋下郡南部条里ー」	来館のきっかけ 市内 市報 31.2%、公園掲示 18.1%、ポスター 12.3%、知人から 5.8%、HP 5.1%、DM 3.6%、チラシ 3.6%、学びの情報 0.7%、フェイスブック 0.7%、その他 18.8% 市外 チラシ 27.8%、ポスター 21.5%、HP 13.9%、知人から 6.3%、市報 5.1%、公園掲示 5.1%、DM 2.5%、学びの情報 1.3%、新聞 1.3%、ブログ 1.3%、その他 13.9%	【とてもよかった・よかった】(抜粋) ●JR岸辺駅の北側でこのような遺跡が発見されているとは知りませんでした。(市外60代男性) ●長い間、大規模な調査を全体としてまとめられたのは貴重。しかもセンターではなく地元の博物館が主体的に開催されたこと。図録も作られたことは良いと思います。(市内60代男性) ●ひとつの土地に重層的な生活があることがよくわかる展示であった。もう少し近代の発掘成果があれば良かった。(市外70代男性) ●以前より操車場が建設される以前の状態が気になっていました。田畑がほとんどだったそうで・・・(市内70代男性) ●クイズラリーで、よりよく見る感じになって良かったです。(市外40代男性) ●操車場の写真が(自分が)生まれた頃の資料なので、興味深く見れました。(市外40代男性) ●吹田操車場跡に土器などが出てきていたのを知らなかった(市内60代女性)
関連イベント ()内は実施回数	講演会(2)、歴史講座(2)、展示解説(5)、鑄造体験講座(2)、見学会(1)、クイズラリー(2)	【とてもわかった・わかった】 ●吹田操車場自体の展示とってきた(チラシの写真を見ればそう思うのも無理はないと思う)ので、全くの期待外れでした。(市外50代男性) ●企画タイトルと中味展示が中途半端です。タイトルとチラシデザインからは鉄道が中心の企画展であるかのような誤解を招きますし、一方、「健都」として未来と紐付けるにはパネル(文字)のみでは不十分です。また、とても大事ですが操車場があり、その下から広域に古代文物や様相が見られ、保存されたとのコンセプトにしても遺跡の見取り図と出土物を漫然と並べている印象があり、想像力を喚起するには足りません。条里制や荘園開発の様相が「発掘成果でどのようなことが知れたのか」も判る展示になっていません。(市外30代男性)	
市民参画	イベント(クイズラリー)	【どちらともいえない】(抜粋) ●想像図や絵等があれば、展示物の活用・利用状況がより分かりやすいのではないかと思った。(市外60代男性)	
広報	吹田市報・ホームページ・吹田市公式Facebook		
取材・報道	すいたタイムス(9月15日付)、		
記録	展示・関連イベントの写真		
目標の達成度・自己評価		委員の評価・評価点	評価点
吹田操車場については、平成25年度(2013年度)秋季特別展「交通の20世紀」で取り上げたが、その操車場の地下に眠る遺跡については、今回初めて本格的に展示テーマとした。操車場跡地は貨物駅ターミナルや「健都」として再開発がなされ、特にJR岸辺駅北側は病院や商業ビルが建ち並び、大きく景観を変えている。本展は20年に及ぶ跡地再開発に伴う発掘調査の成果を、「健都」オープンに合わせて集成し、展示をすることで遺跡の存在や発掘によって判明した新たな歴史像を紹介する目的であった。アンケートによれば、吹田操車場遺跡という遺跡への認知が広まり、そこから出土した遺物にも興味を持って観覧していただけたことが伺え、その目的は達せられたように思う。また、満足度においても90.5%の方が「とてもよかった」「よかった」との評価であった。 しかし一方で、遺跡全体を紹介するという意図に縛られすぎ、展示構成において、アンケートの「とてもわかった」「わかった」の評価にある「遺跡の見取り図と出土物を漫然と並べている印象があり、想像力を喚起するには足りません」という批判は、反省すべき点である。重要な知見をより分かりやすく展示・解説する工夫があるべきであった。 また、展示タイトルとチラシデザインから近代の「吹田操車場」そのものの展示と誤解を招いてしまったことは、展示への興味や関心を促し来場に繋げるとい点では、今後気をつけなければならないことと痛感した。		サテライトの展示、そして吹田操車場の展示は展示導入で今昔の提示が必要不可欠であろう。	(10段階)
評価点		評価点	評価点
8		8	8

b-7. 平成30年度特別企画『むかしのくらしと学校』 会期:12月11日～平成31年3月31日				
② 企画 展示	展覧会実績		アンケート結果(回答数 253人、回答率 20.4%) *回答率は学校団体見学者数を除いた観覧者数(1,238人)を母数とした。	
	[展示趣旨] 学校教育との連携を目的に、小学校3年生の社会科単元、「くらしのうつりかわり」をテーマに、ちょっとむかしの衣食住の生活用具及び子どもの遊びと学習用具などを通じて生活の変化についての理解を深める。また、子どもの探求心、学習意欲を高めるため①あかりのうつりかわり(講座室で実施)②唱歌・童謡をきこう③昔のはきもの(わら草履・下駄)をはこう④機織りをしよう⑤井戸の水運び⑥茶の間で朝ご飯⑦昔の教科書を読もう⑧火打ち石と火打ち金で火花をちらそう⑨台秤で体重をはかろう⑩昔の便所⑪赤ちゃんをおんぶしよう。⑫米づくりが始まったころ・むかしの米づくりの12か所の体験コーナーを設け、ボランティアによる展示企画・展示準備、ボランティアによる学校団体見学時の展示解説等を行う。		住まい	市内 55.7% 市外 44.3% (高槻市・茨木市・摂津市・豊中市・箕面市・池田市・大阪市・堺市・枚方市・東大阪市・守口市・寝屋川市・大東市・八尾市・富田林市・阪南市・尼崎市・西宮市・宝塚市・川西市・京都府・京都市・木津川市・奈良県・奈良市・生駒市・横浜市・さいたま市・大分市・さぬき市・カナダ・スイス)
	展覧会の目標		年齢層	19歳以下 14.3%、20歳代 7.2%、30歳代 10.8%、40歳代 16.3%、50歳代 12.7%、60歳代 17.9%、70歳代 16.7%、80歳以上 4.0%
	会期中の観覧者数		男女別	男性 61.3% 女性 38.7%
	《参考》過去3年の観覧者数		満足度	展示を良かったと評価した人の割合 97.0%
	小学校団体見学		リピート率	市内 51.4% 市外 12.6%
	出前授業(特別企画関連)		来館のきっかけ	市内 市報 24.5%、公園掲示 13.3%、HP 12.6%、知人から 9.1%、ポスター 3.5%、学びの情報 2.8%、新聞 2.8%、チラシ 1.4%、ケーブルテレビ 0.7%、DM 0.7%、その他 28.7% 市外 公園掲示 22.4%、HP 21.4%、知人から 8.2%、新聞 7.1%、チラシ 4.1%、市報 1.0%、学びの情報 1.0%、DM 1.0%、ポスター 1.0%、ブログ 1%、フェイスブック 1%、その他 30.6%
	シナリオ		【とてもよかった・よかった】(抜粋) ・子供達も楽しそうだった。さわって体験できるのが良かった。 ・昔の人々のくらしが色鮮やかに展示されていた。キャプションも端的で解りやすかった。 ・体験できる展示が多く、小さい子供から大人まで楽しみながら学習できる内容だった。	
	調査とその公表		【わるかった】 ・平凡すぎ。主張も何もない。 ・思いのほか、展示物が少なく、昔を連想させるには不十分の感があった。	
	関連活動		【出版物】展示パンフレット「むかしのくらしと学校」	
	関連イベント()内は実施回数		見学(授業)は、児童の「体験」・「さわる」学習を重視、展示室外でも講座室で暗闇体験、火おこし道具まいぎり、実際の灯明・燭台・あんどん・石油ランプと系統的にあかりを体験する「あかりのうつりかわり」、常設展示室利用の「むかしの米作り」。	
	市民参画		子供体験講座(3)、親子体験講座(2)、コンサート(1)	
	広報		むかしのくらしと学校展ボランティアの会による展示企画・準備・展示作業・撤去作業。活動日数は延べ57日間、人数は延べ495人。研修会は大東市立歴史民俗資料館の視察およびボランティアの意見交換。	
	取材・報道		市内小学校児童(1～3年生)へのチラシ配布 吹田市報・ホームページ・吹田市公式Facebook	
	記録		読売新聞・J:COM(火おこし体験取材)	
目標の達成度・自己評価		教員アンケート結果(抜粋) ●展示も分かりやすく、子供が興味を持つように配置されていてよかったです。イメージの付きにくい児童も道具を体験することで昔のくらしについて考え、今の便利さとを比較でき、それぞれの学びにつながるものと考えているからです。時間が短い中ですが、色々と体験できるのは貴重なもので、できる限り続けてほしいです。(千里第一小学校) ●解説文は3年生には少し難しいのかな、と思いますが、ボランティアの人が付いてくださり補足されているので何とか…。(吹田第一小学校) ●社会だけでなく、他の教科にもつながるものがとても多く、興味を持つものでした。「見る」だけではなく、「さわる」「着る」など実際に体験する所もたくさんあって、最後の最後までワクワクするものでした。(桃山台小学校) ●体験コーナーの周囲に展示物が置かれていたので、子供達はいろんな体験をしながら展示物にも興味を引かれて近づいて見ているようでした。資料は見やすい大きさと解説文も読みやすい分量でした。(岸部第一小学校)		
評価点		委員の評価・評価点	評価点	
市内小学校36校から28校(77.8%)が見学を訪れ、7校に出前授業を実施した。児童数では市内の第三学年児童総数3,576名のうち3,360名(93.9%)の児童が来館および出前授業を受けた。開催期間中の一般アンケートにおいても、「とてもよかった」と「よかった」の合計が97.0%とたいへん高い評価を得ている。学校から児童を引率する教員にとっても、教科社会科学習を進めるうえで、「博物館へ来てよかった」「子どもたちの興味関心を高めることができた」「実際に手で触れ、実感できる体験展示が多く、子どもたちが意欲的に学習できた」など、とても好評である。		(10段階)	(10段階)	
		9	8.77	

c. 翌年度企画展示の準備					
事業概要		点検項目		指標・目標	
翌年度企画展示の準備を行う。		■翌年度企画展示の準備を着実にいったか。		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
平成31年度春季特別展準備 貴志康一関係資料を調査 展示図録作成		令和元年度企画展準備 西村公朝関係資料を調査		令和元年度夏季展示準備 市民実行委員を公募。 平成31年1月27日に第1回夏季展示 実行委員会を開き、3月31日までに5 回開催。	
令和元年度秋季特別展準備 大塩平八郎関係資料を調査					
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点	
第2次中期計画	H30 (2018)	次年度の展示準備は、資料調査・図録製作等を確実に行うことができた。 (調査内容については、「2. 調査研究 ①館独自の自主研究事業 c.特別展・企画展に関する調査研究」の項を参照)	(10段階) 9	企画段階での第三者評価は行ったか。	(10段階) 8.69
	H29 (2017)	30年度春季特別展 西村公朝関係資料を調査、図録作成 30年度企画展 ニュータウン関係資料調査、図録作成 30年度夏季展示 公募市民による実行委員会を組織し、委員会会議を継続実施 30年度秋季特別展 吹田操車場遺跡出土遺物調査 次年度の展示準備は資料調査を確実に行うことができた。	(10段階) 9	展覧会図録の作成は、学芸員の調査研究の成果として重要であり、来館者に対するサービスとしても意義がある。 企画段階での評価の必要性がある。	(10段階) 8.00
	H28 (2016)	29年度春季特別展 田能村竹田、大坂画壇関係資料を調査、図録作成 29年度企画展 室戸台風関連資料調査 29年度夏季展示 公募市民による実行委員会を組織し、委員会会議を継続実施 29年度秋季特別展 北大阪のまつり調査 次年度の展示準備は資料調査を確実に行うことができた。	(10段階) 9	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 8.00
	H27 (2015)	28年度春季特別展 田園都市、千里山住宅地関係資料調査、図録作成 28年度企画展 金子雪操関連資料調査 28年度夏季展示 公募市民による実行委員会を組織し、委員会会議を継続実施 28年度秋季特別展 五反島遺跡出土遺物調査 次年度の展示準備は資料調査を確実に行うことができた。	(10段階) 8	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 7.77
	H26 (2014)	27年度春季特別展 西村公朝修復文化財・修理記録調査、図録作成 27年度企画展 市民ボランティア団体と意見交換会を開催 27年度夏季展示 公募市民による実行委員会を組織し、委員会会議を継続実施 27年度秋季特別展 絵図調査 春季特別展では読売新聞大阪本社、朝日新聞大阪本社、NHK大阪放送局から後援を、アサヒグループ芸術文化財団から助成金を獲得することができた。	(5段階) 4	(当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 4.0
第1次中期計画	H25 (2013)	26年度春季特別展 西尾家所蔵書画・茶道具・着物調査、図録作成 26年度企画展 市民ボランティア団体と意見交換会を開催 26年度夏季展示 公募市民による実行委員会を組織し、委員会会議を継続実施 26年度秋季特別展 市内出土瓦調査 春季特別展では資料調査を西尾家住宅と共同で確実に行うことができた。	(5段階) 4	(当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 4.0
	H24 (2012)	25年度春季特別展 行基関連資料調査、図録作成 25年度企画展 気比家旧蔵資料調査 25年度夏季展示 公募市民による実行委員会を組織し、委員会会議を継続実施 25年度秋季特別展 吹田操車場関連資料・名神高速道路関連資料調査	(5段階) 4	(当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 4.0
	H23 (2011)	24年度春季特別展 中西家所蔵美術資料調査、図録作成 24年度企画展 市民ボランティア団体と意見交換会を開催 24年度夏季展示 公募市民による実行委員会を組織し、委員会会議を継続実施 24年度秋季特別展 千里ニュータウン関連資料調査	—	(当該事項に関するコメントなし)	—
	H22 (2010)	当該項目に相当する内容での自己点検・自己評価は行っていない。	—	(当該事項に関するコメントなし)	—

② 企画展示					
d. 連携展示の実施(第1次中期計画は「他の施設・団体との連携」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
さまざまな連携に基づく展示を継続実施する。		■出張展示・連携展示を実施したか。		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
[出張展示] 「ニュータウン誕生一千里&多摩ニュータウンの都市計画と人々」 平成30年6月9日～7月8日(会場;ニュータウン情報館) 観覧者数 987人 ・兵庫県立人と自然の博物館「共生のひろば」 会期;平成30年2月11日 観覧者数 305人			[連携展示] パルテノン多摩歴史ミュージアムとの連携展示 「ニュータウン誕生一千里&多摩ニュータウンの都市計画と人々」 平成30年4月1日～5月27日(会場;パルテノン多摩歴史ミュージアム) 観覧者数 11,821人		
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	出張展示 ・「ニュータウン誕生一千里&多摩ニュータウンの都市計画と人々」(会場;ニュータウン情報館) ・兵庫県立人と自然の博物館「共生のひろば」 連携展示 ・パルテノン多摩歴史ミュージアム「ニュータウン誕生一千里&多摩ニュータウンの都市計画と人々」 パルテノン多摩歴史ミュージアムとの連携展示が新年度も継続して実施され、吹田会場においても多摩ニュータウン資料を中心に展示テーマとなっている地元ニュータウン情報館において出張展示を実施した。「共生のひろば」は平成28年度から継続実施しているもので、夏季展のPRになるとともに他の組織の取組を知り活動の参考となる点で貴重な取組となっている。	(10段階) 8	「ニュータウン誕生一千里&多摩ニュータウンの都市計画と人々」展などの出張展示、連携展示は、今後さらに全国的に求められる博物館のあり方であり、特に東京都多摩市など遠方の博物館との連携は、ダイナミックな館の運営モデルとして、吹田市立博物館の格をあげる上でも意義ある展覧会だったと思われる。ニュータウン情報館での展示なども、地元へのアピールとして評価できる。 自然が入っているが、連携テーマがニュータウン展示に偏りすぎている。絵画、祭り、建造物方面での展開を期待したい。短期の目先よりも長期的な展望戦略が必要。	(10段階) 7.92
	H29 (2017)	出張展示 ・内本町コミュニティーセンター「さわれる博物館」 ・兵庫県立人と自然の博物館「共生のひろば」 ・吹田市立市民公益活動センター 連携展示 ・パルテノン多摩歴史ミュージアム「ニュータウン誕生一千里&多摩ニュータウンの都市計画と人々」 今年度は例年行ってきた青少年クリエイティブセンター「きしべプラザ」の出張展示は実施しなかったが、初めて内本町コミュニティーセンターで「さわれる博物館」の出張展示を行った。「さわる月間」で協力をいただいたボランティアからの発案でもあり、これまでの市民参画活動の効果が目に見えていた。また、博物館を訪れたことのない人たちへ博物館の存在と活動を発信する場ともなった。パルテノン多摩歴史ミュージアムとの連携展示は、「ニュータウン」のつながりで実施されたが、共通の歴史事象をキーワードにした、今後の連携展示のあり方に示唆を与えるものであった。	(10段階) 7	館を出て市内での展示や、多摩歴史ミュージアムのような離れた地域の博物館施設との交流や企画展開催は、本館の将来の発展を考える上でも重要であり、今後も期待したい。 新たな出張展示を行ったことは評価できるが、一方で例年行ってきた「きしべプラザ」との連携が途絶えてことは残念である。不実施の原因・理由を検証し、今後活かしていくべきである。	(10段階) 7.45
	H28 (2016)	出張展示 ・きしべプラザ「岸部の歴史とむかしのくらし」 ・兵庫県立人と自然の博物館「共生のひろば」 ・吹田市立市民公益活動センター 出張展示は岸部地域の歴史と博物館の存在をPRするよい機会。市民公益活動センター、兵庫県立人と自然の博物館「共生のひろば」と出張展示では、夏季展のPRと市民参画への呼びかけと積極的に外部へ情報発信。	(10段階) 7	平成28年度は北大阪ミュージアム・ネットワークとしての連携展示が行われなかったが、中核館としてネットワークをリードしていくような企画展を推進してもらいたい。また、地域の諸施設への出前展示は、普段は博物館に来ない層に対するPR効果も望め、地域博物館としての存在意義を高めることに繋がっていくであろう。	(10段階) 7.45
	H27 (2015)	出張展示 ・きしべプラザ「岸部の歴史とむかしのくらし」 ・吹田市立市民公益活動センター 連携展示 ・北大阪ミュージアム・ネットワーク「北大阪の絵画」 北大阪ミュージアム・ネットワークにおいて初めて連携展示を開催。出張展示については、博物館の地元の岸部地域へ向いて、博物館の存在をPRするよい機会となっている。市民公益活動センターへの出張展示も実施し、夏季展のPRと市民参画への呼びかけ等と積極的な外部への情報発信を果たしている。	(10段階) 8	他機関との多様な連携は、北大阪ミュージアム・ネットワークの中核館である吹田市立博物館の特色として定着しているように思えるが、今後もさらに明確にそれを打ち出した企画展を推進してもらいたい。	(10段階) 7.92
	H26 (2014)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 出張展示 ・きしべプラザ「岸部の歴史とむかしのくらし」 ・吹田市立市民公益活動センター 連携展示 ・帝塚山大学附属博物館「秋季特別展『一片の瓦から一東アジアにふれる』」	(5段階) 4	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 秋季特別展「一片の瓦から一東アジアにふれる」では、帝塚山大学附属博物館と連携することにより、七尾瓦窯跡・吉志部瓦窯跡の歴史的意義をきわめて効果的に示すことができた。	(5段階) 3.8
H25 (2013)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 出張展示 ・きしべプラザ「岸部の歴史とむかしのくらし」 共催展示 ・浜屋敷「企画展『吹田村庄屋 気比家の絵画』」 ・旧西尾家住宅(26年度春季特別展準備)	(5段階) 4	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.6	
H24 (2012)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 出張展示 ・きしべプラザ「岸部の歴史とむかしのくらし」 共催展示 ・浜屋敷「企画展『吹田村庄屋 気比家の絵画』」 ・千里ニュータウン情報館「ニュータウン半世紀展」 市民参画で行った秋季特別展がもたらした新たな展開であり、積極的な外部への情報発信を果たすよい例となった。	(5段階) 3	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 千里ニュータウン情報館との共催で出張展示「ニュータウン半世紀展」を開催し、多数の観覧者を得た。	(5段階) 3.3	
H23 (2011)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 出張展示 ・きしべプラザ「岸部の歴史とむかしのくらし」 ・フィールドミュージアムトーク史遊会「博物館へ行こう」	—	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 出前展示については業務の多い中であって博物館の存在を広く示すことができ、評価できる。出前授業とリンクさせて実施すれば、さらなる展開が期待できる。	—	
H22 (2010)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 出張展示 ・きしべプラザ「岸部の歴史とむかしのくらし」	—	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 出前展示については業務の多い中であって博物館の存在を広く示すことができ、評価できる。出前授業とリンクさせて実施すれば、さらなる展開が期待できる。	—	

② 企画展示					
e. 西村公朝展示の定期的開催 (第1次中期計画は「西村公朝資料の活用検討」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
西村公朝資料の受入れ後に資料活用として定期的な展示を実施する。		■西村公朝資料の活用を検討し、展示を行っているか。		■平成29年度の受け入れ完了後、毎年定期的な企画展示を開催する。	
平成30年度(2018年度)実績					
[常設展示] さわるコーナーにてふれ愛観音を常設展示。		[応接室ギャラリー] 西村公朝作品の彫刻3点を常設で展示。		[寄贈・寄託] 平成31年3月30日付けで西村家より西村公朝作品の寄贈・寄託を受けた。 ・寄贈 66点 ・寄託 1点	
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	春季特別展として「西村公朝 芸術家の素顔」を開催。その他応接室ギャラリーおよびロビーさわる展示コーナーにて常設展示を実施。31年度以降は企画展において定期的な公開活用を図る計画である。	(10段階) 9	西村公朝作品を多数収蔵している館として、その効果的な公開を続けていることが評価できる。 西村公朝を多彩に公開できるようになったが、公朝の基本情報の展示方法に工夫がいるのではないか。	(10段階) 8.85
	H29 (2017)	収蔵庫増設工事の竣工に伴い、西村公朝資料を受け入れた。今後は、30年度春季特別展を開催し、31年度以降の企画展で定期的な公開活用を図る計画である。	(10段階) 9	収蔵庫の増設の実現は意義が大きい。西村公朝作品の有効な活用も期待される。 常設展示へと大幅な展示スペースを増加させるのは常設展示の恒常的展示に圧迫、弊害を及ぼすと感じる。バランスを考慮した開催を望む。	(10段階) 9.00
	H28 (2016)	ふれ愛観音を常設展示。収蔵庫増設が29年度に予算化、30年度春季特別展、その後の定期的な企画展の開催など西村資料の受入れ後の活用に向けて、展示計画を具体化。	(10段階) 7	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 7.00
	H27 (2015)	西村公朝作品の受け入れが遅れている。「ふれ愛観音」を長期借用し、さわれる仏像レプリカとともに、常設展示をした。あわせて受入れ後にはすみやかに公開できるよう、準備を進めている。	(10段階) 6	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 6.08
第1次中期計画	H26 (2014)	(「西村公朝資料の活用検討」・「収蔵庫拡幅の検討」の項目で点検・評価) 西村公朝資料は吹田市にとってかけがえのない資料群であり、従来の館蔵コレクションとはやや性格を異にするものであり、博物館の新たな可能性をもたらすものである。収集を前提に保管場所の確保のため収蔵庫の増設について予算化を働きかけたが、財政的見通しがたたず、引き続き検討することになった。	(5段階) 2	(「西村公朝資料の活用検討」・「収蔵庫拡幅の検討」の項目で評価) 西村公朝資料は、館蔵コレクションを充実、そして新たな特色を作り出す上で博物館に不可欠な資料群である。こうした資料群の受け入れを可能にしていくためにも収蔵庫の拡充は継続して求めていかなければならない課題である。展示のリニューアル同様、予算が厳しいことがあるが、案の提示が予算獲得の第一歩であろう。	(5段階) 2.3
	H25 (2013)	(「西村公朝資料の活用検討」・「収蔵庫拡幅の検討」の項目で点検・評価) 西村公朝資料は館蔵コレクションの性格を一変する可能性があり、収集を前提に保管場所の確保について継続的に検討した。その最適な保管場所となる収蔵庫の増設は今後の財政的見通しを考慮しながら計画を継続的に検討する。	(5段階) 2	(「西村公朝資料の活用検討」・「収蔵庫拡幅の検討」の項目で評価) 西村公朝資料については、館内の事情等に拘りすぎており、例えば、市役所ロビー、校舎、公共施設等での展示管理を検討するなど教育委員会をはじめ市全体で公開を前提とした取り組みも急務かと思われる。	(5段階) 2.3
	H24 (2012)	(「西村公朝資料の活用検討」・「収蔵庫拡幅の検討」の項目で点検・評価) 収集資料を保管していく収蔵スペースの不足を解決するべく収蔵庫の増築計画は進展していない。その点で館蔵コレクションの性格を一変する可能性があるといわれている西村公朝資料の収集が進捗していない。収蔵庫の増設は継続して検討していくべき課題である。	(5段階) 2	(「西村公朝資料の活用検討」・「収蔵庫拡幅の検討」の項目で評価) 収蔵庫の増設については、財政当局、議会筋、関係文化団体等への積極的な働きかけが継続的に必要と思われる。	(5段階) 2.5
	H23 (2011)	(「西村公朝資料の活用検討」・「収蔵庫拡幅の検討」の項目で点検・評価) 西村公朝資料は館蔵コレクションの性格を一変する可能性があり、収集を前提に保管場所の確保について継続的に検討した。その最適な保管場所となる収蔵庫の増設は今後の財政的見通しを考慮しながら計画を継続的に検討する。	—	(「西村公朝資料の活用検討」・「収蔵庫拡幅の検討」の項目で評価) 西村公朝資料についてはその価値を内外にアピールし、そのための収蔵スペース確保に努力していただいたい。また、新規資料収集のためにも収蔵庫の増設に関する予算措置等に早期に対応すべきである。	—
	H22 (2010)	(「西村公朝資料の活用検討」・「収蔵庫拡幅の検討」の項目で点検・評価) 西村公朝資料受け入れのための収蔵庫拡幅を計画。実施計画に提出。「不実施」の査定。	—	(「西村公朝資料の活用検討」・「収蔵庫拡幅の検討」の項目で評価) 『西村公朝作品・資料目録(西村家蔵)』の刊行は、資料活用のための成果物として評価できる。	—

4. 地域学習の拠点と連携		過去の総合評価点	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平成30年度総合評価点	7.86
			4.00	3.70	3.49	3.49	3.33	6.79	7.52	7.66		
① 地域学習の支援	a.幅広い年齢層への催事の実施(第1次中期計画は「子ども・若年層のイベントの実施」)											
	事業概要		点検項目				指標・目標					
	幅広い年齢層を対象とした催事の充実を図る。		■対象となる年齢層を意識し、バランスのとれた催事を実施したか。				《指標》(過去8年間の平均値) ■イベント回数 137回/年、参加者数 6,957人/年					
	平成30年度(2018年度)実績											
	下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。											
	年度	実績・自己点検・自己評価				評価点	外部評価				評価点	
	H30(2018)	イベント回数 150回(一般 84回 子供・親子 66回) 参加者数 6,905人(一般 3,505人 子供・親子 3,400人) イベント回数、特に子ども、親子向けイベントの増加は、主に夏季展示のイベントが再度増加したことによる。夏季展示は子どもをターゲットにした市民参画展示であり、委員の日頃の活動成果を示す場ともなっている。一方、その他の展示はイベント減となった。高学年の参加を狙った企画もある。				(10段階) 7	イベント回数、特に子ども、親子向けイベントの増加は、主に夏季展示のイベントが再度増加したことによる。夏季展示は子どもをターゲットにした市民参画展示であり、委員の日頃の活動成果を示す場ともなっている。一方、その他の展示はイベント減となった。高学年の参加を狙った企画もある。				(10段階) 7.46	
	H29(2017)	イベント回数 129回(一般 77回 子供・親子 52回) 参加者数 5,995人(一般 3,585人 子供・親子 2,410人) イベント回数の減少は、主に夏季展示のイベントのあり方を見直し回数を削減したことによる。夏季展示に限らず子ども対象のイベントは低年齢化の傾向は続いているが、広報や内容の検討など高学年の参加者を促すような試みも必要である。				(10段階) 7	回数的にはルーチンで限界に達しているため、参加者の固定化を回避しながら、多様、多面的な催事の展開を期待する。				(10段階) 7.27	
	H28(2016)	イベント回数 147回(一般 86回 子供・親子 61回) 参加者数 7,637人(一般 3,795人 子供・親子 3,842人) 展示ごとに観覧者層ターゲットを意識。子ども・若年層への取り組みは夏季展示、特別企画を中心に実施。小学校低学年の内容でも幼児が多く低年齢化の傾向。今後の対応を検討。				(10段階) 7	春季・秋季とも高年齢層や若年層と小学生など個別年齢層を意識した特別展等に取り組んでおり、また、視覚障がい者層にも目配りした企画展にその方たちが多く利用しているなど大いに評価できる。引き続き魅力的な催事を工夫・実施することを期待している。				(10段階) 7.09	
	H27(2015)	イベント回数 113回(一般 79回 子供・親子 34回) 参加者数 6,353人(一般 4,728人 子供・親子 1,625人) 展示ごとにターゲットとする観覧者層をある程度意識して実施した。子ども・若年層への取り組みにおいては夏季展示、特別企画を中心に幅広く実施できた。				(10段階) 6	高齢者層にも配慮した春・秋季特別展の取り組み姿勢は、ふだんにできない貴重な文化財に触れることができ、高齢者を満足させた点は大いに評価できる。				(10段階) 6.08	
H26(2014)	(「子ども・若年層のイベントの実施」の項目で点検・評価) イベント回数 120回(一般 83回 子供・親子 37回) 参加者数 7,193人(一般 4,086人 子供・親子 3,107人) 子ども・若年層へのイベント取り組みの度合いは夏季展示、特別企画を中心に幅広く実施できた。展示アンケート結果については変わらずイベントの満足度は高く、リピート率も高い。				(5段階) 3	(「子ども・若年層のイベントの実施」の項目で評価) 「子ども・若年層のイベント」については、25年度に比して、回数・参加者数とも減少したが、その分、子ども・若年層には有益なイベントが多かったと思われる。ただし、子どもへの働きかけにイベント回数や参加者数の割合で図るのは妥当なのだろうか。みのかも市民ミュージアムの取り組みを参考にし、引き続き努力していただきたい。				(5段階) 3.4		
H25(2013)	(「子ども・若年層のイベントの実施」の項目で点検・評価) イベント回数 138回(一般 99回 子供・親子 39回) 参加者数 9,052人(一般 4,967人 子供・親子 4,085人) 夏季展示、特別企画を中心に秋季特別展でも実施できた。そのため子供・親子の参加人数では440人の増加があった。展示アンケート結果に基づくイベントの満足度は高く、リピート率も高い。				(5段階) 3	(「子ども・若年層のイベントの実施」の項目で評価) 「子ども・若年層のイベント」においてはゴールデンウィークや夏休みを利用し、各種イベントの立ち上げに意欲的に取り組んでおり、長期休暇期間のイベント数と参加者数が増加している。イベントの準備において種々創意工夫が講じられており、大いに評価できる。子ども、若年層の参加者増加は将来の礎となるので今後も努力が必要かと思う。				(5段階) 3.8		
H24(2012)	(「子ども・若年層のイベントの実施」の項目で点検・評価) イベント回数 175回(一般 132回 子供・親子 43回) 参加者数 9,897人(一般 4,967人 子供・親子 3,645人) 夏季展示、特別企画を中心に秋季特別展でも実施できた。そのため子供・親子の参加人数では1,302人の増加があった。展示アンケート結果に基づくイベントの満足度は高く、リピート率も高い。				(5段階) 3	(「子ども・若年層のイベントの実施」の項目で評価) 子ども及び若年層に対するイベントを子どもが出かけやすい学校の長期休暇の期間を利用して積極的に実施し、参加者数割合も25%を占め、かなりの割合になっている。				(5段階) 3.7		
H23(2011)	(「子ども・若年層のイベントの実施」の項目で点検・評価) イベント回数 151回(一般 112回 子供・親子 39回) 参加者数 8,634人(一般 6,191人 子供・親子 2,343人)				—	(「子ども・若年層のイベントの実施」の項目で評価) 多種多様な数多くの事業を実施し、子ども・若年層に対するイベントや出前講座なども積極的にを行い、地域学習に大きく貢献していることは評価できる。こうした取り組みは負担もあるが、今後も博物館の本来の業務をおろそかにしない範囲で続けていただきたい。また本来ターゲットとすべき若年層については参加が難しいところもあり、抜本的な方策を検討する必要がある。				—		
H22(2010)	(「子ども・若年層のイベントの実施」の項目で点検・評価) イベント回数 123回(一般 85回 子供・親子 38回) 参加者数 7,245人(一般 4,811人 子供・親子 2,434人)				—	(「子ども・若年層のイベントの実施」の項目で評価) ゴールデンウィークや夏季展示において子ども向けイベントを積極的に実施した点は利用者層の幅を広げ、若年層への学習提供という点では評価できるが、大人の市民には博物館を楽しんでもらうことが大切である。生涯学習という言い方もあるが、大人にとって博物館は知的に楽しむ施設である。				—		

b.博物館利用講座・バックヤードツアー				
事業概要		点検項目	指標・目標	
博物館の利用法や日常業務の理解を深めるバックヤードツアー、ワークショップなどの活動を推進する。		■博物館利用方法の講座等を実施したか。	■バックヤードツアーの実施回数(1回/年)	
平成30年度(2018年度)実績				
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。				
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018) 親子を対象に「博物館のおしごと体験とバックヤードツアー」として実施。 実施日 7月27日 参加者数 41人。 内容 学芸員体験ワークショップ、バックヤード見学 バックヤードの見学だけでなく、学芸員の仕事を体験してもらい、博物館の業務を体験を通じて理解してもらったことになった。	(10段階) 8	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 7.77
	H29 (2017) 親子を対象に「博物館のしごと体験とバックヤードツアー」として実施。 実施日 8月15日 参加者数 58人。 内容 学芸員体験ワークショップ、バックヤード見学	(10段階) 8	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 8.00
	H28 (2016) 親子を対象に「博物館のしごと体験とバックヤードツアー」として実施。 実施日 8月23日 参加者数 14人。 内容 美術資料調査の取り扱い、バックヤード見学	(10段階) 8	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 7.81
	H27 (2015) 親子を対象に「博物館のしごと体験とバックヤードツアー」として実施。 実施日 8月20日 参加者数 23人 内容 土器の接合、調査カード作成、バックヤード見学	(10段階) 6	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 6.25
第1次中期計画	H26 (2014) 親子を対象に「夏休み親子博物館ツアー」として実施。 実施日 8月15日 参加者数 30人 内容 博物館の沿革、機能解説、施設見学	(5段階) 3	参加者数より地域の教育関係者の意見のていねいなヒアリングのほうが見事に富むだろう。博物館がどういう思いで行っているのを示す活動とセットで対話できることが望ましい。	(5段階) 3.0
	H25 (2013) 親子を対象に「親子で収蔵庫見学ツアー」として実施。 実施日 8月22日 参加者数 12人 内容 博物館の沿革、機能解説、施設見学	(5段階) 3	博物館利用講座・バックヤードツアーは展示場だけの公開でなく博物館の役割を知ってもらい、博物館に親しみをもってもらうためにも博物館の建物について見てもらうことが必要かと思われる。	(5段階) 3.2
	H24 (2012) 親子を対象に「博物館バックヤードツアー」として実施。 実施日 8月23日 参加者数 18人 内容 博物館の沿革、機能解説、施設見学	(5段階) 3	バックヤードツアーは、博物館を知る良い機会となっており、良いことである。	(5段階) 3.2
	H23 (2011) 親子を対象に「博物館バックヤードツアー」として実施。 実施日 8月12日 参加者数 19人 内容 博物館の沿革、機能解説、施設見学	—	バックヤード見学は、博物館の収蔵品のあり方、その扱いに対する館の姿勢を顕示するとともに身近に感じさせ、博物館そのものに対する理解を深めさせる意義があり、博物館利用を促進する一環として評価できる。今後もこの試みを継続していただきたい。	—
	H22 (2010) 親子を対象に「博物館バックヤードツアー」として実施。 実施日 8月25日 参加者数 16人 内容 博物館の沿革、機能解説、施設見学	—	バックヤードツアーは、かつて宮城県美術館が行っていた「美術(博物)館探検」を参考にしているかどうか。	—

c.出前講座・依頼講座													
事業概要				点検項目				指標・目標					
出前講座などの講師派遣を継続実施する。				■出前講座の回数・参加者数				《指標》(過去8年間の平均値) ■出前講座回数・参加者数(29回/年・1,040人/年) ■依頼講座回数・参加者数(2回/年・67人/年)					
平成30年度(2018年度)実績													
[出前講座](外部の依頼にて館外で実施する講座)													
回数	40回	(連携先) 《内訳》	図書館 2回	公民館 6回	その他 公共施設 16回	市民団体 6回	小・中・高校 0回	大学 1回	博物館等 3回	研究機関 1回	学会 1回	その他 4回	
参加者数	1,127人		48人	133人	216人	276人	0人	2人	106人	11人	21人	314人	
[依頼講座](外部の依頼にて館内で実施する講座)													
回数	1回	《内訳》	0回	0回	0回	0回	1回	0回	0回	0回	0回	0回	
参加者数	3人		0人	0人	0人	0人	3人	0人	0人	0人	0人	0人	
年度	実績・自己点検・自己評価				評価点	外部評価						評価点	
第2次中期計画	H30 (2018)	出前講座 40回・参加者数 1,127人 依頼講座 1回・参加者数 3人 講師派遣の要請は増加し、過去最高となった。博物館の存在が周知されている表れと考えられる。今後も可能な限り積極的に応じていきたい。				(10段階) 9	高齢者の増加に伴い、公民館・図書館・市民センター等公的機関からの講師派遣要請が増加傾向にある。この増加する高齢者の知的要求を満たし、教養を高める機会を提供する存在として益々その役割が強く期待されている。運営途上、困難が生ずるかもしれないが、可能な限り継続していただきたい。50回が限界に感じるが、出前先のジャンルや年齢、特に小中高大学生や老年層への対応はどうか。出前を仕掛ける工夫があるのでないか。やや精査して依頼の件数の確保を考えたい。						(10段階) 8.84
	H29 (2017)	出前講座 38回・参加者数 1,508人 依頼講座 3回・参加者数 62人 講師派遣の要請は増加している。今後も積極的に応じていきたい。				(10段階) 9	増加する高齢者ニーズへの対応が出前講座の開催回数・参加者増加につながっていると考える。今後も継続を希望する。						(10段階) 9.00
	H28 (2016)	出前講座 37回・参加者数 1,378人 依頼講座 0回 出前講座は回数、参加者数例年並みであるが、講師派遣の要請があれば、積極的に出向くようにしている。				(10段階) 9	開催回数・参加者数とも27年度に比べ増加に転じている。近年の高齢者の増加に伴い、講座内容に対する市民、特に高齢者の欲求は益々増加傾向にあるので、可能な限り市民文化センター・公民館等からの講師派遣要請に継続対応してあげて欲しい。						(10段階) 8.81
	H27 (2015)	出前講座 32回・参加者数 1,090人 依頼講座 1回・参加者数 20人 出前講座は回数、参加者数ともに若干減少した。				(10段階) 8	開催回数、参加者数とも26年度より減少したものの、講座内容に対する市民の聴講欲求は高く、市民が気安く講師依頼でき、また気楽に学べる環境をこれからも継続工夫して欲しい。						(10段階) 8.50
	H26 (2014)	出前講座 37回・参加者数 1,260人 依頼講座 3回・参加者数 99人 回数、参加者数ともに20%増であり、博物館に情報を求め、それに応える地域学習の拠点としての存在感が増している状況である。				(5段階) 4	25年度に比べて開催回数、参加人数とも大きく増加し、一段と意欲的な取り組み姿勢がうかがえる。開催場所も浜屋敷・大学・図書館・公民館等々の市民が気楽に足を運べる公的な場所であり、市民が肩肘張らずに学べる環境を継続的に提供していることは大いに評価することができる。						(5段階) 4.0
第1次中期計画	H25 (2013)	出前講座 32回・参加者数 959人 依頼講座 2回・参加者数 36人 昨年を大きく上回り、博物館に情報を求め、それに応える地域学習の拠点としての存在感が増している状況である。				(5段階) 4	年間開催件数32回、毎月3回弱の割でその回数の多さと積極性には頭が下がる。市民目線に立って実施される講座は市民の地域学習に大きく寄与している。地域学習の拠点としての役割をさらに重要視して、博物館の存在価値を認めてもらうように学校だけでなく、市民の中に入っていく努力を継続すべきである。						(5段階) 4.0
	H24 (2012)	出前講座 20回・参加者数 550人 依頼講座 2回・参加者数 54人 昨年を大きく上回り、博物館に情報を求め、それに応える地域学習の拠点としての存在感が増している状況である。				(5段階) 4	出前講座は積極的に行われ、地域学習の拠点としての役割を十分担っており、大いに評価できる。						(5段階) 4.1
	H23 (2011)	出前講座 17回・参加者数 827人 依頼講座 0回				—	多種多様な数多くの事業を実施し、子ども・若年層に対するイベントや出前講座なども積極的に行い、地域学習に大きく貢献していることは評価できる。こうした取り組みは負担もあるが、今後も博物館の本来の業務をおろそかにしない範囲で続けていただきたい。また本来ターゲットとすべき若年層については参加が難しいところもあり、抜本的な方策を検討する必要がある。						—
	H22 (2010)	出前講座 21回・参加者数 745人 依頼講座 5回・参加者数 262人				—	(当該事項に関するコメントなし)						—

d.レファレンス業務										
事業概要			点検項目				指標・目標			
レファレンスサービスの一層の充実をはかる。			■レファレンス件数				指標・目標値は設定していない。			
平成30年度(2018年度)実績										
【レファレンス対応件数】										
	(H30年度)	(H29年度)	(H28年度)	(H27年度)	(H26年度)	(H25年度)	(H24年度)	(H23年度)	(H22年度)	
観覧者(観覧者による質問等)	4	9	11	13	4	35	12	1	2	
来館(質問のために来館)	20	26	16	14	8	26	16	16	16	
電話(アクセス・利用案内等は除く)	18	11	15	18	14	7	16	19	11	
FAX	0	1	0	0	1	0	1	0	1	
Eメール	1	0	4	12	5	8	3	2	0	
郵便	0	1	2	0	0	0	0	0	0	
合計	43	48	48	57	32	76	48	38	30	
年度	実績・自己点検・自己評価			評価点	外部評価				評価点	
第2次中期計画	H30(2018)	レファレンス対応件数 43件 レファレンス数は前年度より減少している。質問者の傾向は変化がなく、質問のための来館者が最も多く、電話、観覧者と続く。FAX、Eメール、郵便はほとんどなかった。質問内容は観覧者は展示内容に関するものであり、電話によるものは吹田の歴史に関係するが、地名、伝説、寺社、〇〇の場所や名称を問うものが多い。来館者については古文書の読みに関するものが3割程度あり、特徴的である。その他は神社、古墳、城、街道、道標、伝説、芸能など展示で取り上げておらず、電話と重なる事項が中心である。			(10段階) 7	一番多いのは来館者による質問、次いで電話による照会・観覧者みよる質問であるが、情報発信拠点としての役割を担っている関係からスマホ・PCによるネット照会も可能となるよう検討する必要がある。(Eメール化、回答業務の効率化) 通常90%は同じような質問になるので、質問内容の多いものに対するマニュアル化を行い、専門性のある対応に比重を掛ける仕掛けがしているのでは。より深い専門性が高い内容の普及リーフレットを作成してはどうか。				(10段階) 7.15
	H29(2017)	レファレンス対応件数 48件 レファレンス数は前年度と同数であるが、来館による質問が増加している。今後はEメールによるレファレンス対応の周知と方法を検討していくことが必要である。			(10段階) 7	件数も評価対象ではあるが、レファレンスにおける質問内容の分析が必要であり、事業に活かすことが重要であろう。				(10段階) 7.09
	H28(2016)	レファレンス対応件数 48件 レファレンス数は減少しているが、博物館に情報を求め、それに応える地域学習の拠点としての機能は果たしている。			(10段階) 7	(当該事項に関するコメントなし)				(10段階) 6.90
	H27(2015)	レファレンス対応件数 57件 レファレンスはかなり増加しており、かわらず博物館に情報を求め、それに応える地域学習の拠点としての存在感が増している状況である。			(10段階) 6	(当該事項に関するコメントなし)				(10段階) 6.33
	H26(2014)	レファレンス対応件数 32件 窓口表示準備中。			(5段階) 3	レファレンス業務については、強化を強く望みたい。地域図書館との連携にもヒントがあるかもしれない。				(5段階) 3.0
第1次中期計画	H25(2013)	レファレンス対応件数 76件 窓口表示準備中。			(5段階) 3	レファレンス業務は情報拠点としての博物館の存在感が示されている。しかし、博物館がこの業務に携わっていることを知らない市民は今なお多くいると思われる。博物館窓口や出版物にこの業務を案内表示することは有効と思われる。				(5段階) 3.1
	H24(2012)	レファレンス対応件数 48件 窓口表示準備中。			(5段階) 3	レファレンスは情報拠点としての博物館の存在感が示されている。このサービスがわかるような表示の準備を進めて欲しい。				(5段階) 3.2
	H23(2011)	レファレンス対応件数 38件 窓口表示準備中。			—	レファレンス業務や特別利用についても博物館として必要なことであり、評価できる。今後とも充実を図っていただきたい。				—
	H22(2010)	レファレンス対応件数 30件 窓口表示準備中。			—	展示・イベント情報だけでなく、吹田等に関する様々な情報について来館しなくても知ることができる博物館固有のサービス源の開発が必要ではなからうか。博物館は市民にとって大切な文化的情報のメディアの1つであることを指摘したい。情報拠点としての機能を強化していくことで、レファレンス、特別利用もさらなる増加が見込めるものと考えられる。博物館に行けば問題が解決するような解説機能の強化も図ってほしい。				—

② 連携					
a. 旧西尾家住宅・旧中西家住宅との連携事業 (第1次中期計画は「旧中西家・西尾家資料の収集」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
旧西尾家住宅、旧中西家住宅とのさまざまな連携を進める。		■旧西尾家住宅、旧中西家住宅との連携事業を実施したか。		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	旧西尾家住宅 地震、台風の影響により休館となり、バスツアー「すいた歴史ぐるっとめぐり」、北大阪ミュージアムメッセに展示ブース設置のいずれもが中止となった。「貴志浩一」をテーマとする平成31年度春季特別展関連として資料調査と出品計画をたてる。 旧中西家住宅 ・中学生職場体験にて旧中西家住宅を見学 地震、台風の影響により休館となり、バスツアー「すいた歴史ぐるっとめぐり」、北大阪ミュージアムメッセに展示ブース設置のいずれもが中止となった。	(10段階) 7	地震・台風等による影響により建物に被害を受けたことにより評価はなし。 台風はいたしかたないが、これからは代替え案の想定もありえるか。	(10段階) 6.92
	H29 (2017)	旧西尾家住宅 ・旧西尾家住宅主催バスツアー「すいた歴史ぐるっとめぐり」にて秋季特別展展示解説 ・北大阪ミュージアムメッセに展示ブース設置 ・旧西尾家住宅所蔵資料を博物館収蔵庫に収納(文化財保護課) 旧中西家住宅 ・29年度春季特別展「田能村竹田展」準備に係る調査 ・北大阪ミュージアムメッセに展示ブース設置 ・中学生職場体験にて旧中西家住宅を見学 西尾家所蔵資料(美術工芸)は市に寄贈された。今後は資料の活用を含めた連携を検討・実施していきたい。	(10段階) 7	旧西尾家住宅から市に寄贈された美術工芸等資料を整理し、将来の有効な活用を検討していることを評価する。「すいた歴史ぐるっとめぐり」も含め、今後の展開を期待する。	(10段階) 7.09
	H28 (2016)	旧西尾家住宅 ・29年度春季特別展「田能村竹田展」準備に係る調査 ・北大阪ミュージアムメッセに展示ブース設置 旧中西家住宅 ・29年度春季特別展「田能村竹田展」準備に係る調査 ・北大阪ミュージアムメッセに展示ブース設置 ・中学生職場体験にて旧中西家住宅を見学 寄贈に向けて目録整理作業をさらに進めていきたい。	(10段階) 7	旧西尾家住宅・旧中西家住宅と連携し、「すいたグルッと歴史めぐり」見学会等に共同参加している。	(10段階) 7.18
	H27 (2015)	旧西尾家住宅 ・美術資料調査(文化財保護グループと共同実施) ・北大阪ミュージアムメッセに展示ブース設置 旧中西家住宅 ・北大阪ミュージアムメッセに展示ブース設置 ・中学生職場体験にて旧中西家住宅を見学 西尾家、中西家から美術品について調査整理を終え次第、市に寄贈したいとの意向が示された。目録整理作業につとめていきたい。	(10段階) 6	旧西尾家住宅・旧中西家住宅の美術品整理に意欲的に連携事業を展開している。	(10段階) 6.38
	H26 (2014)	(「旧中西家・西尾家資料の収集」の項目で点検・評価) 旧西尾家住宅 ・書簡調査(27年度春季特別展準備) ・北大阪ミュージアムメッセに展示ブース設置 旧中西家住宅 ・北大阪ミュージアムメッセに展示ブース設置 ・中学生職場体験にて旧中西家住宅を見学	(5段階) 3	(「旧中西家・西尾家資料の収集」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.4
第1次中期計画	H25 (2013)	(「旧中西家・西尾家資料の収集」の項目で点検・評価) 旧西尾家住宅 ・書画、茶道具、着物類の調査(27年度春季特別展準備) ・北大阪ミュージアムメッセに展示ブース設置 旧中西家住宅 ・北大阪ミュージアムメッセに展示ブース設置 ・中学生職場体験にて旧中西家住宅を見学	(5段階) 4	(「旧中西家・西尾家資料の収集」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 4.0
	H24 (2012)	(「旧中西家・西尾家資料の収集」の項目で点検・評価) 旧西尾家住宅 ・資料調査 ・北大阪ミュージアムメッセに展示ブース設置 旧中西家住宅 ・春季特別展「大庄屋中西家名品展」において資料の公開 ・北大阪ミュージアムメッセに展示ブース設置	(5段階) 3	旧中西家・旧西尾家関係資料の収集も行われている。これらはもちろん評価できることであるが、いずれも特別展に関連して行われものであり、日常的に未調査の市内旧家の古文書発掘・整理等は行われていない。	(5段階) 3.6
	H23 (2011)	(「旧中西家・西尾家資料の収集」の項目で点検・評価) 旧西尾家住宅 ・資料調査 旧中西家住宅 ・春季特別展「大庄屋中西家名品展」に係る所蔵資料調査	(5段階) —	(「旧中西家・西尾家資料の収集」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) —
	H22 (2010)	当該項目に相当する内容での自己点検・自己評価はしていない。	(5段階) —	(当該事項に関するコメントなし)	(5段階) —

② 連携					
b. 図書館・公民館との連携事業(第1次中期計画は「他の施設・団体との連携」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
図書館、公民館、その他生涯学習施設との連携事業を実施する。		■図書館、公民館、その他生涯学習施設との連携事業を実施したか。		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	図書館 出前講座 2回(48人) 公民館 出前講座 6回(延べ133人) 浜屋敷 出前講座 5回(延べ66人) 内本町コミュニティセンター 出前講座 1回(延べ36人) 豊一市民センター 出前講座 6回(59人) 千里ニュータウン情報館 出前講座 2回(40人) 市内生涯学習施設 出前講座 3回(128人) 市外生涯学習施設 出前講座 2回(69人) 図書館、公民館、浜屋敷との連携は堅調であり、今年度は豊一市民センター等との連携が大きく伸びた。その他の連携も増え、さらに幅が広がった。低年齢層向けの市民公益活動センターへの出張展示は展示内容の見直しをはかり、今年度は行わなかった。	(10段階) 8	増加する高齢者が文化知識向上、知的欲求を充足させるため気楽に近隣の公民館、図書館、コミュニティセンター等を利用するニーズが高まっており、このニーズに応じて公民館・図書館と連携して講師派遣・場所提供等を効率的に運営しており、大いに評価できる。 学芸員のスキルに頼ったものがほとんどであるが、博物館利用ガイドンス、特に低年齢層向けは必要だと思われる。	(10段階) 8.92
	H29 (2017)	図書館 出前講座 1回(30人) 公民館 出前講座 5回(延べ82人)、展示案内 2回(延べ39人) 浜屋敷 出前講座 3回(延べ44人) 内本町コミュニティセンター 出前講座 8回(延べ121人)、出張展示 1回 豊一市民センター 出前講座 1回(70人) 千里ニュータウン情報館 出前講座 1回(13人) 市民公益活動センター 出前講座 1回(58人)、出張展示 1回 市外生涯学習施設 出前講座 2回(116人)	(10段階) 7	市民が気軽に足を運べる住居地区の図書館・公民館・文化センターの要望に対して、意欲的に出前講座をにんじており、大いに評価できる。	(10段階) 7.18
	H28 (2016)	図書館 出前講座 2回(延べ86人) 公民館 出前講座 9回(延べ205人) 浜屋敷 出前講座 7回(延べ98人) 市民公益活動センター 出張展示 1回 青少年クリエイティブセンター 出張展示 1回	(10段階) 7	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 7.18
	H27 (2015)	図書館 出前講座 3回(延べ131人) 公民館 出前講座 4回(延べ151人) 浜屋敷 出前講座 8回(延べ113人) 市民公益活動センター 出張展示 1回 青少年クリエイティブセンター 出張展示 1回	(10段階) 6	地域の図書館・公民館との講座開催や見学会等に新たに共同参画し、意欲的に連携事業を展開している。	(10段階) 5.85
	H26 (2014)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 図書館 出前講座 2回(延べ65人) 公民館 出前講座 8回(延べ180人)、依頼講座 1回(35人) 浜屋敷 出前講座 7回(延べ116人) 市民公益活動センター 出張展示 1回 青少年クリエイティブセンター 出張展示 1回 市外公民館 出前講座 1回(70人)	(5段階) 4	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 「出前講座・依頼講座」は25年度に比べて回数、参加人数とも大きく増加し、一段と意欲的な取り組み姿勢がうかがえる。開催場所も浜屋敷・大学・図書館・公民館等々の市民が気楽に足を運べる公的な場所であり、市民が肩肘張らずに学べる環境を継続的に提供していることは大いに評価することができる。	(5段階) 3.8
第1次中期計画	H25 (2013)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 図書館 出前講座 3回(延べ74人) 公民館 出前講座 1回(15人) 浜屋敷 出前講座 7回(延べ140人)、連携展示 1回 千里ニュータウン情報館 出前講座 1回(23人) 市民公益活動センター 出張展示 1回 青少年クリエイティブセンター 展示案内 1回(17人)、出張展示 1回	(5段階) 4	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.8
	H24 (2012)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 図書館 出前講座 1回(28人) 公民館 出前講座 1回(25人) 浜屋敷 出前講座 8回(延べ138人) 千里ニュータウン情報館 出張展示 1回、出前講座 2回(延べ13人) 青少年クリエイティブセンター 出張展示 1回	(5段階) 3	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.3
	H23 (2011)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 図書館 出前講座 2回(延べ78人) 公民館 出前講座 5回(延べ378人) 浜屋敷 出前講座 5回(延べ67人) 青少年クリエイティブセンター 出張展示 1回	(5段階) —	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) —
	H22 (2010)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 図書館 出前講座 2回(延べ73人) 公民館 依頼講座 2回(延べ133人) 浜屋敷 出前講座 5回(延べ111人) 青少年クリエイティブセンター 出張展示 1回	(5段階) —	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 地域の連携については、ますます地域の文化の情報拠点であるコアの役割を担い、他の博物館、文化施設とも広く連携を図ることを期待する。	(5段階) —
	H21 (2010)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 図書館 出前講座 2回(延べ73人) 公民館 依頼講座 2回(延べ133人) 浜屋敷 出前講座 5回(延べ111人) 青少年クリエイティブセンター 出張展示 1回	(5段階) —	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 地域の連携については、ますます地域の文化の情報拠点であるコアの役割を担い、他の博物館、文化施設とも広く連携を図ることを期待する。	(5段階) —

c. 北大阪ミュージアム・ネットワークとの連携 (第1次中期計画は「他の施設・団体との連携」)				
事業概要	点検項目		指標・目標	
北大阪ミュージアム・ネットワークの連携事業を進展させる。	■北大阪ミュージアム・ネットワークの連携事業を実施したか。		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績				
北大阪ミュージアムメッセ (各館展示紹介ブース、合同エキシビション、文化芸術イベント、日本万国博覧会遺跡ツアー) 実施日: 11月17日～11月18日 会場: 国立民族学博物館 参加者: 5,527人(2日間合計)		シンポジウム「大阪でEXPOを考える! 博覧会の歩みー'70万博への道ー」 実施日: 1月12日 会場: 関西大学梅田キャンパス KANDAI MeRISEホール 参加者: 120人 (「2. 調査 ②共同研究事業 a. 北大阪ミュージアム・ネットワークとの共同調査・事業」の項を参照)		
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30(2018) 北大阪ミュージアム・ネットワーク会長館として連携事業を進めた。文化庁より外部資金を獲得し、北大阪ミュージアムメッセ及びシンポジウムを実施した。「大阪万博50周年」を控え、今年度からその回顧と歴史的検証を活動の重点テーマとし、メッセにおいても同テーマでネットワークの館収蔵品による合同エキシビションを初めて実施し、記録となる図録も刊行した。参加者数も5,527人と過去最高を記録した。シンポジウムも博覧会をテーマに実施した結果、120名の聴衆を集め、好意的なアンケート結果を得た。北大阪の文化資源の発信、地域連携に中心的な役割を果たすことができた。	(10段階) 9	北大阪ミュージアム・ネットワークのリーダー館として各館との連携に腐心し、北大阪の文化資源発信センターの中心的役割を果たしたことは大いに評価できる。	(10段階) 8.77
	H29(2017) 北大阪ミュージアム・ネットワーク事業(文化庁補助金) ・北大阪ミュージアムメッセ(参加者 延べ4,011人) ・シンポジウム「北大阪のまつり」(聴講53人) ネットワークの強化とネットワークの紹介、広域ネットワークの長所を活かし、北大阪の文化資源を多くの方に発信することができた。	(10段階) 8	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 8.09
	H28(2016) 北大阪ミュージアム・ネットワーク事業(文化庁補助金) ・北大阪ミュージアムメッセ(参加者 延べ3,503人) ・シンポジウム「現代に問う自然系ミュージアム」(聴講56人) ネットワークの強化とネットワークの紹介、広域ネットワークの長所を活かし、北大阪の文化資源を多くの方に発信することができた。	(10段階) 8	北大阪ミュージアム・ネットワークについては、北大阪ミュージアムメッセやシンポジウムを開催するなど意欲的に連携事業を展開し、中核館として大きな役割を果たしている。	(10段階) 7.00
	H27(2015) 北大阪ミュージアム・ネットワーク事業(文化庁補助金) ・北大阪ミュージアムメッセ(参加者 延べ3,533人) ・連携展示「北大阪の絵画」(参加者 延べ774人) ・シンポジウム「北大阪の絵画をめぐって」(聴講85人) ネットワークの強化と紹介、広域ネットワークの長所を活かし、北大阪の文化資源を多くの方に発信することができた。	(10段階) 8	平成25年度より開始した北大阪ミュージアムメッセも軌道に乗り、北大阪の文化資源発信に効果的な役割を果たす。	(10段階) 7.92
第1次中期計画	H26(2014) 北大阪ミュージアム・ネットワーク事業(文化庁補助金) ・北大阪ミュージアムメッセ(参加者 延べ3,780人) ・シンポジウム「これから売り出すわが館の一手・一品」(聴講37人) 広域ネットワークの長所を活かし、参加者も昨年を上回り北大阪の文化資源をより多くの方に発信することができた。	(5段階) 4	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 北大阪ミュージアム・ネットワークの機能を生かし、北大阪にあるたくさんの方の文化資源情報をより多くの人に紹介し、その情報共有の媒介者としての役割を適正に果たしていることが参加者増加をうながしたものであり、十分評価できる。ただ、活動だけの評価でなく、有形・無形のものを含め館にどのような財産が残るのかを一つの判断基準として考えるべきであろう。	(10段階) 3.8
	H25(2013) 北大阪ミュージアム・ネットワーク事業(文化庁補助金) ・北大阪ミュージアムメッセ(参加者 延べ3,247人) ・シンポジウム「謎の古墳を探る」(聴講68人) 文化庁補助金により初めてメッセを開催。ネットワークの強化とネットワークの紹介、北大阪の文化資源の発信に取り組めた。	(5段階) 4	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 北大阪ミュージアム・ネットワークにおいてはシンポジウムに加え、新たに北大阪ミュージアムメッセを開催し、ネットワークの紹介・強化等に向けて前向きに行動しており、積極的な地域連携事業を進めていることを示すものとして評価できる。一過性のイベントでなく、博物館間のノウハウ交換や相互理解につながるような更なる発展を期待したい。	(10段階) 3.8
	H24(2012) 北大阪ミュージアム・ネットワーク事業 ・ネットワーク紹介パネル巡回展 ・シンポジウム「こんなんあんねん! 地域でがんばるいろいろミュージアム」(聴講62人) 外部資金を獲得できなかったが、パネル巡回展やシンポジウムを実施し、新たな活動の展開がみえてきた。	(5段階) 3	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 北大阪ミュージアム・ネットワーク事業は新たな取り組みへの意欲が感じられ、評価できる。今後もより積極的な活動を行っていただきたい。	(5段階) 3.3
	H23(2011) 北大阪ミュージアム・ネットワーク事業 吹田市立博物館・高槻市立今城塚古代歴史館・島本町立歴史文化資料館の3館をめぐり、展示解説を行うバスツアーを実施。	—	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 他館との連携については、高槻市など歴史に力を入れている団体との連携は評価できる。しかし、北大阪ミュージアム・ネットワーク事業が、実際には3館めぐりとなったことについては、やや安易な取り組みであったように思われる。	—
	H22(2010) 北大阪ミュージアムネットワークは11月の全体会にて22年度・23年度事業を論議。参加館の「メーリングリスト」を作成。	—	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 北大阪ミュージアム・ネットワークの活動がやや停滞しているようである。北大阪という広域において多くの他館と連携を図るネットワーク組織は全国的にも数少ないものであり、是非軌道に乗せていってほしい。	—

② 連携					
d.近隣館との連携事業(第1次中期計画は「他の施設・団体との連携」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
近隣館との連携事業を実施する。		■近隣館との連携事業を実施したか。		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
歴史街道推進協議会「西国街道連携事業」 (次項「e.吹田郷土史研究会との連携事業」を参照) 12月8日 歴史街道リレートーク『名所図会でたどる西国街道』(参加者203人(会場:吹田市立千里丘市民センター)にパネリストとして参加 「摂津名所図会にみる吹田の名所」(池田)					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	西国街道連携事業は西国街道沿いの市町の博物館と歴史街道推進協議会が連携する大阪府域を超えての広域連携事業である。今年度は歴史街道推進協議会の事情によりリレーウォークが中止となり、リレートークのみの実施となったが、会場を吹田市の施設を利用し、共催事業とした。各館のスタンプラリーや事業チラシには展覧会情報を掲示するなどの工夫をこらし、広域連携ならではの広報効果がでている。今後も継続して参加していきたい。	(10段階) 7	今回はリレートークのみ。市民の根強い支持を得ており、リレーウォークともども事業継続を期待する。	(10段階) 7
	H29 (2017)	西国街道連携事業 リレートークに参加し、「垂水布施屋と古代の道」(中牧館長)を口頭発表。(吹田郷土史研究会との共催事業は次項「e.吹田郷土史研究会との連携事業」を参照) 西国街道といった広域連携の利点をさらにのばしていくことにつなげていきたい。	(10段階) 7	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 7.18
	H28 (2016)	西国街道連携事業 リレートークに参加し、「吹田をめぐる街道と鉄道」(藤井)を口頭発表。(吹田郷土史研究会との共催事業は次項「e.吹田郷土史研究会との連携事業」を参照) 西国街道といった広域連携の利点をさらにのばしていくことにつなげていきたい。	(10段階) 7	歴史街道推進協議会とは西国街道連携事業において地元歴史団体「吹田郷土史研究会」と共同で企画し、「西国街道」関連の講演会及びそれに関する歴史ウォークを実施して、西国街道に繋がる吹田市内の街道沿いに存在する歴史的遺物・歴史的建造物を紹介するなど市民の文化意識向上に役立っている。	(10段階) 6.82
	H27 (2015)	西国街道連携事業 リレートークに参加し、「在郷町吹田ー吹田津と舟運のにぎわいー」(藤井)を口頭発表。(吹田郷土史研究会との共催事業は次項「e.吹田郷土史研究会との連携事業」を参照) 西国街道といった広域連携の利点をさらにのばしていくことにつなげていきたい。	(10段階) 6	歴史街道推進協議会の西国街道連携事業においては、毎年講演会と歴史ウォークを開催し、西国街道に関する歴史遺物、歴史的建造物等に対する興味を市民の間に呼び起こして多くの参加者を得ている等、市民の生涯学習に役立っている。	(10段階) 5.85
第1次中期計画	H26 (2014)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 西国街道連携事業 リレートークに参加し、「亀岡街道 大坂への道」(藤井)を口頭発表。(吹田郷土史研究会との共催事業は次項「e.吹田郷土史研究会との連携事業」を参照) 西国街道といった広域連携の利点をさらにのばしていくことにつなげていきたい。	(5段階) 4	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 歴史街道推進協議会の西国街道連携事業は、吹田郷土史研究会との共催事業として連年継続しており、また、他の博物館との有機的な広域連携事業とも繋がっており、事業期間中の参加者数が増加していることは注目したい。市民の支持を得ている証左であり評価できる。	(5段階) 3.8
	H25 (2013)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 西国街道連携事業 吹田郷土史研究会との共催にて講演会および現地見学会を各1回実施。(詳細は次項「e.吹田郷土史研究会との連携事業」を参照) 西国街道といった広域連携の利点をさらにのばしていくことにつなげていきたい。	(5段階) 4	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 歴史街道推進協議会の西国街道連携事業においては、他の博物館との連携による「西国街道」を軸とした広域にわたる歴史文化を市民に伝える事業に積極的に取り組んでいる。今後も広域連携を着実に継続させていくことによって、より一層多くの市民の支持が得られるものと期待する。	(5段階) 3.8
	H24 (2012)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 西国街道連携事業 吹田郷土史研究会との共催にて講演会および現地見学会を各1回実施(詳細は次項「e.吹田郷土史研究会との連携事業」を参照) 西国街道といった広域連携の利点をさらにのばしていくことにつなげていきたい。	(5段階) 3	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 西国街道連携事業は地域として関連、興味あることで、大いに継続実施されたい。	(5段階) 3.3
	H23 (2011)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 西国街道連携事業 吹田郷土史研究会との共催にて講演会および現地見学会を各1回実施。(詳細は次項「e.吹田郷土史研究会との連携事業」を参照)	—	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 西国街道連携事業は広域な歴史文化を理解する上でも必要と思われる、さらなる展開を期待する。広域連携の積極的推進により相互の施設利用はもとより、より広域的な活動や文化財等の普及が進むものと思われる。	—
	H22 (2010)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 西国街道連携事業 吹田郷土史研究会との共催にて講演会および現地見学会を各1回実施。(詳細は次項「e.吹田郷土史研究会との連携事業」を参照)	—	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 地域の連携については、ますます地域の文化の情報拠点であるコアの役割を担い、他の博物館、文化施設とも広く連携を図ることを期待する。	—

② 連携					
e. 地元歴史団体との連携事業 (第1次中期計画は「他の施設・団体との連携」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
吹田郷土史研究会などとの連携事業を実施する。		■ 地元歴史団体との連携事業を実施したか。		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
吹田郷土史研究会との連携事業「すいた再見ウォーク」を実施した。					
【講演会】 10月20日 受講者数 45人 「勝尾寺参詣－大坂からの信仰道－」 吹田郷土史研究会副会長 上村和功氏 「下新田(春日)の歴史」(池田)		【すいた再見ウォーク】 10月21日 参加人数 40人 「旧街道でめぐる北大阪電鉄車庫と春日集落」 ガイド:吹田郷土史研究会副会長 上村和功氏			
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	西国街道連携事業において、リレーウォークが中止となったため、独自の連携事業「すいた再見ウォーク」として、例年どおり講演会とウォークを実施した。歴史街道による広域広報がなかったためか参加者は昨年より減少した。しかし、対象とした春日地区は急速にマンションが増え、新住民が増えている地域であり、参加者には自分の住んでいる地域の周辺にはどのような場所や歴史があるのかを知るためといった新たな参加者層も目立った。実際現地へ足を運ぶという手段と市民連携を用いて地域の歴史に関心を持ってもらう貴重な機会として継続していきたい。	(10段階) 8	博物館と地元「吹田郷土史研究会」が共同企画する歴史街道推進協議会主催の「西国街道連携事業」に関するリレートーク及びウォークの開催について、連絡・打ち合わせ等を密にして事業を推進しており、毎年参加者が多く盛況である。今後も継続実施を期待する。	(10段階) 7.92
	H29 (2017)	吹田郷土史研究会共催事業 講演会(9月5日) 参加者 86人 『津門の中道』の考察－秀吉の『中国大返し』－(上村和功氏) 「津門の中道周辺の遺跡をめぐる」(西本) 歴史街道リレーウォーク (9月24日) 参加者 56人 「津門の中道－秀吉の中国大返しの道をたどる－」	(10段階) 8	博物館と地元「吹田郷土史研究会」が共同で企画する西国街道連携事業は、毎年多くの市民の参加を得ている。市民の歴史文化意識の向上と生涯学習に大きく貢献している。	(10段階) 8.09
	H28 (2016)	吹田郷土史研究会共催事業 講演会(11月5日) 参加者 82人 「街道と信仰道－勝尾寺の点と点－」(上村和功氏) 「吹田の街道－亀岡街道と吹田街道－」(池田) 歴史街道リレーウォーク (11月6日) 参加者 55人 「西国街道と能勢街道の交差点を歩く」	(10段階) 8	歴史街道推進協議会とは「西国」街道連携事業において地元歴史団体「吹田郷土史研究会」と共同で企画し、「西国街道」関連の講演会及びそれに関する歴史ウォークを実施して、西国街道につながる吹田市内の街道沿いに存在する歴史的遺物・歴史的建造物を紹介するなど市民の文化意識向上に役立っている。	(10段階) 8.00
	H27 (2015)	吹田郷土史研究会共催事業 講演会(11月7日) 参加者 53人 「旧吹田の風景 吹田志稿の世界」(藤原学氏) 「古地図からみた吹田」(池田) 歴史街道リレーウォーク (11月8日) 参加者 49人 「在郷町吹田を歩く」	(10段階) 8	歴史街道推進協議会の西国街道連携事業においては、毎年講演会と歴史ウォークを開催し、西国街道に関する歴史遺物、歴史的建造物等に対する興味を市民の間に呼び起こして多くの参加者を得ているなど、市民の生涯学習に役立っている。	(10段階) 7.92
	H26 (2014)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 吹田郷土史研究会共催事業 講演会(9月27日) 参加者 64人 「西国街道と吹田－時代の変化と道の変遷－」(加賀眞砂子氏) 「吹田と神崎川の河川交通」(池田) 歴史街道リレーウォーク (9月28日) 参加者 44人 「西国街道 勝尾寺の鳥居と道標をめぐる」	(5段階) 4	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 歴史街道推進協議会の西国街道連携事業は、吹田郷土史研究会との共催事業として連年継続しており、また、他の博物館との有機的な広域連携事業とも繋がっており、事業期間中の参加者数が増加していることは注目したい。市民の支持を得ている証左であり評価できる。	(5段階) 3.8
第1次中期計画	H25 (2013)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 吹田郷土史研究会共催事業 講演会(9月23日) 参加者 61人 「千里ニュータウンに埋もれた地名伝承」(竹田純立氏) 「遺跡でみる千里丘陵」(高橋) 歴史ウォーク (9月28日) 参加者 31人 「旧圓照寺をめぐる伝承地と三つの池を歩く」	(5段階) 4	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 歴史街道推進協議会の西国街道連携事業においては、他の博物館との連携による「西国街道」を軸とした広域にわたる歴史文化を市民に伝える事業に積極的に取り組んでいる。今後も広域連携を着実に継続させていくことによって、より一層多くの市民の支持が得られるものと期待する。	(5段階) 3.8
	H24 (2012)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 吹田郷土史研究会共催事業 講演会(10月6日) 参加者 55人 「吹田市を貫く古道、『三嶋路』の復元」(上遠野浩一氏) 歴史ウォーク (10月7日) 参加者 31人 「垂水～片山～岸部地区」	(5段階) 3	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 西国街道連携事業は地域として関連、興味あることで、大いに継続実施されたい。	(5段階) 3.3
	H23 (2011)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 吹田郷土史研究会共催事業 講演会(10月8日) 参加者 59人 「水と吹田－水がつづる吹田の歴史」(加賀眞砂子氏) 歴史ウォーク (10月16日) 参加者 36人 「吹田の名水と街道を歩く」	—	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) 西国街道連携事業は広域な歴史文化を理解する上でも必要と思われる、さらなる展開を期待する。広域連携の積極的推進により相互の施設利用はもとより、より広域的な活動や文化財等の普及が進むものと思われる。	—
	H22 (2010)	(「他の施設・団体との連携」の項目で点検・評価) 吹田郷土史研究会共催事業 講演会(10月30日) 参加者 43人 「千里丘陵の北東部と西国街道」(竹田純立氏) 歴史ウォーク (10月31日) 参加者 34人 「吹田の名水と街道を歩く」	—	(「他の施設・団体との連携」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	—

5. 市民参画		過去の総合評価点	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平成30年度総合評価点	7.71	
①市民ニーズの把握	a. アンケートの調査・集計												
	事業概要		点検項目				指標・目標						
	来館者調査利用のニーズを把握するアンケートを引き続き実施、分析し、博物館活動に供する。		■アンケートを実施したか。 ■アンケートを分析し、館の運営に活用されているか。				■各展覧会においてアンケートを実施する。						
	平成30年度(2018年度)実績												
	アンケート実施事業(アンケート結果は「3. 展示」の各展覧会を参照)												
	<ul style="list-style-type: none"> ● 春季特別展「西村公朝 芸術家の素顔」(観覧者数2,070人、回答数 125人、回答率 6.0%) ● 企画展「ニュータウン誕生一千里&多摩ニュータウンに見る都市計画と人々」・「さわる月間」(観覧者数 1,076人、回答数 57人、回答率 5.3%) ● 夏季展示「水からかんがえよう」(観覧者数 1,504人、回答数 97人、回答率 6.5%) ● 実習展「大学生による館蔵品展－歴史・美術・考古・民俗資料がいっぱい－」(観覧者数 202人、回答数 33人、回答率 16.3%) ● 秋季特別展「東洋一の夢の跡－吹田操車場遺跡展－」(観覧者数 1,984人、回答数 203人、回答率 10.2%) ● 特別企画「むかしのくらしと学校」(観覧者数 4,078人、回答数 253人、回答率 20.4%) *特別企画の回答率は学校団体見学者数を除いた観覧者数(1,238人)を母数とした。												
	年度	実績・自己点検・自己評価				評価点	外部評価						評価点
	H30(2018)	アンケートは展覧会ごとに実施した。回答率は5.3%~20.4%と改善されたが、まだ10%を下回るものが3例残されている。改善策を講じる必要がある。また、内容分析も強化したい。				(10段階) 6	アンケートの回答率は改善されつつある。自由記入欄の回答によって各展覧会の内容が観覧者にどのように受け取られていたかがわかるようになったことを評価したい。さらに観覧者数の約40%*を占める子どもたちにとって、答えやすい評価の仕方や、ニーズの把握の方法があるのではないかとと思われる。また、アンケートの内容や答えやすさ、アンケート以外の方法についても検討を続けてほしい。 *①有料観覧者のうち小・中学生182人 ②無料観覧者のうち小・中1045人+学校行事3530人 ③総観覧者12336 (①+②)÷③≒0.386 また、昨年の評価提案が生かされていない。						(10段階) 6.08
	H29(2017)	アンケートは展覧会ごとに実施したが、回答率が低く、改善策を講じる必要がある。今年度はアンケート様式等の再検討には至らなかったが、前年度までの指摘事項も踏まえて、書きやすいアンケートへの工夫を行いたい。				(10段階) 7	2017年度も展覧会におけるアンケートの回答率は3.9%~12.4%と低かった。ここ数年の課題となっている改善に向けて早急に着手していただきたい。また、来館者のニーズを把握するためには、アンケート以外にも市民の声を直接聞く機会を設けるなどの工夫が必要である。第三者に委ねるような他種の調査とも併用すべきではないか。アンケート箱横の机で熱心にアンケートに記入している来館者を見かける。それだけ吹博やその展示について思いを持って来館されたのだろうと思う。「さらに展示をよりよくするために、お手数ですが、ご記入をよろしく願います。」という館側からの気持ちをもっと伝わるような書き方(尋ね方)があるのではないかとと思う。						(10段階) 7.18
	H28(2016)	展覧会ごとにアンケートの継続実施と分析、点検評価し、展示、教育普及計画を見直す。来館者の実態調査も。				(10段階) 8	数字の集計にとどまるのではなく、記述式で記載された内容を含めた分析が重要であろう。アンケートの様式、質問の仕方、項目の見直し検討、調査結果分析方法など改善、再検討を求めたい。講演会や講座のニーズを把握するためにも調査対象の事業範囲を拡充することも検討すべきであろう。						(10段階) 8.09
H27(2015)	展覧会ごとにアンケートの継続実施と分析を行い、展示、教育普及計画を検討し、来館者の実態を調査した。アンケートについては、今後の展示活動にどこまで反映できるか、その検討が課題となる。				(10段階) 6	アンケート調査の内容、対象、場所の検討が必要と思われる。また、アンケート以外に、より積極に入館者・利用者の意見を聞く方法の開発や、市民の声を積極的に聞く機会を設ける必要がある。						(10段階) 6.17	
H26(2014)	アンケートを実施、集計し、来館者の多様なニーズ、博物館への期待内容、今後希望する特別展のテーマなどにおいて差異をもつ実態を見いだせた。活動に反映できるように検討。				(5段階) 3	アンケート調査に加え、イベント開催時の休憩時間を活かしてのインタビューによる情報収集が有効ではないだろうか。意見交換会については、対象を幅広く捉えることと会合数を多くすることが求められる。						(5段階) 3.0	
H25(2013)	アンケートを実施、集計し、来館者の多様なニーズ、特に春季特別展と秋季特別展の来館者層において博物館への期待内容、今後希望する特別展のテーマなどにおいて差異をもつ実態を見いだせた。活動に反映できるように検討。				(5段階) 3	イベント満足度を展示アンケートから抽出し、イベント満足度・リピート率の両面から各業務の内容を分析し、とりわけ出前講座・レファレンス等においては博物館の存在感の高まりを確認した点は有意義であった。ただ、満足度の指標にとどまらず少数の意見も含めた分析を期待したい。						(5段階) 3.3	
H24(2012)	アンケートを実施、集計。今後希望する展示テーマが、アンケートを実施した際のテーマと関連深いことが多く、各来館者には展示の好みの傾向が存在することが明確となり、改めて多様な展示の必要性を認識できた。今後の展示活動に反映できるよう配慮が必要であろう。				(5段階) 3	各種展示においてアンケートを行い、任意のため回収率はそれほど高くないが、満足度を把握したことは評価できる。今後は第三者評価のシステムを構築する必要がある。分析結果を公にすることも必要である。集計・分析・開示で可能な改善を進めていくことを期待する。						(5段階) 3.4	
H23(2011)	展覧会ごとのアンケートは実施、集計したが、活用は検討中。				-	アンケートについて、「イベント満足度は未調査」とあるが、これはイベント参加者の印象や意見を館が把握していないということであり、改善の必要がある。イベントの評価を行う上で、アンケート調査における満足度は重要である。						-	
H22(2010)	展覧会ごとのアンケートは実施、集計したが、活用は検討中。				-	アンケート調査は活用目的をはっきりさせることが必要である。観覧者の満足度を測るためには一定の効果が期待できるが、その結果を将来の展示に反映させるかが重要である。その点で、途中評価が重要と考える。						-	

②市民との連携					
a.博物館事業への市民の参画(第1次中期計画では「市民との協働・連携事業」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
特別展や講座、トークなどの講師や「博物館だより」などへの執筆について市民参画をマネジメントする。		<ul style="list-style-type: none"> ■教育普及の場に市民参画が進んだか。 ■市民参画は館の活性化に寄与しているか。 		《指標》(過去8年間の平均値) <ul style="list-style-type: none"> ■夏季展示実行委員会 委員数 26人 ■市民講師(講演会・シンポジウム等) 10件 ■市民講師(体験講座・見学会等) 63件/年 ■市民による執筆 7件/年 	
平成30年度(2018年度)実績					
[夏季展示実行委員会] 夏季展示は公募市民による展示実行委員会を組織し、展示企画、準備、運営、イベント開催、広報に関わった。 [市民講師] 講演会やシンポジウム、体験型講座・見学会などの講師を依頼した。 [原稿執筆] 博物館だよりにおいて原稿執筆を依頼した。 (特別企画「むかしのくらしと学校展」における市民参画については、「5. 市民参画 ③ボランティア a.特別企画への参入」の項を参照)					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	夏季展示実行委員会 委員数 26人 活動日数 延べ89日 市民講師 講演会等 2件、体験講座・見学会等 62件 市民による執筆 博物館だより 5件、館報(研究報告) 0件 夏季展示に加わった委員の数は増えた。また、体験型講座の市民講師の大半は夏季展示のイベントによるもので、市民活動に裏付けされた企画・運営の効果といえるが、委員に活動の意義を感じ活動の継続が維持できるかが課題となる。	8 (10段階)	多くの市民が博物館事業に参画していること、それを積極的に推進しサポートしている博物館の努力を評価する。ただ、夏季展示における市民参画について、単年度募集の実行委員会ではテーマの継続性やスキルの蓄積が難しいのではないか、長期的な実行委員会のあり方が必要ではないかと指摘されてきた。引き続き検討を重ねる必要があると考える。また、積極的に市民参画を促し、博物館をより活性化させるためには、市民が参画していることをより一層広報する必要があると考える。	7.85 (10段階)
	H29 (2017)	夏季展示実行委員会 委員数 22人、活動日数 延べ77日 市民講師 講演会等 3件、体験講座・見学会等 60件 市民による執筆 博物館だより 5件、館報(研究報告) 1件 体験型講座の市民講師の大半は夏季展示のイベントによるもので、市民実行委員会形式の企画・運営の効果が出ている。また、新規の実行委員も増え、子ども目線を意識した展示への改良も加えられた。	8 (10段階)	夏季展示の市民実行委員会や関連イベントの講師、博物館だよりへの執筆など、多くの市民が博物館事業に参画した。市民が博物館を自らの学びと活動の場として楽しみ、親しみを持つことで、夏季展示のみならず博物館全体に活性化をもたらす。博物館が工夫を重ねつつ市民参画の場を提供していることを評価したい。他の企画においても積極的に市民との連携として活動の場を提供していくことが望まれる。ただ、夏季展示実行委員会の活動期間の短さや人員不足から活動に余裕がないように見える。改善を望みたい。一般市民への広報には工夫の余地があるのではないかと考える。	7.91 (10段階)
	H28 (2016)	夏季展示実行委員会 委員数 24人、活動日数 延べ77日 市民講師 講演会等 2件、体験講座・見学会等 85件 市民による執筆 博物館だより 3件 市民参画は夏季展示と特別企画を中心に充実した展開。夏季展示では幅広い多彩な活動を展開し、実行委員数は増加。展示は学校教育との連携を深め、身近な自然を発見する参加型展示へ。	8 (10段階)	市民と連携して事業を展開するという点においては、夏季展示の実行委員、特別企画のボランティアをはじめ、「さわる月間」の福祉団体、その他各展示会のイベントへのボランティアの参加など、充実した市民参加があり、多様な市民参画の場を提供していることは評価できる。今後もより多くの幅広い市民団体との連携、特に社会教育団体との連携が望まれる。	7.64 (10段階)
	H27 (2015)	夏季展示実行委員会 委員数 15人、活動日数 延べ91日 市民講師 講演会等 1件、体験講座・工作講座・見学会等 54件 市民による執筆 博物館だより 8件 夏季展示では公募市民による展示実行委員会を組織し、展示の企画、運営、イベント開催、広報と幅広い多彩な活動を展開し、活動日数と延べ人数も増加した。特に展示について学校教育との連携を深め、身近な自然を発見する参加型展示に取り組んだ。	8 (10段階)	市民団体との連携は、ほぼすべての企画に市民団体が参加し、内容を一層重質させたことを評価したい。夏季展示の市民実行委員による体制が確立されつつあることは評価したい。展示を実行委員の自己満足に終わることがないように日頃の学習や研修も必要である。	8.00 (10段階)
	H26 (2014)	(「市民との協働・連携事業」の項目で点検・評価) 夏季展示実行委員会 委員数 21人 市民講師 講演会等 5件、体験講座・見学会等 45件 市民による執筆 博物館だより 5件 市民参画は夏季展示と特別企画を中心に充実した展開。夏季展示では幅広い多彩な活動を展開し、活動日数と人数も増加。展示は学校教育との連携を深め、身近な自然を発見する参加型展示へ。	4 (5段階)	(「市民との協働・連携事業」の項目で評価) 企画展示の市民参加は充実している。特に夏季展示では、毎年公募の市民実行委員により企画・準備・運営が行われているのはすばらしいことである。	4.0 (5段階)
第1次中期計画	H25 (2013)	(「市民との協働・連携事業」の項目で点検・評価) 夏季展示実行委員会 委員数 19人 市民講師 講演会等 11件、体験講座・見学会等 55件 市民による執筆 博物館だより 4件 夏季展示では公募市民による展示実行委員会を組織し、展示の企画、運営、イベント開催、広報と幅広い多彩な活動を展開した。教育普及事業への参画は年々実績を積み、質的に向上している。	4 (5段階)	(「市民との協働・連携事業」の項目で評価) 企画展示の市民参加は充実している。特に夏季展示では、「自然と環境」を主テーマとし、5年間にわたって公募による市民実行委員により企画・準備・運営が行われているのはすばらしいことである。	4.2 (5段階)
	H24 (2012)	(「市民との協働・連携事業」の項目で点検・評価) 夏季展示実行委員会 委員数 20人 秋季特別展実行委員会 委員数 25人 市民講師 講演会等 22件、体験講座・見学会等 79件 市民による執筆 博物館だより 12件、館報(研究報告) 2件	4 (5段階)	(「市民との協働・連携事業」の項目で評価) 夏季展示は自然と環境をテーマとして、毎年、市民参画の岸城で実施されてきているものであるが、今後は中期的なテーマ設定が最低限必要となる。そのため学芸員の「知恵」が重要となる。	4.0 (5段階)
	H23 (2011)	(「市民との協働・連携事業」の項目で点検・評価) 春季特別展実行委員会 委員数 40人 夏季展示実行委員会 委員数 28人 市民講師 講演会等 21件、体験講座・見学会等 58件 市民による執筆 博物館だより 7件	—	(「市民との協働・連携事業」の項目で評価) 企画展示において市民参画を多く取り入れ、市民参画の充実性に欠けるところがないものとなっている。今後も企画展は、市民参加を基調とした事業計画で地域社会の発展に寄与することを期待する。	—
	H22 (2010)	(「市民との協働・連携事業」の項目で点検・評価) 春季特別展実行委員会 委員数 40人 夏季展示実行委員会 委員数 27人 市民講師 講演会等 15件、体験講座・見学会等 64件 市民による執筆 博物館だより 8件、館報(研究報告) 1件	—	(「市民との協働・連携事業」の項目で評価) 市民には博物館を利用して知的に楽しむ回路を提供することに意味があると考えられる。市民キュレーター制度、博物館トーク・講座の講師への参画は、博物館の知的利用の一環として位置付けすることが博物館の活性化をもたらす。	—

b. 市民団体との連携事業(第1次中期計画は「市民との協働・連携事業」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
市民団体との連携事業を実施する。		■地元団体やサークル、NPO法人等と連携・協力が進んだか。		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
【吹博の会】 当館の活動を市民の側から盛り上げるため、市民の自発的な活動組織として、有志による「吹博の会」が平成30年1月に立ち上げられた。					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	展示事業 4件(夏季展示・特別企画・さわる月間・共生のひろば) 共催事業 3件(吹田再見ウォーク・チリメンモンスターを探せ・民話の里きしべを歩く) 市民参画によるイベント 62回 展示事業・共催事業・イベント等の教育普及活動において市民参画による事業を実施した。市民有志による「吹博の会」の博物館との連携事業となる常設展示解説、昆虫標本づくり等の準備会を実施した。	(10段階) 8	多様な市民団体が企画に参画していること、博物館がその場を提供し続けていることを評価する。また市民有志による「吹博の会」が博物館との連携事業を実施したことを評価する。市民が博物館により親しんでもらうために、市民団体との連携をより一層広報する必要がある。	(10段階) 7.92
	H29 (2017)	展示事業 3件(夏季展示・特別企画・さわる月間) 共催事業 3件(西国街道連携事業・お花見コンサート・観梅会) 市民参画によるイベント 56回 展示事業・共催事業・イベント等の教育普及活動において市民参画による事業を実施した。 今年度は市民有志による「吹博の会」が立ち上がり、今後は展示解説等の分野でも新たな活動領域が期待され、双方に有益となる協力を行っていききたい。	(10段階) 8	多様な市民団体が企画に参画したこと、博物館がその場を提供していることを評価する。市民参画によるイベント開催は56回と例年に比べて多くはないが、これは市民の負担減を考慮してのことと思われる。 市民有志による「吹博の会」が設立され、展示解説の分野で活動領域が広がったことを評価する。今後も積極的に市民団体との連携を図り活動の場を提供していくことが望まれる。 展示説明や広報で市民団体の参画を表示していることは連携の力のアピールとなっている。	(10段階) 7.91
	H28 (2016)	展示事業 3件(夏季展示・特別企画・さわる月間) 共催事業 3件(西国街道連携事業・お花見コンサート・観梅会) 市民参画によるイベント 65回 展示事業・共催事業・イベント等の教育普及活動において市民参画による事業を実施した。	(10段階) 8	市民と連携して事業を展開するという点においては、夏季展示の実行委員、特別企画のボランティアをはじめ、「さわる月間」の福祉団体、その他各展示会のイベントへのボランティアの参加等、充実した市民参加があり、多様な市民参画の場を提供していることは評価できる。今後もより多くの幅広い市民団体との連携、特に社会教育団体との連携が望まれる。	(10段階) 7.73
	H27 (2015)	展示事業 3件(夏季展示・企画展・特別企画) 共催事業 3件(西国街道連携事業・お花見コンサート・観梅会) 市民参画によるイベント 41回 展示事業・共催事業・イベント等の教育普及活動において市民参画による事業を実施した。	(10段階) 6	市民団体との連携については、ほぼすべての企画に、求めに応じて多くの市民団体が参加し、企画内容を一層充実させたことを評価したい。PTA関係、成人教育分野との連携も考えられる。	(10段階) 6.33
第1次中期計画	H26 (2014)	(「市民との協働・連携事業」の項目で点検・評価) 展示事業 3件(夏季展示・企画展・特別企画) 共催事業 3件(西国街道連携事業・お花見コンサート・観梅会) 市民参画によるイベント 45回	(5段階) 4	(「市民との協働・連携事業」の項目で評価) 団体、NPO等との連携については各々団体の目的等を十分に把握し、館の目的に沿う形で活用、共働が求められる。焦点をあわせ、役割分担を明確にする必要がある。	(5段階) 4.0
	H25 (2013)	(「市民との協働・連携事業」の項目で点検・評価) 展示事業 3件(夏季展示・企画展・特別企画) 共催事業 5件(西国街道連携事業・地球環境基礎講座・自然環境講座・お花見コンサート・観梅会) 市民参画によるイベント 55回	(5段階) 4	(「市民との協働・連携事業」の項目で評価) 「さわって楽しむはくぶつかん in すいた」で。点訳・音訳等のボランティアグループとイベントや展示案内で連携をとっていることは評価できる。しかし、市民参画は年齢別等での偏りが見られ、一層の対応が欲しい。	(5段階) 4.2
	H24 (2012)	(「市民との協働・連携事業」の項目で点検・評価) 展示事業 4件(夏季展示・企画展・秋季特別展・特別企画) 共催事業 3件(西国街道連携事業・お花見コンサート・観梅会) 市民参画によるイベント 79回	(5段階) 4	(「市民との協働・連携事業」の項目で評価) 博物館は維持、発展のために継続して博物館の内容や機能に関する知識を増やす支援を行い、企画展や特別展にあわせて開催される講演会の後援やカタログ制作等に広がる市民(ボランティア)を育成し、市民も館も成長しあうことができれば素晴らしいことと思われる。	(5段階) 4.0
	H23 (2011)	(「市民との協働・連携事業」の項目で点検・評価) 展示事業 4件(春季特別展・夏季展示・企画展・秋季特別展) 共催事業 2件(西国街道連携事業・お花見コンサート) 市民参画によるイベント 58回	-	(「市民との協働・連携事業」の項目で評価) 市民参画制度の存在を市民に幅広くPRする必要がある。その受入にはそれ相当の体制を整えることも重要な事項であり、それが可能ならさらなる多様なメンバーの参加のふくらみが期待できる。企画内容をより充実活発化させるため、メンバーは固定せず、偏らず、排他的にならないよう、総合的に年齢・性別、経験度等バランスのとれた構成を組む方策の検討が望まれる。	-
	H22 (2010)	(「市民との協働・連携事業」の項目で点検・評価) 展示事業 3件(夏季展示・実験展示・特別企画) 共催事業 1件(西国街道連携事業) 市民参画によるイベント 64回	-	(「市民との協働・連携事業」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	-

a.特別企画への参入					
事業概要		点検項目	指標・目標		
ボランティアによる学校教育連携展示への企画運営を継続実施するとともに、ミュージアムエドゥケーターとしての機能を促進する。		■ボランティア登録人数・活動日数 ■市民・博物館ともに利するボランティア活動となっているか。	《指標》(過去8年間の平均値) ■特別企画ボランティア登録人数 31人/年 ■活動日数 延べ53日/年 ■活動人数 延べ339人/年		
平成30年度(2018年度)実績					
【活動内容】 4月 特別企画の展示撤去、前年度反省会 5～11月 特別企画準備のための会議、体験用資料の制作・修繕、研修 12月 特別企画の展示作業、講習会 1～3月 小学校団体見学における解説・指導		【研修】 ●「むかしのくらしと学校」展の参考とすべく、大東市立歴史民俗資料館の視察およびボランティア交流(7月19日)。 ●「むかしのくらしと学校」展の小学校団体見学における体験コーナー解説の講習(12月12日)。			
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	特別企画ボランティア登録人数 33人 活動日数 57日 活動延べ人数 495人 研修 大東市立歴史民俗資料館の視察。ボランティア交流。 学校教育との連携展示である特別企画について展示企画・製作、学校見学対応を委託。ボランティア登録人数・活動日数、人数いずれも増加し、教員養成課程の大学生からの参加もあった。ボランティア個々の積極性が目立つ。特に団体見学対応においては、ミュージアムエドゥケーターとしては年々質が向上し、体験コーナーの指導の幅も増え、より大きな学習効果を上げている。また、北大阪ミュージアムメッセでもボランティア組織としてブースの体験展示に対応している。	(10段階) 9	ボランティアの登録人数、活動日数などが増加し、研修も実施され、積極的にかつ質の高い活動を実施していることを評価する。このボランティア活動についてもっと積極的に広報を実施し、市民のための博物館の存在意義を高めてほしい。 ボランティア自身と館の積極性が頼もしい。	(10段階) 8.77
	H29 (2017)	特別企画ボランティア登録人数 30人 活動日数 46日 活動延べ人数 359人 研修 安堵町歴史民俗資料館の視察。灯心作りを体験。 博物館ボランティアへ展示企画・製作、学校見学対応を委託。ボランティア登録人数・活動人数は減少しているが、ボランティア個々の積極性が目立つ。特に団体見学対応においては、ミュージアムエドゥケーターとして大きな役割を担い、児童の学習効果を上げている。	(10段階) 8	ボランティアの登録人数、活動日数は増えているとはいえないが、個々が積極的に関わり活動の質を維持している。特に団体見学対応では大きな役割を果たしていることを評価したい。 市民のための博物館として、これら活動は今後ますます重要と考えられる。	(10段階) 7.91
	H28 (2016)	特別企画ボランティア登録人数 39人 活動日数 59日 活動延べ人数 405人 研修 日本民家集落博物館・尼崎市立田能資料館を視察。ボランティア活動に関する意見を交換 博物館ボランティアへ展示企画・製作、学校見学対応を委託。ボランティアが体験展示の解説指導やイベントの企画と運営と展示を実質的に支える存在。見学時の案内解説活動がさらに充実。登録人数は学芸員体験講座の受講者や公募で増加。	(10段階) 8	ボランティアについては、かなり充実した、コンスタントな活動が展開されている。今後はこのレベルを維持するためにも活動メンバーの層の厚さを高めることが肝要と思料する。	(10段階) 8.18
	H27 (2015)	特別企画ボランティア登録人数 28人 活動日数 56日 活動延べ人数 370人 研修 大阪府立弥生文化博物館を視察。ボランティア活動に関する意見を交換 特別企画は博物館ボランティアへ展示の企画、製作、学校見学対応を委託した。ボランティアが体験展示の解説指導やその他の展示解説、イベントの企画と運営など展示を実質的に支える存在であり、見学時の案内解説を担う活動がさらに充実してきた。市内大学生への呼びかけにより教育系の学生の参加もあった。延べ参加者数は増加し、活動が活発化している。	(10段階) 8	夏季展示の実行委員とボランティアの交流と意見交換の場を持ち、市民参画の契機として積極的に生かすべきである。また、ボランティアに大学生が参加したことを評価したい。	(10段階) 8.00
第1次中期計画	H26 (2014)	特別企画ボランティア登録人数 24人 活動日数 58日 活動延べ人数 322人 研修 大阪府立近つ飛鳥博物館の視察 ボランティアが体験展示の解説指導やその他の展示解説、イベントの企画と運営など展示を実質的に支えている。ミュージアムエドゥケーターとしての性格はさらに強まった。ボランティアの登録人数はやや減少しているが、活動日数、のべ参加者数は逆に増えており、密度が濃くなっている。	(5段階) 4	「むかしのくらしと学校」展のボランティア参加が多かったのは喜ばしい。小学校高学年から高齢者までのあらゆる年齢層の男女がそれぞれの経験、能力を活かして快適に積極的に気軽にボランティア活動ができる環境作りときっかけ作りが肝要と思われる。	(5段階) 3.8
	H25 (2013)	特別企画ボランティア登録人数 26人 活動日数 49日 活動延べ人数 308人 研修 京都市立学校博物館の視察 ボランティアが体験展示の解説指導やその他の展示解説、イベントの企画と運営など展示を実質的に支える存在であり、ミュージアムエドゥケーターとしての性格も強まる。ボランティアの登録人数は減少しているが、活動日数、参加者数は逆に増えており、密度が濃くなっている。	(5段階) 4	ボランティアの活動日数や参加人数が増えているのは喜ばしいことであるが、今後の継続的なボランティア活動のためにも、ボランティア登録人数を増やす努力をしていくべきである。今後のボランティア組織のあり方も検討し、ボランティア研修制度のより充実化も望まれる。	(5段階) 3.5
	H24 (2012)	特別企画ボランティア登録人数 33人 活動日数 55日 活動延べ人数 294人 研修 平野まちぐるみ博物館の視察 特別企画では、博物館ボランティアへ展示制作を委託、体験展示の解説指導やその他の展示解説、イベントの企画と運営など展示を実質的に支え、博物館の利用法の一面を示す存在である。	(5段階) 4	ボランティアは順調のようであり、展示を支え、企画からフロア・スタッフ等運営までさまざまな分野で協力がなされ、多様なあり方が推進されている。	(5段階) 4.0
	H23 (2011)	特別企画ボランティア人数 33人 活動日数 50日 活動延べ人数 321人 研修 今城塚古代歴史館の視察。高槻市の文化財ボランティア団体との交流会を実施 展示の取り組みは市民の視点を導入。	—	(当該事項に関するコメントなし)	—
	H22 (2010)	特別企画ボランティア人数 32名 活動日数 46日 活動延べ人数 328名 研修 住まいのミュージアムの視察。資料取り扱い研修 展示の取り組みは市民の視点を導入。	—	特別企画はボランティアの参加を得て毎年内容が充実していることが感じ取れ、「地域に開かれた博物館」「何度も足を運びたい博物館」につながる取り組みといえる。特別企画のボランティア活動は展示の企画や運営からの参入となっており、質の高い活動となっている。	—

③ ボランティア				
b. ボランティアの活動領域の増加と研修(第1次中期計画は「多様なボランティアの育成」)				
事業概要		点検項目		指標・目標
ボランティアの活動領域をふやし、その領域に応じた計画的な研修を実施する。		■ボランティアの活動内容は充実しているか。 ■ボランティア研修を実施しているか。		《指標》(過去8年間の平均値) ■ボランティアの活動人数 429人/年 ■ボランティアの活動日数 66日/年
平成30年度(2018年度)実績				
[ボランティアの活動内容] 展示会の準備(特別企画を除く) 展示案内 イベント運営及び補助 喫茶コーナー (人数・活動日数の実績は下記「実績・自己点検・自己評価」に記載)		[ボランティア研修](特別企画以外) 展示案内のレクチャー		
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30(2018) 活動内容 特別企画以外の展示会の準備、イベント運営及び補助、展示案内、喫茶コーナー、資料整理 活動人数 延べ171人 活動日数 延べ43日 ボランティアの活動人数は微減、活動日数は増加した。今年度は大学からの依頼による大学生ボランティアを受入れ、資料整理に従事してもらい、活動領域が増加した。	(10段階) 8	大学生ボランティアによる資料整理を実施し、活動領域が増加したことを評価する。ボランティアの継続性とスキルアップのためにより積極的に研修を実施する必要がある。また、さまざまな場面でボランティアが活動しているが、お互いの活動や課題について理解しているだろうか。層の厚い継続的なボランティア活動を創出するためには、ボランティアどうしの交流を図ることから始めてはどうかと考える。 ボランティア自身と館の積極性が頼もしい。	(10段階) 7.92
	H29(2017) 活動内容 特別企画以外の展示会の準備、イベント運営及び補助、喫茶コーナー 活動人数 延べ177人 活動日数 延べ35日 ボランティアの活動人数・活動日数はともに28年度に比べて増え、年々活発化の傾向にある。	(10段階) 8	年々活性化の傾向にあることが喜ばしい。夏季展示実行委員会との交流を図り、博物館に関心を寄せる市民が多く機会を得て活動できるよう促す仕組みが必要である。今後もさまざまな場面でボランティアの活用を模索しつつ、質の向上のために学びの充実を望みたい。 来館者とボランティア、ボランティアとボランティアどうしをつなぐ働きが、研修等の機会を得て、さらに強まること期待している。 ただ、長期的にみればマイナス傾向にある。将来を見据えたボランティア活動の支援も必要であろう。	(10段階) 7.45
	H28(2016) 活動内容 特別企画以外の展示会の準備、イベント運営及び補助、喫茶コーナー 活動人数 延べ144人 活動日数 延べ32日 喫茶コーナーボランティアの登録人数は変わりはないが、市内大学生への呼びかけにより教育系の学生の参加もあった。延べ参加者数は増加し、活動が活発化している。また、ボランティア養成を目的の一つにして市民向けの学芸員体験講座を実施した(受講者12人・延べ10日間)。	(10段階) 7	新人も含め、ボランティアに対する総合的な各種の研修は、ボランティアにとって活動の領域を拡げられるというメリットはもちろんのこと、ボランティア同士の活動刺激にも大いに繋がっていくと思われる。そのためにも中味の濃い充実した研修開催が望まれる。	(10段階) 7.16
	H27(2015) 活動内容 特別企画以外の展示会の準備、イベント運営及び補助、資料整理補助のボランティア、喫茶コーナー 活動人数 延べ82人 活動日数 延べ20日	(10段階) 8	ボランティア活動については、ますます充実度が高まっている。今後はメンバー層の厚さが問題となる。また、中味の濃いボランティア研修も欠かせない。	(10段階) 7.83
	H26(2014) 活動内容 特別企画以外の展示会の準備、イベント運営及び補助、資料整理補助のボランティア、喫茶コーナー 活動人数 延べ715人 活動日数 延べ128日	(5段階) 4	ボランティア、連携団体、市民キュレーター、エドゥケーター、更にはリピーターとしての学習者など市民連携を多様に求めすぎて活動が分散し、学芸員の注力も分散しているように思われる。どのような市民参画がすいはいかにふさわしいのか、検討が必要な印象を受ける。	(5段階) 4.0
第1次中期計画	H25(2013) 活動内容 特別企画以外の展示会の準備、イベント運営及び補助、資料整理補助のボランティア、喫茶コーナー 活動人数 延べ988人 活動日数 延べ128日	(5段階) 4	市民参画については、項目全体に「検討」が多すぎる。市民のイベント、講師参画等、単発のものが多く感じられ、市民・ボランティア発案のグループ活動も必要である。独自の展示開発や周囲の紫金山公園の活用等を育てる必要がある。	(5段階) 3.6
	H24(2012) 活動内容 特別企画以外の展示会の準備、イベント運営及び補助、資料整理補助のボランティア、喫茶コーナー 活動人数 延べ853人 活動日数 延べ98日	(5段階) 3	展示案内ボランティアの恒常的な配置がリピーターや来館者の増加につながる事が予想されるだけに今後とも重要な課題ともいえる。	(5段階) 3.7
	H23(2011) 活動内容 特別企画以外の展示会の準備、イベント運営及び補助、資料整理補助のボランティア、喫茶コーナー 活動人数 延べ273人 活動日数 延べ44日	—	ボランティア研修は企画評価の充実が大いに結びつくもので、多様な能力を持ったボランティアの育成にもつながることから大いに推進されたい。	—
	H22(2010) 活動内容 特別企画以外の展示会の準備、イベント運営及び補助、資料整理補助のボランティア、喫茶コーナー 活動人数 延べ202人 活動日数 延べ39日	—	喫茶コーナーのボランティアも経年の継続的な活動によってなくてはならない存在にまで達している。今後も多様なボランティア組織を育成し、そのスキルを向上させるような環境を保つためにも養成のための研修や反省会等を実施し、資質向上を果たして博物館を支える多様な人材を積極的に組織していただきたい。	—

6. 情報発信		過去の総合評価点	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平成30年度総合評価点	7.34	
① 広報の充実	a. ホームページのコンテンツの整理・充実												
	事業概要	点検項目					指標・目標						
ホームページをより充実し、わかりやすく、見やすくするため新たなコンテンツの加除による整理を実施する。		■アクセス数 ■コンテンツの変更・修正は適切に行われているか。					《指標》(過去8年間の平均値) ■アクセス数 28,200回/年						
平成30年度(2018年度)実績													
[コンテンツの変更内容]													
・「市内の文化財」「文化財説明板」ページに5件追加 ・利用案内に「館外貸出許可申請書」を加える ・サイト内検索の新設 ・メールアドレスをわかりやすく配置する ・「吹博とは」「基本構想と組織図」の頁をスマホで閲覧した時、本文がベースからはみ出さないようにする ・ログ解析、解析報告資料作成			・特別利用の説明の表示方法を変更 ・交通アクセスをわかりやすく配置する ・トップページの右上方の写真を入れ替え可能にする ・「展示品案内」を「展示室・収蔵品」に変更し、「吹田の美術」のページを追加する										
年度	実績・自己点検・自己評価					評価点	外部評価					評価点	
第2次中期計画	H30(2018)	アクセス数 42,103回 アクセス数は前年度を上回り、目標数を大幅に超えた。ログ解析によれば、83.89%が新規ユーザーからのアクセスである。ホームページは、情報を適切に更新し、展示(行事)の開催、刊行物刊行、お知らせの記事、館長ページをその都度更新した。また、ホームページのコンテンツは、見やすさ、わかりやすさをめざして様々な修正を加え、充実化をはかった。					(10段階) 8	コンテンツに修正が加えられ、前年よりも充実した。アクセス数の伸びと新規ユーザーが増えていることも評価できる。アクセス数の維持とさらなる増加を図っていただきたい。 ・「スマホで閲覧した時、本文がベースからはみ出さないように…」の修正はなされたが、当該ページを含めてスマホで見ると文字が小さすぎる。モバイル端末からのアクセスが約半数であるので、文字サイズはスマホ対応を検討いただきたい。 ・昨年指摘したペーパークラフトについては、改善されていない。わくわくするページを期待したい。 見やすく改善され、更新もされている点は評価できる。しかしトップページには展示と行事内容についての型通りのお知らせしかなく、詳しい情報や実施報告がないのが残念である。Facebookに内容についての記述があることは評価するが、ここに出ていることを的確に案内するか、同じ内容をトップにはりつけてはどうだろうか。一目で博物館に行ってみようと思わせる温かみのあるサイトになることを望んでいる。					(10段階) 8
	H29(2017)	アクセス数 41,584回 アクセス数が飛躍的に伸びた。ログ解析によれば、85.4%が新規ユーザーで、49.2%がモバイル端末機からのアクセスである。展示(行事)の開催、刊行物、お知らせの記事、館長ページ等の日常的な更新は適切な時期に行っているが、今後はユーザーの求める情報を意識したコンテンツ変更の検討も視野に入れていく必要がある。					(10段階) 8	アクセス数の大幅な伸びは評価に値する。ことに新規ユーザーが増えていることは、重要である。ログ解析等を進めてなぜアクセス数が増えたのか、いつ増えたのか、その要因を見つけ、アクセス数の維持とさらなる増加を図っていただきたい。ペーパークラフトはユニークで良いアイデアであるので、なぜ吹田市博でペーパークラフトを提供しているのかや制作者についてなどの解説が欲しい。また、ここからトップページに戻れるようにすると良い。 アクセス数は飛躍的に伸びているからこそ、より一層の改良を求めたい。展示や行事内容、お知らせ、館長ページなどはその都度更新し充実しているものもあるが、トップページからバナーを通して入る各ページには更新が滞っているものが見られる。展示と行事内容については、型どおりのお知らせしかなく、詳しい説明がないのが残念である。また現在開催中の企画の見どころの掲載が必要である。直近のちらしや博物館だよりは集客の力となる。発行次第すぐに掲載すべきである。また、過去の展示や行事内容を消去せず、カレンダーには過去の企画のちらしや博物館だよりにたどり着くリンクを添付するなどの工夫を望みたい。博物館に行ってみようと思わせるわくわくするサイトになるよう望んでいる。 また、従来のものからよりモバイル端末に適合する住み分けも検討するとよいのではないかと。					(10段階) 7.73
	H28(2016)	アクセス数 24,020回 ホームページは、情報を適切に更新し、展示(行事)の開催、刊行物刊行、お知らせの記事、館長ページをその都度更新した。また、コンテンツの見やすさ、わかりやすさを考慮した修正を加え、入力プログラムの修正を行い、更新作業の効率化できた。アクセス数は昨年を5,490件下回ったことから、より適切な情報公開となるよう検討していきたい。					(10段階) 7	ホームページは、展示や行事の内容、刊行物の案内、お知らせ記事や館長ページなど、その都度適切に更新がなされている。また見やすさ、わかりやすさの観点から、修正も加えられている。前年度比較でアクセス数は減少しているようであるが、博物館が発信するホームページとしては充実した内容と評価できる。					(10段階) 7.09
	H27(2015)	アクセス数 29,510回 ホームページは情報を適切に更新し、展示(行事)の開催、刊行物刊行、お知らせの記事、館長ページをその都度更新した。また、コンテンツの見やすさ、わかりやすさをめざしてさまざまな修正を加え、充実化をはかった。アクセス数は昨年を2,355回上回った。					(10段階) 8	ホームページについては、展示・行事・刊行物・お知らせ・館長ページなど適宜更新され、見やすさわかりやすさに関しても修正が加えられるなど、1年を通して努力と工夫がみられた。					(10段階) 7.92
	H26(2014)	アクセス数 27,155回 ホームページのコンテンツは見やすさ、わかりやすさをめざしてさまざまな修正を加え、充実化をはかった。アクセス数は昨年をやや下回っている。					(5段階) 4	ホームページは、内容変更、カテゴリ修正、ボタン追加など、見やすさわかりやすさをめざしたさまざまな修正が加えられ、内容面の充実も図られており、不断の努力と工夫が評価される。					(5段階) 3.8
第1次中期計画	H25(2013)	アクセス数 30,608回 ホームページのコンテンツは見やすさ、わかりやすさをめざしてさまざまな修正を加え、充実してきている。アクセス数は昨年をさらに上回り、30,000件を超えている。					(5段階) 4	ホームページのコンテンツは見やすさ、わかりやすさの観点からコンテンツの修正や内容の充実が図られ、グレードアップし、たいへん良い。その結果としてアクセス数が増加し、30,000件を越えたことは評価できる。					(5段階) 3.8
	H24(2012)	アクセス数 27,207回 アクセス数は前年度を上回っている。ホームページのコンテンツは今年度は新たに博物館の基本構想、歩みやスタッフ紹介等を追加し、充実を図った。					(5段階) 4	ホームページの充実は来年度以降の継続課題と位置づけられる。					(5段階)
	H23(2011)	アクセス数 23,875回 展示(行事)の開催、刊行物刊行、お知らせの記事の都度更新。新たにログ解析を開始。					—	ホームページは、年々コンテンツの変更を行い、徐々に充実している。年度当初に年間展示計画の公開をはじめ、事業報告・事業評価などの公表も果たされている。					—
	H22(2010)	アクセス数 21,727回 コンテンツの変更内容 博物館の使命・目標などの公表。「はくぶつかんへいこう」教師用資料を新設。 蔵書検索説明頁を新設。					—	蔵書データベースや年度当初に年間展示計画を公開する等の情報の更新も適切になされている。蔵書データベースはたとえ利用率が低くとも本質的なサービスと考える。今後は先進博物館の例を参考にして、資料データベースの公開に向け準備を進め、さらなるホームページの充実を期待する。					—

b. ソーシャルメディアによる広報 (第1次中期計画は「広報活動」)														
事業概要		点検項目				指標・目標								
市報・ホームページ・マスメディア・ローカルメディアなど従来の広報に加え、新たな広報手段としてソーシャルメディアを検討する。		■効果的な広報が行われたか。				《指標》 ■吹田市公式フェイスブック投稿回数 50回/年 *平成27年7月より投稿開始のため平成28・29年度の平均値を指標とする。 ■メディアによる取材件数 15件/年 *過去8年間の平均値								
平成30年度(2018年度)実績														
[吹田市公式フェイスブック] ()内は前年度 投稿回数 48回(48回) 投稿内容 展覧会、イベント情報。		[メディアによる取材]				(30年度)	(29年度)	(28年度)	(27年度)	(26年度)	(25年度)	(24年度)	(23年度)	(22年度)
		新聞(ローカル紙を含む)				13件	7	3	6	7	1	14	4	1
		テレビ(ケーブルテレビを含む)				4件	5	3	4	6	4	8	5	5
		ラジオ(FM放送を含む)				0件	2	2	1	2	2	1	1	2
		広報課				5件	5	1	2	0	1	3	2	1
		その他				1件	1	0	0	1	2	4	0	0
		合計				23件	20	9	13	16	10	30	12	9
年度	実績・自己点検・自己評価				評価点	外部評価				評価点				
第2次中期計画	H30(2018)	市報・ホームページ・マスメディア・ローカルメディア等の従来実施してきた広報活動は着実に進め、西村公朝展による新聞取材が増えた。フェイスブックは特別展の記事を中心に週1回のペースで投稿したが、ホームページに比べ来館への効果は小さい。新たなツール開発も検討が必要であろう。				(10段階) 8	メディアによる取材の目標値をクリアしており、市の公式Facebookへの投稿もほぼ目標どおりである。自己評価で「新たなツール開発も必要」とあるが、昨年度の評価にあるように、まずは館独自のFacebookを開発することを検討されたい。				(10段階) 7.69			
	H29(2017)	市報・ホームページ・マスメディア・ローカルメディア等の従来実施してきた広報活動は着実に進め、フェイスブックは週1回のペースで投稿したが、来館につながる等の明らかな効果が現れていない。今後はフェイスブック自体の存在を周知し、投稿のタイミングや記事内容について検討が必要であろう。				(10段階) 8	メディアによる取材の目標値をクリアしている。市のFacebookに週1回と定期的に投稿を続けてきたことも評価できる。しかし、自己評価で挙げているとおり、特別展期間中や催しの前などに多く投稿するなど、メリハリをつけることも必要であろう。また、市の方針もあるだろうが、館独自のFacebookを開発すれば、他の博物館や関連する催し等とのリンクがしやすく、ソーシャルメディアのメリットを活かせるので、検討されたい。				(10段階) 7.73			
	H28(2016)	広報は年度当初に年間展示計画及び博物館活動、事業点検、評価を公開。マスコミ、ローカルメディアへメリハリのある広報を心がけ、DMの発送、来館者によるロコミ、市民による博物館ブログ、一定の効果があるものは継続。吹田市公式フェイスブックの情報発信も継続。				(10段階) 8	吹田市公式フェイスブックによる情報発信を試みるなど、ソーシャルメディアを活用した広報にも積極的に取り組んだことは評価できる。				(10段階) 8.00			
	H27(2015)	マスコミ、ローカルメディアへの情報提供は確実に実施したほか、メリハリのある広報を心がけ、DMの発送、来館者によるロコミ、市民による博物館ブログ等、一定の効果があるものは継続実施している。また、新たに吹田市公式フェイスブックからの情報発信を開始した。				(10段階) 6	SNS、ソーシャルメディアによる新たな広報として、吹田市公式フェイスブックによる展覧会やイベント情報の発信などが始まったことは評価される。				(10段階) 6.08			
第1次中期計画	H26(2014)	DMによる来館者は一定数を保っているため継続実施するとともに展示テーマやイベント内容によって関心をもつ層が異なってくるため、できるだけ内容・テーマにふさわしい機関、団体などへ情報提供を心がけた。				(5段階) 3	「広報活動」の項目で評価 広報活動では、放送メディア、特にラジオ番組に博物館イベントをどんどん取り入れてもらおう、働きかけを行い、定期情報としての位置づけまでへと充実させる必要がある。				(5段階) 3.8			
	H25(2013)	「広報活動」の項目で点検・評価 広報については春季特別展でマスコミ対象にプレスツアーを実施し、多くのメディアで取り上げられた。また、DMの発送、来館者によるロコミ、市民による博物館ブログ等も継続して一定の効果が認められる。				(5段階) 4	「広報活動」の項目で評価 現代社会のマスメディアの新規参入は、著しいものがある。携帯電話での無料通話システムのラインや、スカイプ、カカオトークなどを利用した特別展示案内等の新しい情報発信ツールで来館者を増加させることもできるのではないかな。				(5段階) 3.6			
	H24(2012)	「広報活動」の項目で点検・評価 広報については春季特別展でマスコミ対象にプレスツアーを実施し、多くのメディアで取り上げられた。また、DMの発送、来館者によるロコミ、市民による博物館ブログ等も継続して一定の効果が認められる。				(5段階) 4	「広報活動」の項目で評価 「情報発信」で特筆に値するのは、秋季特別展「ニュータウン半世紀展」であろう。積極的なマスコミへの広報が取材、記事掲載に結びついている。今後も吹田という地域性に根ざす地道な博物館運営、フットワークを活かす広報活動に期待したい。				(5段階) 4.0			
	H23(2011)	「広報活動」の項目で点検・評価 DMでの来館者が多いことからポスターを削減 DMを強化した。また、地元メディア(JCOM、FM千里、市報)への依頼は確実に実施した。また、市民によるロコミ広報活動を重視した。				—	「広報活動」の項目で評価 市報掲載記事は行事や動きがよく分かって目につくので不可欠なものであるが、それ以外のメディアにおいてもより一層の努力を期待する。情報提供は欠かさず行われているものの、マスコミに取り上げられる機会が少ない。その影響は大きいだけに市民参画等吹田市立博物館の特徴を全面に出すことで話題性を作る努力をする必要がある。				—			
	H22(2010)	「広報活動」の項目で点検・評価 DMでの来館者が多いことからポスターを削減、DMを強化した。また、地元メディア(J:COM、FM千里、市報)への依頼は確実に実施した。また、市民によるロコミ広報活動を重視した。各展覧会において報道機関への情報提供は実施。ミニコミ誌、ケーブルテレビ、FM千里など地域の情報媒体で各展覧会が紹介された。日刊新聞での取り上げ回数 6回				—	「広報活動」の項目で評価 情報発信の努力は評価できるし、成果も悪くはない。ただし、さらなる展開は十分可能である。肝心なことは、発信すべき内容があり、情報メディアを大切に扱うことである。マスメディアはもちろん、様々なメディアへの情報提供の促進、情報提供の方法を考え、新規利用者の開拓を考える等積極的な広報のための時間とエネルギーと知恵をもっと割く覚悟がほしい。				—			

c.e-mailサービスの検討					
事業概要		点検項目		指標・目標	
全庁的に検討されているe-mailサービスの展開に合わせ、サービスを検討する。		■e-mailサービスの検討は進んでいるか。		全庁的な動向に合わせて実施する。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点	
第2次中期計画	H30 (2018)	全庁的な実施にあわせて検討。市情報政策室による全庁的なe-mailサービスに参加し、次年度より実施することが決定した。	(10段階) 7	昨年の評価、および委員会での指摘のとおり、具体的にどのように取り組むのか、館の方針がわからない。 e-mailアドレスの表示は改善されている。	(10段階) 6.69
	H29 (2017)	全庁的な実施にあわせて検討。市情報政策室よりe-mailサービスに関する調査あり。参加の旨回答。	(10段階) 5	具体的にどのように取り組むのか、市の方針に合わせるにしろ、博物館独自でもサービスを検討すべきである。館の姿勢が見当たらない。「e-mailサービス」の内容について、市の情報政策室のサイトを見てもわからなかった。そのため、一般的なe-mailでの利用者へのサービスと考え、評価およびコメントをした。 ホームページのトップ画面上の「お問い合わせ(mail)」をクリックする形式では、閲覧環境によってはすぐにメールを書くことができないうえ、トップ画面下の住所・電話等の表示にもe-mailアドレスはなく、不便である。また、刊行物の在庫等問合せも「Fax」でとなっているが、いま個人でFaxを持っている家庭は少ないと思われるので、e-mailによる問合せ受け付けを積極的に進めて欲しい。	(10段階) 5.27
	H28 (2016)	全庁的な実施にあわせて検討。	(10段階) 5	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 5.00
	H27 (2015)	全庁的な実施にあわせて検討。	(10段階) 8	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 7.83
第1次中期計画	H26 (2014)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H25 (2013)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H24 (2012)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H23 (2011)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H22 (2010)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—

a. 特別利用の促進					
事業概要		点検項目	指標・目標		
資料閲覧・貸出・写真提供を促進する。		■特別利用件数	《指標》(過去8年間の平均値) ■特別利用件数 20件/年		
平成30年度(2018年度)実績					
[特別利用件数] 下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点	
第2次中期計画	H30 (2018)	特別利用数 22件 ・資料閲覧(熟覧・撮影・実測等) 5件 ・写真掲載(原板使用を含む) 10件 ・資料貸出 7件 特別利用の件数は前年度より若干増加した。利用は市内を含む近隣の施設が多く、遠方の博物館への貸出も若干ある。写真は近世文書の利用が多く。近現代資料としては館独自の資料活用が目立つ。	(10段階) 7	指標・目標値に達している。利用案内に「館外貸出許可申請書」を加え、特別利用の説明の表示方法を変更したことも評価できる。	(10段階) 7
	H29 (2017)	特別利用数 19件 ・資料閲覧(熟覧・撮影・実測等) 6件 ・写真掲載(原板使用を含む) 8件 ・資料貸出 5件 特別利用の件数は28年度より増加した。更に利用数の増加を図り、館蔵資料の活用につなげていきたい。	(10段階) 7	指標・目標値にほぼ達している。特別利用は館外の利用者の意思によるため、館の努力だけではすぐに数を増やせるものでもない。しかし、「吹田市博にしかない」あるいは「時の話題になっている」「学校の事業等に使える」といった所蔵品を展示やウェブサイト等で紹介することにより、利用者数をのばす余地はあると考える。利用の内容とその変化傾向は分析できないのか。それによって活用増加への対処も可能になるのではないだろうか。	(10段階) 6.91
	H28 (2016)	特別利用数 16件 ・資料閲覧(熟覧・撮影・実測等) 5件 ・写真掲載(原板使用を含む) 7件 ・資料貸出 4件 特別利用の件数は前年度より減少。	(10段階) 7	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 6.90
	H27 (2015)	特別利用数 28件 ・資料閲覧(熟覧・撮影・実測等) 12件 ・写真掲載(原板使用を含む) 9件 ・資料貸出 7件 特別利用は写真掲載と資料閲覧で増え、1.5倍を数えた。	(10段階) 6	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 6.25
	H26 (2014)	特別利用数 14件 ・資料閲覧(熟覧・撮影・実測等) 6件 ・写真掲載(原板使用を含む) 6件 ・資料貸出 2件	(5段階) 3	(当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.1
第1次中期計画	H25 (2013)	特別利用数 23件 資料閲覧(熟覧・撮影・実測等) 8件 写真掲載(原板使用を含む) 7件 資料貸出 8件	(5段階) 3	特別利用は、多くの人に博物館所蔵資料を様々の面で利用してもらうよう便宜を図ることで重要であり、さらなる充実が望まれる。	(5段階) 3.2
	H24 (2012)	特別利用数 9件 ・資料閲覧(熟覧・撮影・実測等) 3件 ・写真掲載(原板使用を含む) 2件 ・資料貸出 4件	(5段階) 3	特別利用は、情報拠点としての博物館の存在感が示されている。	(5段階) 3.2
	H23 (2011)	特別利用数 21件 ・資料閲覧(熟覧・撮影・実測等) 7件 ・写真掲載(原板使用を含む) 13件 ・資料貸出 1件	—	レファレンス業務や特別利用についても博物館として必要なことであり、評価できる。今後とも充実を図っていただきたい。	—
	H22 (2010)	特別利用数 24件 ・資料閲覧(熟覧・撮影・実測等) 15件 ・写真掲載(原板使用を含む) 6件 ・資料貸出 3件	—	情報拠点としての機能を強化していくことで、レファレンス、特別利用もさらなる増加が見込めるものとする。博物館に行けば問題が解決するような解説機能の強化も図ってほしい。	—

② 博物館活動の公開					
b. 研究成果・事業報告・評価の公開 (第1次中期計画は「博物館活動の公開」)					
事業概要		点検項目	指標・目標		
館報などのさまざまな印刷媒体、ホームページなどのメディアによって使命、事業報告、事業評価、研究成果を発信していく。		■使命、事業報告、事業評価、研究成果は着実に公開されているか。	■印刷媒体の刊行状況(展示図録を除く) (『館報』1回/年、『博物館だより』4回/年)		
平成30年度(2018年度)実績					
【研究成果の公開】 詳細は、「2. 調査研究 ①館独自の自主研究事業 d. 研究成果の公開」の項を参照					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	『館報』19 平成29年度活動報告及び事業の点検・評価、研究成果の公開 『博物館だより』 No74、No75、No76、No77を刊行 ホームページ 展示案内、行事案内、利用案内、使命・目標、事業点検、評価等を公開 使命・目標、事業点検・評価は『館報』・ホームページにて公開した。広報媒体として『博物館だより』は4回刊行、事業(展示・行事)情報や市民の博物館活動を公開した。閲覧しやすくなる方法を検討したい。	(10段階) 7	『館報』『博物館だより』等の印刷物およびホームページによって、使命・事業報告・事業評価・研究成果等は適切に公開されている。『博物館だより』はダウンロードして読むことができるが、可能であれば『館報』の内容もウェブ上で閲覧できるよう検討していただきたい。 サイト内検索ができるよう改善されたことも評価できる。	(10段階) 7.31
	H29 (2017)	『館報』18 平成28年度活動報告及び事業の点検・評価、研究成果の公開 『博物館だより』 No70、No71、No72、No73を刊行 ホームページ 展示案内、行事案内、利用案内、使命・目標、事業点検、評価等を公開 使命・目標、事業点検・評価は『館報』・ホームページにて公開した。広報媒体として『博物館だより』は4回刊行、事業(展示・行事)情報や市民の博物館活動を公開した。	(10段階) 7	『館報』『博物館だより』等の印刷物およびホームページによって、使命・事業報告・事業評価・研究成果等は適切に公開されている。『博物館だより』はダウンロードして読むことができるが、可能であれば『館報』の内容もウェブ上で閲覧できるよう検討していただきたい。 ホームページにサイト内検索ができるよう検討していただきたい。多くの博物館のサイトで、トップ画面からどれを選べば知りたいことにたどりつけるのか、素人にはわからないことが多いが、検索できれば解決できる。 さらには利用・活用状況は把握する方法も検討していただきたい。	(10段階) 7.36
	H28 (2016)	『館報』17 平成27年度活動報告及び事業の点検・評価、研究成果の公開 『博物館だより』 No66、No67、No68、No69を刊行 ホームページ 展示案内、行事案内、利用案内、使命・目標、事業点検、評価等を公開 『博物館だより』はチラシとともに広報媒体として機能するとともに、市民の展示活動や研究活動を公開する場ともなっている。	(10段階) 7	『博物館だより』・『博物館報』・ホームページにおいて、事業報告・研究成果・事業評価が公開されており、必要な情報公開が適切に行われている。	(10段階) 7.27
	H27 (2015)	『館報』16 平成26年度活動報告及び事業の点検・評価、研究成果の公開 『博物館だより』 No62、No63、No64、No65を刊行 ホームページ 展示案内、行事案内、利用案内、使命・目標、事業点検、評価等を公開 『博物館だより』はチラシとともに広報媒体として機能するとともに、市民の展示活動や研究活動を公開する場ともなっている。	(10段階) 6	『博物館だより』・『博物館報』・ホームページにおいて、事業報告・研究成果・事業評価が適切に公開され、その役割を十分に果たしている。	(10段階) 6.08
	H26 (2014)	(「博物館活動の公開」の項目で点検・評価) 『館報』15 平成25年度活動報告及び事業の点検・評価、研究成果の公開 『博物館だより』 No58、No59、No60、No61を刊行 ホームページ 展示・行事案内、利用案内、使命・目標、事業点検、評価等を公開	(5段階) 4	(「博物館活動の公開」の項目で評価) 資料データベースの構築・公開は博物館が果たすべき大切な役割のひとつである。博物館利用者の視点を踏まえた検討が進められることを期待したい。	(5段階) 4.0
第1次中期計画	H25 (2013)	(「博物館活動の公開」の項目で点検・評価) 『館報』14 平成24年度活動報告及び事業の点検・評価、研究成果の公開 『博物館だより』 No54、No55、No56、No57を刊行 ホームページ 展示・行事案内、利用案内、使命・目標、事業点検、評価等を公開	(5段階) 3	(「博物館活動の公開」の項目で評価) これまで集積されてきた資料データのデータベース化とその公開に進捗がみられない。システムの完成を待たなくとも、需要の高いところから順次公開できるよう、引き続き一層の努力を期待したい。	(5段階) 3.4
	H24 (2012)	(「博物館活動の公開」の項目で点検・評価) 『館報』13 平成23年度活動報告及び事業の点検・評価、研究成果の公開 『博物館だより』 No50、No51、No52、No53を刊行 ホームページ 展示・行事案内、利用案内、使命・目標、事業点検、評価等を公開	(5段階) 3	(「博物館活動の公開」の項目で評価) 広報誌『博物館だより』の執筆には、市民など外部からの投稿を得ながら、市民の展示活動や研究活動を含めた多彩な事業の実施状況が報告されており、博物館活動の公開と情報発信の役割を果たしていると認められる。	(5段階) 3.2
	H23 (2011)	(「博物館活動の公開」の項目で点検・評価) 『館報』12 平成22年度活動報告及び事業の点検・評価、研究成果の公開 『博物館だより』 No46、No47、No48、No49を刊行 ホームページ 展示・行事案内、利用案内、使命・目標、事業点検、評価等を公開	—	(「博物館活動の公開」の項目で評価) ホームページは、年々コンテンツの変更を行い、徐々に充実している。年度当初に年間展示計画の公開をはじめ、事業報告・事業評価などの公表も果たされている。	—
	H22 (2010)	(「博物館活動の公開」の項目で点検・評価) 『館報』11 平成21年度活動報告及び事業の点検・評価、研究成果の公開 『博物館だより』 No42、No43、No44、No45を刊行 ホームページ 展示・行事案内、利用案内、使命・目標、事業点検、評価等を公開	—	(「博物館活動の公開」の項目で評価) 蔵書データベースや年度当初に年間展示計画を公開する等の情報の更新も適切になされている。	—

7. 学校教育との連携	過去の総合評価点	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平成30年度総合評価点	7.32
		3.60	3.60	3.64	3.60	3.57	6.78	7.10			

① 利用の促進	a. 特別企画『むかしのくらしと学校』の展示改良 (第1次中期計画は「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」)																																																														
	事業概要		点検項目				指標・目標																																																								
学校教育との連携展示において教員からの要請や学校副読本の改定にあたり、展示内容を改定する。		<ul style="list-style-type: none"> ■社会科副読本と連携のとれた展示内容になっているか。 ■展示内容に教員の意見・要望が反映されているか。 				指標・目標値は設定していない。																																																									
平成30年度(2018年度)実績																																																															
<ul style="list-style-type: none"> ・特別企画「むかしのくらしと学校」を継続して開催(展示の詳細は「3. 展示 ②企画展示 b-7特別企画」を参照) ・小学校教諭向けに団体見学時の説明会及び見学日抽選、ボランティア講習会(12月12日) ・「むかしのくらしと学校展ボランティアの会」に特別企画展示事業を委託、ボランティア会議を開催(延べ11回) *ボランティアについては、「5. 市民参画 ③ボランティア a. 特別企画への参入」の項を参照 ・小学校団体見学終了後、各校教員にアンケート調査を実施。集計結果は博物館側のコメントを付して全校に送付。 *教員アンケート結果については、「3. 展示 ②企画展示 B-7. 特別企画」の項を参照 																																																															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">年度</th> <th style="width: 40%;">実績・自己点検・自己評価</th> <th style="width: 10%;">評価点</th> <th style="width: 40%;">外部評価</th> <th style="width: 10%;">評価点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">第2次中期計画</td> <td>H30 (2018)</td> <td> 毎月開催のボランティア会議では、ボランティア・学校連携担当職員及び学芸員の3者で、教員からのアンケートやボランティアのアンケートをもとに、改善に向けた検討協議を重ねた。その結果については学校説明会や事前打ち合わせ(予め、各校より提出された『見学計画書』に基づいた連絡・連携)を密にし、団体見学当日に臨むよう努めた。 </td> <td>(10段階) 9</td> <td> 特別企画「むかしのくらしと学校」は、市内小学校3年生の93.9%が来館および出前授業を受け、博物館の見学等を通して、社会科学学習で身に着けるべき学力の礎となった。 また、一般アンケート調査も97.0%が肯定的な回答であり、教員からの評価も高い。今後、さらに連携・改善を期待したい。 団体の反応結果が知りたい </td> <td>(10段階) 8.77</td> </tr> <tr> <td>H29 (2017)</td> <td> ボランティア会議において、学校連携担当職員及び学芸員も出席し、前年度見学学校の教員アンケートや団体見学対応時の状況等の分析を行いながら改良点を検討し、展示内容や解説方法を改善した。 教員アンケートでは、体験中心の展示は概ね好評であるが、展示内容にやや難しさがあること、見学時の時間配分に改善を求める声があり、次年度の検討事項としたい。 </td> <td>(10段階) 8</td> <td> 特別企画「むかしのくらしと学校」を継続して開催し、その啓発のために小学校教員向けに説明会等を実施したことは、利用の促進という観点から極めて高く評価できる。 特別企画内容の見直しのため、小学校団体見学終了時に各校員にアンケート調査をし、その結果を公開したことは事業改善の趣旨からも高く評価できる。一方、改善とアンケートの差を具体的に両者間でつめる方法も検討していただきたい。 </td> <td>(10段階) 8.09</td> </tr> <tr> <td>H28 (2016)</td> <td> 小3年社会科のカリキュラムとの連携展示『むかしのくらしと学校』展はボランティア、教員、学芸員の三者連携で、学校側の要望をうけ、可能な部分では展示改善に取り組む。 </td> <td>(10段階) 8</td> <td> 小学校3年生のカリキュラム連携展示(むかしのくらし)において、参加・体験型のプログラムを継続的に取り入れたことは高く評価できる。今後の更なる改善を期待したい。 </td> <td>(10段階) 8.00</td> </tr> <tr> <td>H27 (2015)</td> <td> 小学校3年生社会科カリキュラムとの連携展示である特別企画『むかしのくらしと学校』は例年通り、ボランティア、教員、学芸員の連携をとりながら、学校側の要望をうけて、可能な部分では展示改善に取り組み、体験を取り入れた展示や、実際のあかりを体験するプログラムが好評を得ている。 </td> <td>(10段階) 8</td> <td> 小3社会科のカリキュラムとの連携展示『むかしのくらしと学校』展の継続・改善において参加・体験型のプログラムを取り入れたことは高く評価できる。今後の継続的な改善を期待したい。「あかりの授業」の出前授業は好評であり、さらに希望校が増えるようにより一層の連携を望む。 </td> <td>(10段階) 8.25</td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">第1次中期計画</td> <td>H26 (2014)</td> <td>(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で点検・評価) 特別企画『むかしのくらしと学校』展は例年通り、ボランティア、教員、学芸員の三者の連携をとりながら、学校側の要望をうけて、可能な部分では展示改善に取り組み、体験を取り入れた展示や、実際のあかりを体験するプログラムが好評を得ている。</td> <td>(5段階) 4</td> <td>(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で評価) 小学校3年生のカリキュラムとの連携展示において参加・体験型のプログラムを取り入れたことは高く評価できる。「あかりの授業」の出前授業はとて好評なので、他の事柄に関しても教材開発を検討していただくとうありがたい。今後の継続的な改善を期待したい。</td> <td>(5段階) 4.1</td> </tr> <tr> <td>H25 (2013)</td> <td>(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で点検・評価) 小学校3年生のカリキュラムとの連携展示である特別企画『むかしのくらしと学校』展は例年通り、ボランティア、教員、学芸員の三者の連携をとりながら、学校側の要望をうけて、可能な部分では展示改善に取り組み、体験を取り入れた展示や、実際のあかりを体験するプログラムが好評を得ている。</td> <td>(5段階) 4</td> <td>(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で評価) 小学校3年生を対象とした社会科向け展示「むかしのくらしと学校」を開催され、児童にとって過去と現在のくらしと学校の様子を学ぶ機会を得られたことは、大変有意義であった。また、展示内容等、学校と連携を図っていく中で要望等を受け入れていることは評価できる。</td> <td>(5段階) 4.0</td> </tr> <tr> <td>H24 (2012)</td> <td>(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で点検・評価) 特別企画『むかしのくらしと学校』展は例年通り、ボランティア、教員、学芸員の三者の連携をとりながら、学校側の要望をうけて、可能な部分では展示改善に取り組み、体験を取り入れた展示や、実際のあかりを体験するプログラムが好評を得ている。</td> <td>(5段階) 4</td> <td>(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)</td> <td>(5段階) 4.0</td> </tr> <tr> <td>H23 (2011)</td> <td>(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で点検・評価) 児童たちの祖父母の年代が、戦後生まれの世代に移行しつつあり、また、副読本の改訂も行われたため、展示内容の抜本的な見直しが必要である。また、小学生向けの展示ではあるものの、一般来館者へも公開している展示でもあることから、一般来館者も理解しやすい展示内容を検討していく必要がある。</td> <td>—</td> <td>(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で評価) 本展は体験学習の要素を多く取り入れ、小学生にとって博物館施設になじむいい機会にもなり、その効果は充分期待できる。見学が難しい学校への出前授業も好評であり、評価できる。</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>H22 (2010)</td> <td>(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で点検・評価) 冬季に小学校3年生の特別企画を実施。来館校26校。出前事業9校</td> <td>—</td> <td>(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で評価) 本展は子どもから興味を引かれる充実した内容であり、学芸員、ボランティア、教員の連携がうまくとれている好例である。また、本展に関連する出前授業も非常に良い内容だと思う。</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>												年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点	第2次中期計画	H30 (2018)	毎月開催のボランティア会議では、ボランティア・学校連携担当職員及び学芸員の3者で、教員からのアンケートやボランティアのアンケートをもとに、改善に向けた検討協議を重ねた。その結果については学校説明会や事前打ち合わせ(予め、各校より提出された『見学計画書』に基づいた連絡・連携)を密にし、団体見学当日に臨むよう努めた。	(10段階) 9	特別企画「むかしのくらしと学校」は、市内小学校3年生の93.9%が来館および出前授業を受け、博物館の見学等を通して、社会科学学習で身に着けるべき学力の礎となった。 また、一般アンケート調査も97.0%が肯定的な回答であり、教員からの評価も高い。今後、さらに連携・改善を期待したい。 団体の反応結果が知りたい	(10段階) 8.77	H29 (2017)	ボランティア会議において、学校連携担当職員及び学芸員も出席し、前年度見学学校の教員アンケートや団体見学対応時の状況等の分析を行いながら改良点を検討し、展示内容や解説方法を改善した。 教員アンケートでは、体験中心の展示は概ね好評であるが、展示内容にやや難しさがあること、見学時の時間配分に改善を求める声があり、次年度の検討事項としたい。	(10段階) 8	特別企画「むかしのくらしと学校」を継続して開催し、その啓発のために小学校教員向けに説明会等を実施したことは、利用の促進という観点から極めて高く評価できる。 特別企画内容の見直しのため、小学校団体見学終了時に各校員にアンケート調査をし、その結果を公開したことは事業改善の趣旨からも高く評価できる。一方、改善とアンケートの差を具体的に両者間でつめる方法も検討していただきたい。	(10段階) 8.09	H28 (2016)	小3年社会科のカリキュラムとの連携展示『むかしのくらしと学校』展はボランティア、教員、学芸員の三者連携で、学校側の要望をうけ、可能な部分では展示改善に取り組む。	(10段階) 8	小学校3年生のカリキュラム連携展示(むかしのくらし)において、参加・体験型のプログラムを継続的に取り入れたことは高く評価できる。今後の更なる改善を期待したい。	(10段階) 8.00	H27 (2015)	小学校3年生社会科カリキュラムとの連携展示である特別企画『むかしのくらしと学校』は例年通り、ボランティア、教員、学芸員の連携をとりながら、学校側の要望をうけて、可能な部分では展示改善に取り組み、体験を取り入れた展示や、実際のあかりを体験するプログラムが好評を得ている。	(10段階) 8	小3社会科のカリキュラムとの連携展示『むかしのくらしと学校』展の継続・改善において参加・体験型のプログラムを取り入れたことは高く評価できる。今後の継続的な改善を期待したい。「あかりの授業」の出前授業は好評であり、さらに希望校が増えるようにより一層の連携を望む。	(10段階) 8.25	第1次中期計画	H26 (2014)	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で点検・評価) 特別企画『むかしのくらしと学校』展は例年通り、ボランティア、教員、学芸員の三者の連携をとりながら、学校側の要望をうけて、可能な部分では展示改善に取り組み、体験を取り入れた展示や、実際のあかりを体験するプログラムが好評を得ている。	(5段階) 4	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で評価) 小学校3年生のカリキュラムとの連携展示において参加・体験型のプログラムを取り入れたことは高く評価できる。「あかりの授業」の出前授業はとて好評なので、他の事柄に関しても教材開発を検討していただくとうありがたい。今後の継続的な改善を期待したい。	(5段階) 4.1	H25 (2013)	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で点検・評価) 小学校3年生のカリキュラムとの連携展示である特別企画『むかしのくらしと学校』展は例年通り、ボランティア、教員、学芸員の三者の連携をとりながら、学校側の要望をうけて、可能な部分では展示改善に取り組み、体験を取り入れた展示や、実際のあかりを体験するプログラムが好評を得ている。	(5段階) 4	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で評価) 小学校3年生を対象とした社会科向け展示「むかしのくらしと学校」を開催され、児童にとって過去と現在のくらしと学校の様子を学ぶ機会を得られたことは、大変有意義であった。また、展示内容等、学校と連携を図っていく中で要望等を受け入れていることは評価できる。	(5段階) 4.0	H24 (2012)	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で点検・評価) 特別企画『むかしのくらしと学校』展は例年通り、ボランティア、教員、学芸員の三者の連携をとりながら、学校側の要望をうけて、可能な部分では展示改善に取り組み、体験を取り入れた展示や、実際のあかりを体験するプログラムが好評を得ている。	(5段階) 4	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 4.0	H23 (2011)	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で点検・評価) 児童たちの祖父母の年代が、戦後生まれの世代に移行しつつあり、また、副読本の改訂も行われたため、展示内容の抜本的な見直しが必要である。また、小学生向けの展示ではあるものの、一般来館者へも公開している展示でもあることから、一般来館者も理解しやすい展示内容を検討していく必要がある。	—	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で評価) 本展は体験学習の要素を多く取り入れ、小学生にとって博物館施設になじむいい機会にもなり、その効果は充分期待できる。見学が難しい学校への出前授業も好評であり、評価できる。	—	H22 (2010)	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で点検・評価) 冬季に小学校3年生の特別企画を実施。来館校26校。出前事業9校	—	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で評価) 本展は子どもから興味を引かれる充実した内容であり、学芸員、ボランティア、教員の連携がうまくとれている好例である。また、本展に関連する出前授業も非常に良い内容だと思う。	—
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点																																																											
第2次中期計画	H30 (2018)	毎月開催のボランティア会議では、ボランティア・学校連携担当職員及び学芸員の3者で、教員からのアンケートやボランティアのアンケートをもとに、改善に向けた検討協議を重ねた。その結果については学校説明会や事前打ち合わせ(予め、各校より提出された『見学計画書』に基づいた連絡・連携)を密にし、団体見学当日に臨むよう努めた。	(10段階) 9	特別企画「むかしのくらしと学校」は、市内小学校3年生の93.9%が来館および出前授業を受け、博物館の見学等を通して、社会科学学習で身に着けるべき学力の礎となった。 また、一般アンケート調査も97.0%が肯定的な回答であり、教員からの評価も高い。今後、さらに連携・改善を期待したい。 団体の反応結果が知りたい	(10段階) 8.77																																																										
	H29 (2017)	ボランティア会議において、学校連携担当職員及び学芸員も出席し、前年度見学学校の教員アンケートや団体見学対応時の状況等の分析を行いながら改良点を検討し、展示内容や解説方法を改善した。 教員アンケートでは、体験中心の展示は概ね好評であるが、展示内容にやや難しさがあること、見学時の時間配分に改善を求める声があり、次年度の検討事項としたい。	(10段階) 8	特別企画「むかしのくらしと学校」を継続して開催し、その啓発のために小学校教員向けに説明会等を実施したことは、利用の促進という観点から極めて高く評価できる。 特別企画内容の見直しのため、小学校団体見学終了時に各校員にアンケート調査をし、その結果を公開したことは事業改善の趣旨からも高く評価できる。一方、改善とアンケートの差を具体的に両者間でつめる方法も検討していただきたい。	(10段階) 8.09																																																										
	H28 (2016)	小3年社会科のカリキュラムとの連携展示『むかしのくらしと学校』展はボランティア、教員、学芸員の三者連携で、学校側の要望をうけ、可能な部分では展示改善に取り組む。	(10段階) 8	小学校3年生のカリキュラム連携展示(むかしのくらし)において、参加・体験型のプログラムを継続的に取り入れたことは高く評価できる。今後の更なる改善を期待したい。	(10段階) 8.00																																																										
	H27 (2015)	小学校3年生社会科カリキュラムとの連携展示である特別企画『むかしのくらしと学校』は例年通り、ボランティア、教員、学芸員の連携をとりながら、学校側の要望をうけて、可能な部分では展示改善に取り組み、体験を取り入れた展示や、実際のあかりを体験するプログラムが好評を得ている。	(10段階) 8	小3社会科のカリキュラムとの連携展示『むかしのくらしと学校』展の継続・改善において参加・体験型のプログラムを取り入れたことは高く評価できる。今後の継続的な改善を期待したい。「あかりの授業」の出前授業は好評であり、さらに希望校が増えるようにより一層の連携を望む。	(10段階) 8.25																																																										
第1次中期計画	H26 (2014)	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で点検・評価) 特別企画『むかしのくらしと学校』展は例年通り、ボランティア、教員、学芸員の三者の連携をとりながら、学校側の要望をうけて、可能な部分では展示改善に取り組み、体験を取り入れた展示や、実際のあかりを体験するプログラムが好評を得ている。	(5段階) 4	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で評価) 小学校3年生のカリキュラムとの連携展示において参加・体験型のプログラムを取り入れたことは高く評価できる。「あかりの授業」の出前授業はとて好評なので、他の事柄に関しても教材開発を検討していただくとうありがたい。今後の継続的な改善を期待したい。	(5段階) 4.1																																																										
	H25 (2013)	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で点検・評価) 小学校3年生のカリキュラムとの連携展示である特別企画『むかしのくらしと学校』展は例年通り、ボランティア、教員、学芸員の三者の連携をとりながら、学校側の要望をうけて、可能な部分では展示改善に取り組み、体験を取り入れた展示や、実際のあかりを体験するプログラムが好評を得ている。	(5段階) 4	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で評価) 小学校3年生を対象とした社会科向け展示「むかしのくらしと学校」を開催され、児童にとって過去と現在のくらしと学校の様子を学ぶ機会を得られたことは、大変有意義であった。また、展示内容等、学校と連携を図っていく中で要望等を受け入れていることは評価できる。	(5段階) 4.0																																																										
	H24 (2012)	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で点検・評価) 特別企画『むかしのくらしと学校』展は例年通り、ボランティア、教員、学芸員の三者の連携をとりながら、学校側の要望をうけて、可能な部分では展示改善に取り組み、体験を取り入れた展示や、実際のあかりを体験するプログラムが好評を得ている。	(5段階) 4	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 4.0																																																										
	H23 (2011)	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で点検・評価) 児童たちの祖父母の年代が、戦後生まれの世代に移行しつつあり、また、副読本の改訂も行われたため、展示内容の抜本的な見直しが必要である。また、小学生向けの展示ではあるものの、一般来館者へも公開している展示でもあることから、一般来館者も理解しやすい展示内容を検討していく必要がある。	—	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で評価) 本展は体験学習の要素を多く取り入れ、小学生にとって博物館施設になじむいい機会にもなり、その効果は充分期待できる。見学が難しい学校への出前授業も好評であり、評価できる。	—																																																										
	H22 (2010)	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で点検・評価) 冬季に小学校3年生の特別企画を実施。来館校26校。出前事業9校	—	(「特別企画『むかしのくらしと学校』の実施」の項目で評価) 本展は子どもから興味を引かれる充実した内容であり、学芸員、ボランティア、教員の連携がうまくとれている好例である。また、本展に関連する出前授業も非常に良い内容だと思う。	—																																																										

① 利用の促進					
b. 夏季展示の学習活用					
事業概要		点検項目		指標・目標	
身近な自然と環境などをテーマとする夏季展示を活用し、夏休みの自主学習、宿題などへのサポートの促進をはかる。		■夏季展示が理科学習の場として活用されたか。		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点	
第2次中期計画	H30 (2018)	平成29年度と同じく岸部第二小学校が学年単位で応募してくれた。今回初めて、4年生と一緒に兄弟の2年生の応募があった。平成29年度と同じく展示最終日に児童に発表をしてもらったが、今後も増やしていけるよう工夫したい。	(10段階) 7	岸部第二小学校からは、概ね高い評価を聞いている。今後、応募者を増やすためには、小学校教育研究会理科部等との連携を検討してはどうか。	(10段階) 7.23
	H29 (2017)	「すいたの自然はっけんシート」の応募児童数は大幅に増加した。143人のうち99人は博物館に最も近い岸部第二小学校からの応募で、学年単位(3クラス)での取り組みを行ってこれるところもみられた。応募シートは1枚ずつにコメントを付して会場に掲示したが、内容を展示内容に十分反映させるためには、現在5月上旬に行っている配布時期を見直すことも必要であろう。 「すいたの自然はっけんシート」応募者数 24校・143人	(10段階) 7	「すいたの自然はっけんシート」を活用した夏季展示は、本市の自然に興味を持たせるきっかけとして意味のある事業だと思う。今後、応募者を増やすためには、小学校教育研究会理科部等の協力を得ることや、配布時期を後半にずらして小学校の団体利用が多い時期に展示できるようにする等の改善を考えることも検討して欲しい。充分に見直しを図ることを期待する。	(10段階) 7.27
	H28 (2016)	前年度からの取り組みとして、理科への教材活用として夏季展示の利用を考え、小学校4年生を対象に身近な自然を観察するシート作りを展示に関連させた。昨年より応募者は増加し、応募者の来館も増えた。今後も改良しながら継続していくことで、さらに効果が出てくるものと考えられる。 「すいたの自然はっけんシート」応募者数 27校・85人	(10段階) 7	「しぜん発見シート」は、27年度より応募者数も増え、学校側からも取り組みやすいとの評価を得ており、今後も継続して行って欲しい。コメントを付して掲示するだけでなく、調査成果を展示内容に活かす工夫もあればいい。展示期間が夏休み中ということもあり、学校行事としての来館は難しいであろうが、理科のカリキュラムとの関わりを持たせ、アンケートで引き出した子どもの興味を組み合わせれば、学校としても夏季展示を学校行事として活用しやすくなるのではないかと。	(10段階) 7.63
	H27 (2015)	理科への教材活用として夏季展示の利用を考え、市内小学校4年生全児童を対象に校区内で見つけた動植物の絵、名前、発見日時、場所を記入してもらい「すいたの自然はっけんシート」を配布。応募シートを展示に関連させた。 「すいたの自然はっけんシート」応募者数 26校・76人	(10段階) 8	「すいたの自然はっけんシート」の意識調査は良い試みだと思われるので、そうしたものを起点として十分に生かすことを期待したい。中学校へ「吹田の自然の成り立ちと関わり」といったような理科の教科書もほしい。	(10段階) 8.00
	H26 (2014)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
第1次中期計画	H25 (2013)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H24 (2012)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H23 (2011)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H22 (2010)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—

① 利用の促進					
c. さまざまな学年教科への教材や出前授業の検討・表示 (第1次中期計画は「小中高へのプログラム検討」及び「出前授業」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
さまざまな学年、教科に活用できる教材の開発、出前授業メニューを検討、提示する。		<ul style="list-style-type: none"> ■小中教職員への研修を実施したか。 ■出前授業メニューは充実しているか。 		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	小中教職員研修 教育センターと共催にてバスで吹田の史跡を見学し、学芸員が解説する歴史探訪を実施。参加者 7人。 出前授業 「あかりのうつりかわり」(小3対象) 7校 中学校美術授業 「ようこそ水墨画の世界へ」 1校 489人 小中教職員研修は年々参加者が少なく、吹田の小中学校の教員が地域史を学ぶ折角の機会とはなり得ていない現状がある。中核市移行で、教職員研修が大阪府から吹田市へ委譲される。現在は法定研修選択履修の一講座という位置づけになっている点も含めて、根本的なその在り方について改めて考える契機とし、教育委員会指導室及び教育センターと検討を始めたところである。また、新たな学年教科との連携として中学校美術科2・3年生において博物館での授業が実施された。実物絵画を利用した授業は博物館ならではの強みを発揮でき、今後の展開が期待できる。	(10段階) 8	博物館を知り、活用していくためにも小・中学校の教員が研修で訪れる機会は、大変重要であると考え。また、吹田の教員として吹田の歴史を知ること、意識を高めることも必要であるので、教育委員会指導室及び教育センターと検討し実現してほしい。 出前授業に関しては、博物館を活用することが難しい学校にとっては、本物を体験できる貴重な機会であると考え。今後も継続してほしい。 歴史探訪に工夫がいるのでは。	(10段階) 7.77
	H29 (2017)	小中教職員研修 教育センターと共催にてバスで吹田の史跡見学し、学芸員が解説する歴史探訪を実施。参加者 9人。 出前授業 「あかりのうつりかわり」(小3対象) 4校 小中教職員研修は、研修であると同時に教職員と直に接して意見交換ができる良い機会ともなっている。教育センターと協議しながら参加者増加を工夫し、学習教材開発につなげていきたい。	(10段階) 8	教育センターと連携した小中教員研修で吹田の史跡見学を行い、学芸員が解説したことは、小・中学校教員が吹田の歴史を知ること、吹田の教員としての意識を高めるとともに社会科や歴史学習の授業を実施する上で、教材等に大いに役立てることができ、一定の効果があつたと思う。今後はさらに多くの参加者を募るために、案内チラシ等の充実を含めた情宜方法の検討も欲しい。 出前授業は減少気味であるが、そのラインナップが小学校現場であまり知られていない現状を考えると、情宜方法を工夫すれば、利用校数の増加につながるのではないかと。博物館を活用することが難しい学校にとっては、本物を体験できる貴重な機会であると考え。今後も継続してほしい。	(10段階) 7.82
	H28 (2016)	小中教職員研修 教育センターと共催にてバスで吹田の史跡見学し、学芸員が解説する歴史探訪を実施。参加者 21人。 出前授業 「あかりのうつりかわり」(小3対象) 7校 「米作りの1年」(小5対象) 1校。 千里丘北小学校にて学校博物館展示解説文づくり指導。「むかしの道具」の資料展示(普通教室1教室と渡り廊下)を開始。	(10段階) 8	引き続き小中学校教諭対象の吹田の史跡見学(歴史探訪)を実施されたことは地域史を授業に導入するという観点からも非常に高く評価できる。教育センターとの連携を強めて希望者の枠を追加するなど、より多くの教員に機会があればさらに有益であると考え。史跡巡りに終わらず、研修に参加した教員が博物館を授業で活用できるようなプログラムにも工夫が必要。	(10段階) 8.18
	H27 (2015)	小中教職員研修 教育センターと共催にてバスで吹田の史跡見学し、学芸員が解説する歴史探訪を実施。参加者 13人。 出前授業 「あかりのうつりかわり」(小3対象) 7校 『イノコ』のわらつとをつくらう」(小5対象) 1校。	(10段階) 6	例えば、紫金山の遺跡見学も兼ねて「渡来人」についての学習や、戦時中の暮らしについても教材化できることから、他の事柄に関しても教材開発を試みられたい。	(10段階) 6.83
第1次中期計画	H26 (2014)	(「小中高へのプログラム検討」及び「出前授業」の項目で点検・評価) 小中教職員研修 教育センターと共催にてバスで吹田の史跡見学し、学芸員が解説する歴史探訪を実施。参加者 19人。 出前授業 「あかりのうつりかわり」(小3対象) 8校 研修は教員からも高い関心を持たれ、継続実施の要望も数多く、地域史を授業へ導入することが期待できる。	(5段階) 4	(「小中高へのプログラム検討」及び「出前授業」の項目で評価) 小・中・高の各種学校との連携を進め、さらに深めようとする姿勢は評価できる。出前授業も6年生を対象にした取り組みの充実が望まれる。また、紫金山公園の遺跡見学も兼ねて、古墳時代の製陶、渡来人、さらに戦時中の暮らしについても教材化できると思う。教育センター共催の小中学校教員対象バスツアーも有効な取り組みであるので、是非、継続実施されたい。	(5段階) 4.2
	H25 (2013)	(「小中高へのプログラム検討」及び「出前授業」の項目で点検・評価) 小中教職員研修 教育センターと共催にてバスで吹田の史跡見学し、学芸員が解説する歴史探訪を実施。参加者 15人。 出前授業 「あかりのうつりかわり」(小3対象) 5校 「米作りの1年」(小5対象) 2校。 研修は教員からも高い関心を持たれ、継続実施の要望も数多く、地域史を授業へ導入することが期待できる。	(5段階) 4	(「小中高へのプログラム検討」及び「出前授業」の項目で評価) 小中学校教諭を対象とした研修会については、学芸員の指導の下、教育センターと連携を図りながら、吹田の史跡を見学する歴史探訪を実施し、小中学校教員が社会科や歴史学習の授業を実施する上で、教材等に大いに役立てることができたとと思う。こうした教員への研究会、研修は地域に根ざす博物館として重要な取り組みであり、一層の充実を期待したい。	(5段階) 4.2
	H24 (2012)	(「小中高へのプログラム検討」及び「出前授業」の項目で点検・評価) 小中教職員研修 教育センターと共催にてバスで吹田の史跡見学し、学芸員が解説する歴史探訪を実施。参加者 23人。 出前授業 「あかりのうつりかわり」(小3対象) 7校 「米作りの1年」(小5対象) 2校。 研修は教員からも高い関心を持たれ、継続実施の要望も数多く、地域史を授業へ導入することを期待したい。	(5段階) 4	(「小中高へのプログラム検討」及び「出前授業」の項目で評価) 小中学校教員を対象にしたバスによる吹田の史跡等見学(歴史探訪)は、非常に興味深い試みである。地域史を知ることによって地域を総合的に理解する一助となり、ひいては児童、生徒のくらしを理解でき、彼らを理解する上での基礎的な力となり得ると思う。教職員への一層の周知を図っていただきたい。	(5段階) 4.3
	H23 (2011)	(「小中高へのプログラム検討」及び「出前授業」の項目で点検・評価) 出前授業 「あかりのうつりかわり」(小3対象) 9校 「米作りの1年」(小5対象) 2校 小学校社会科部会教諭と6年生の博物館利用について協議。教科内容と地元資料との関係性について議論した。	—	(「小中高へのプログラム検討」及び「出前授業」の項目で評価) 小学校からの更なる利用としては、小学校6年生の社会科での利用が考えられるが、多忙な6年生の現状をみると、「出前授業」という形式が最もふさわしいと考える。	—
	H22 (2010)	(「小中高へのプログラム検討」及び「出前授業」の項目で点検・評価) 出前授業 「あかりのうつりかわり」(小3対象) 6校 「米作りの1年」(小5対象) 3校 小学校社会科部会との協議を予定したが、未実施。	—	(「小中高へのプログラム検討」及び「出前授業」の項目で評価) 今後は小学校6年生等の高学年や中・高校生を対象にした取り組みを計画しなければならないが、そのためには常設展示の整備充実が不可欠である。小中高教員との博物館利用に関する研究会を立ち上げ、各成長レベルに応じた教員手引き・教材開発・学習プログラム等の検討を進めていき、博物館利用に関する研修を実施することも利用の促進には有効と考える。	—

a. 中学校への地域史テキストの刊行 (第1次中期計画は「小中高へのプログラム検討」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
中学校との連携として社会科を対象に校区の地域史に関する教材の刊行を軸に進める。		■教材の刊行を行ったか。 ■刊行にあたって中学校と十分に協議したか。		■中学校用教材刊行数 1冊(1校)/年	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	教材の刊行 『吹田の歴史にふれてみよう』(千里丘中学校版) 千里丘中学校と意見交換会を実施して作成。全生徒に配布。校区の歴史的特徴として江戸期以来の街道や名神高速道路、産業道路といった道路交通の発達、校区の遺跡などを特集したページと、その他市域全体の歴史的特徴を古代窯業、古文書、古建築等のテーマごとに紹介したページで構成。	(10段階) 8	『吹田の歴史にふれてみよう(千里丘中学校版)』は、当該校の社会科教員からの評価も高い。さらに今後、社会科教員に広く博物館を知ってもらい、生徒の利用促進をするために「学研社会科部」に対する働きかけが有効と考える。また、各中学校が取り組んでいる「職場体験学習」も体験した生徒や、中学教員にとって非常に有効であるので、生徒達にとって魅力ある職場であることをアピールするプログラム作成や発信方法を検討していただきたい。	(10段階) 8.38
	H29 (2017)	教材の刊行 『吹田の歴史にふれてみよう』(古江台中学校版) 古江台学校と意見交換会を実施して作成。全生徒に配布。校区の歴史を特集したページと、その他市域全体の歴史的特徴を古代窯業、古文書、古建築等のテーマごとに紹介したページで構成。	(10段階) 8	『吹田の歴史にふれてみよう(古江台中学校版)』は、当該校の社会科教員からの評価も高く、中学校の夏期休業における利用促進を図れたのは高く評価できる。さらに今後、社会科教員に広く博物館を知ってもらい、生徒の利用促進をするために「学研社会科部」に対する働きかけが有効と考える。学校側からのテキスト使用の所見を知りたい。 また、各中学校が取り組んでいる「職場体験学習」も体験した生徒や、中学教員にとって非常に有効であるので、生徒達にとって魅力ある職場であることをアピールするプログラム作成や発信方法を検討していただきたい。	(10段階) 8.55
	H28 (2016)	教材の刊行 『吹田の歴史にふれてみよう』(第三中学校版) 第三中学校と意見交換会を実施して作成。全生徒に配布。中学校の歴史教科書の登場項目をメインとし、一部に各校区の歴史を盛り込むことで学校ごとのオリジナル教材となる。	(10段階) 8	中学校との連携で、第三中学校との意見交換により『吹田の歴史にふれてみよう(第三中学校版)』を作成し、中学生の夏期休業における利用促進を図れたのは大変良かった。特に今後、中学校との連携を進めるに当たって、社会科教員に広く博物館を知ってもらい、生徒の利用を促進するために、「学研社会科部」に対する働きかけが有効ではないかと考える。	(10段階) 8.36
	H27 (2015)	教材の刊行 『吹田の歴史にふれてみよう』(山田中学校版) 山田中学校と意見交換会を実施して作成。全生徒に配布。中学校の歴史教科書の登場項目をメインとし、一部に各校区の歴史を盛り込んだ学校ごとのオリジナル教材となっている。	(10段階) 6	山田中学校との意見交換により『吹田の歴史にふれてみよう(山田中学校版)』の作成・全校配布を実施し、中学生の夏期休業における利用促進を図られたのは注目できる。特に今後、社会科教員に広く博物館を知ってもらい、生徒の利用促進をするために「学研社会科部」に対する働きかけが有効と考える。	(10段階) 6.92
第1次中期計画	H26 (2014)	(「小中高へのプログラム検討」「職場体験のプログラムを精査」の項目で点検・評価) 教材の刊行 『吹田の歴史にふれてみよう』(第二中学校版) 第二中学校と意見交換会を実施して作成。全生徒に配布。中学校の歴史教科書の登場項目をメインとし、一部に各校区の歴史を盛り込んだ学校ごとのオリジナル教材となっている。	(5段階) 3	(「小中高へのプログラム検討」「職場体験のプログラムを精査」の項目で点検・評価) 第二中学校との意見交換により『吹田の歴史にふれてみよう(第二中学校版)』を作成し、中学生の夏期休業における利用促進を図られたのは大変良かった。特に今後、社会科教員に広く博物館を知ってもらい、生徒の利用促進をするために「学研社会科部」に対する働きかけが有効と考える。	(5段階) 3.4
	H25 (2013)	(「小中高へのプログラム検討」「職場体験のプログラムを精査」の項目で点検・評価) 教材の刊行 『吹田の歴史にふれてみよう』(豊津中学校版) 豊津中学校と意見交換会を実施して作成。全生徒に配布。中学校の歴史教科書の登場項目をメインとし、一部に各校区の歴史を盛り込んだ学校ごとのオリジナル教材となっている。	(5段階) 3	(「小中高へのプログラム検討」「職場体験のプログラムを精査」の項目で点検・評価) 中学校との連携については、近年、接触が難しくなっている中、豊津中学校と意見交換の上、吹田の歴史学習教材『吹田の歴史にふれてみよう』を開発、刊行していることは特筆すべき事柄である。中学校区の歴史が盛り込まれ、社会科の本質を捉えられており、身近な教材として児童、生徒の興味・関心を高めることができることから大きな意味があり、今後も継続して取り組んでほしい。	(5段階) 3.2
	H24 (2012)	(「小中高へのプログラム検討」「職場体験のプログラムを精査」の項目で点検・評価) 教材の刊行 『吹田の歴史にふれてみよう』(佐井寺中学校版) 博物館隣接する佐井寺中学校と社会科における利用に関する意見交換会を実施し、吹田の歴史学習教材『吹田の歴史にふれてみよう』を作成して、夏休みの課題に博物館を利用する際の手引書として活用することを検討した。これを中学校との連携の第一歩としたい。	(5段階) 3	(「小中高へのプログラム検討」「職場体験のプログラムを精査」の項目で点検・評価) 佐井寺中学校の社会科教員と博物館担当スタッフが「中博連携」についての意見交換会を数回行い、共同で歴史学習教材を生み出したことは特筆すべき画期的な進展といえる。今後はこれが単発的なものに終わらず、その有効活用を含めた問題点の整理、改善を図るとともに、これを切り口としてより広く、より深く連携、共働していくことが課題である。	(5段階) 3.4
	H23 (2011)	(「小中高へのプログラム検討」「職場体験のプログラムを精査」の項目で点検・評価) 中学生の職場体験プログラムは、精査にはいたっていないが、小学生の観覧者への展示解説、資料の整理、文化財保護の土器の整理などに従事してもらった。	—	(「小中高へのプログラム検討」「職場体験のプログラムを精査」の項目で点検・評価) 中学校との連携が進展していない。職場体験の学校数の増加、生徒の満足度も高い点は評価できるが、それ以外にも学校課程に関する連携、例えば、学芸員による出前授業、社会科授業での活用等の推進が望まれる。また、中学校への広報活動に関する方針を変更していただきたい。	—
	H22 (2010)	(「小中高へのプログラム検討」「職場体験のプログラムを精査」の項目で点検・評価) 学習プログラムは検討できなかった。	—	(「小中高へのプログラム検討」「職場体験のプログラムを精査」の項目で点検・評価) 中学校の博物館利用については、博物館に近い中学校を対象に利用法を考えていくことがよいと考える。生徒の利用を促進するにはまず教員にもっと博物館を意識してもらうことが必要であり、そのために教員と博物館職員との交流を深めていくべきである。	—

② 学校教育への支援					
b. 吹田高校との高博連携事業(第1次中期計画は「小中高へのプログラム検討」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
吹田高校との高博連携をさらに強化充実させる。		■「高博連携」に基づき、連携事業を行ったか。		文化系クラブの支援を行い、生徒の課外活動に利する。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	実施事業 ・夏季展示にて理科系生徒による研究発表。(海の誕生・深海の生き物・大阪の4つの川・天然水が生まれるまで・コーラの過熱実験) ・出前授業「国際交流のすすめ-EXPO'70を受け継いで-」(中牧館長)を吹田高校にて実施。参加者40人。 吹田高校との協議 翌年度以降の高博連携のあり方の検討。 生徒の発表の場を博物館にて設定できた。また、学校側で教育的に手薄とする国際交流の分野において講演会を実施し、学校側との人材資源交流を果たすことができた。	(10段階) 8	中牧館長の出前授業にとどまらず、「理科系生徒による研究発表」が博物館で開催されたことは大変評価できる。今後、さらに連携を深め、吹田市広報などで発信されることを期待する。	(10段階) 8.00
	H29 (2017)	実施事業 出前授業「国際交流のすすめ-EXPO'70を受け継いで-」(中牧館長)を吹田高校にて実施。参加者36人。 吹田高校との協議 翌年度以降の高博連携のあり方の検討。 単年度ごとに実施する事業ではなく、継続可能な連携内容を高校側と協議しながら検討していきたい。	(10段階) 6	吹田高校との連携事業として、出前授業「国際交流のすすめ-EXPO'70を受け継いで-」を実施したことは高く評価できる。しかしながら、高博連携事業は、単年度ごとに実施する事業ではなく、継続可能な連携内容を高校側と協議しながら、アクティブ・ラーニングの方向性とともに検討していただきたい。	(10段階) 6.27
	H28 (2016)	実施事業 高校側の「地域社会研究コース」の廃止に伴い、28年度は美術部や軽音楽部、ダンス部など文化系クラブの活動発表の場として「吹田高校DAY」を実施。 吹田高校との協議 翌年度以降の高博連携のあり方の検討。	(10段階) 6	高博連携として「吹田高校DAY」を実施し、美術部や軽音楽部、ダンス部などの文化系クラブの活動発表の場を提供したようだが、効果検証をしたうえで高博連携のあり方を検討していただきたい。	(10段階) 6.27
	H27 (2015)	実施事業 「地域社会研究コース」の授業を5回実施。 施設見学、紫金山公園の史跡見学、さわる展示の見学、未来の博物館像に関する講義や研究発表を実施。	(10段階) 6	吹田高校での出前授業は高く評価できる。今年度のプログラムが「アクティブラーニング」の要素を取り入れた形態であったことは興味深い。是非、高校と連携し効果検証をした上で改善・継続を望む。	(10段階) 6.42
第1次中期計画	H26 (2014)	(「小中高へのプログラム検討」の項目で点検・評価) 実施事業 「地域社会研究コース」の授業を6回実施。 座学をなくし、積極的に生徒自ら取り組んでもらうことを重視し、研究発表を取り入れた。今後も新たな連携のあり方を検討する必要がある。	(5段階) 3	(「小中高へのプログラム検討」の項目で点検・評価) 高博連携として吹田高校での出前授業は高く評価できる。今年度のプログラムが「アクティブラーニング」の要素を取り入れた形態であったことは興味深い。是非、高校と連携し効果検証をした上で改善・継続していただきたい。	(5段階) 3.4
	H25 (2013)	(「小中高へのプログラム検討」の項目で点検・評価) 実施事業 「地域社会研究コース」の授業を6回実施。 吹田高校との連携は本格化し、博物館から高校へ出張授業および博物館見学を実施した。今後は両者での新たな連携のあり方が検討されていく。	(5段階) 3	(「小中高へのプログラム検討」の項目で点検・評価) 高校との連携についても、困難な状況下の中「高博連携」に取り組み、吹田高校への出張授業及び博物館見学として地域社会研究を実施し、吹田市の地域的な特徴について専門的な分野から講義したことは、高校生にとっても大変有意義であったと思われる。今後ワークショップ的な授業展開も期待したい。	(5段階) 3.2
	H24 (2012)	(「小中高へのプログラム検討」の項目で点検・評価) 実施事業 常設展示のさわる展における手法導入にあたって、モニターとなって意見聴取にあたってもらうとともに、文化系クラブの発表の場と博物館のイベントを兼ねた活動を行った。	(5段階) 3	(「小中高へのプログラム検討」の項目で点検・評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.4
	H23 (2011)	(「小中高へのプログラム検討」の項目で点検・評価) 実施事業 吹田高校吹奏楽部演奏会。参加人数 46人。	—	(「小中高へのプログラム検討」の項目で点検・評価) 吹田高校との「高博連携」が締結されているが、連携がやや低調である。平成25年度からは本格的な地域歴史に関する授業が始まるが、それ以外の連携についても、その成果を上げることを期待する。	—
	H22 (2010)	(「小中高へのプログラム検討」の項目で点検・評価) 吹田高校との「高博連携」に関する連携協定を締結(平成23年3月1日)。	—	(「小中高へのプログラム検討」の項目で点検・評価) 吹田高校との間で「高博連携」に関する協定の締結がなされたことには注目し、期待している。連携を全国的なモデルに仕立てることを考え、その成果を速やかに公表してほしい。	—

c. 高校生インターンシップ					
事業概要		点検項目		指標・目標	
高校生のインターンシップを継続して受け入れるとともに、内容を整備し、博物館業務の理解を進める。		■高校生インターンシップを受け入れたか。		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	希望校がなく、実施せず。高校生へのインターンシップについては、実効性の検討と高校への働きかけも肝要である。	(10段階) 4	高校生インターンシップの受け入れは、職業体験の一環として意義があるものだと考えるが、ここ数年希望校がないのは非常に残念である。市内5校の府立高校を中心に周知・広報の工夫を期待したい。大学生との共同プログラムはどうか。	(10段階) 3.77
	H29 (2017)	希望校がなく、実施せず。高校生へのインターンシップについては、実効性の検討と高校への働きかけも肝要である。	(10段階) 4	高校生インターンシップの受け入れは、職業体験の一環として意義があるものだと考えるが、平成27年～29年までの3年間希望校がなく、以前にあった関大一高との連携がなくなっている。市内の公立校5校を中心とした周知・広報の工夫に課題があるのではないかと期待したい。	(10段階) 3.91
	H28 (2016)	希望校がなく、実施せず。高校生へのインターンシップについては、吹田高校との高博連携、他の高校との連携の可能性、中学校の職場体験との関連性を含め、検討していく余地がある。	(10段階) 4	高校生インターンシップの取組は、市内5校の府立高校を中心に周知・広報の工夫を期待したい。	(10段階) 4.18
	H27 (2015)	希望校がなく、実施せず。高校生へのインターンシップについては、吹田高校との高博連携、他の高校との連携の可能性、中学校の職場体験との関連性を含め、検討していく余地がある。	(10段階) 4	高校インターンシップの取り組みは、市内全5校の府立高校を中心に周知・広報の工夫を期待したい。	(10段階) 4.25
第1次中期計画	H26 (2014)	(「インターンシップ」の項目で点検・評価) 所属高校 関西大学第一高校 受入人数 1人 受入日数 2日間 作業内容 資料の整理等	(5段階) 3	(「インターンシップ」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.2
	H25 (2013)	(「インターンシップ」の項目で点検・評価) 所属高校 関西大学第一高校 受入人数 1人 受入日数 2日間 作業内容 資料の整理等	(5段階) 3	(「インターンシップ」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.3
	H24 (2012)	(「インターンシップ」の項目で点検・評価) 所属高校 関西大学第一高校 受入人数 2人 受入日数 2日間 作業内容 資料の整理等	(5段階) 3	(「インターンシップ」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.4
	H23 (2011)	(「インターンシップ」の項目で点検・評価) 所属高校 関西大学第一高校 受入人数 3人 受入日数 2日間 作業内容 資料の整理等	—	(「インターンシップ」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	—
	H22 (2010)	(「インターンシップ」の項目で点検・評価) 希望校がなく、実施せず。	—	(「インターンシップ」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	—

8. 社会貢献		過去の 総合評価点	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平成30年度 総合評価点	8.04	
			4.00	3.90	3.75	4.02	3.81	8.04	8.20	8.53			
① 人材育成	a. 博物館実習												
	事業概要		点検項目				指標・目標						
博物館実習を継続して受け入れる。		■実習生の実習成果は上がったか。				《指標》(過去8年間の平均値) ■館園実習受入大学数 13校・受入人数 22人							
平成30年度(2018年度)実績													
[館園実習]		[施設見学等による実習]											
受入大学数 14校 受入人数 25人 実施日 9月4日～9月8日及び9月9日～23日の土・日のうち1日(9月4日は台風のため休講)		《実習内容》 講義・展示実習・バックヤード見学。展示実習の成果公開と展示解説(展示実習は博物館実習展『大学生による館蔵品展－歴史・美術・考古・民俗資料がいっぱい－』を館蔵資料で準備)				大阪学院大学(施設見学) 3人(4月24日) 大阪学院大学(講義「古文書・美術工芸の取り扱い方」) 3人(5月2日) 京都橘大学(講義・施設見学・紫金山公園史跡見学) 49人(8月7日)							
年度	実績・自己点検・自己評価				評価点	外部評価						評価点	
第2次 中期計画	H30 (2018)	館園実習 受入大学数 14校、受入人数 25人、実習日数 5日間(台風のため1日休講) 施設見学・講義等による実習 3校(3回) 館園実習は博物館実習生を受け入れ、実習内容は例年通り、展示実習と実習展における展示解説を行った。講評会・反省会では、学生の意見としては貴重な体験をできたと概ね好評であり、大学からも実習内容は高い評価を得ている。さらに展示の質と展示実習の幅を広げ、内容を充実させていきたい。				(10段階) 9	実習を受け入れることが館の向上につながるような工夫を展示をさせることを目的にすることで館に何かメリットがあるのだろうか。20代の声を活かす方向にはなっていない。						(10段階) 9.00
	H29 (2017)	館園実習 受入大学数 13校、受入人数 21人、実習日数 6日間 施設見学・講義等による実習 4校(6回) 館園実習は博物館実習生を受け入れ、実習内容は例年通り、展示実習と実習展における展示解説を行った。講評会・反省会では、学生の意見としては貴重な体験ができた概ね好評であった。さらに大学、博物館双方の利益になるよう質を高めていきたい。				(10段階) 9	博物館実習は来館者層として最も手薄な20代の声を聞ける重要な機会である。自己評価のとおり、双方の利益となるべく努力して欲しい。						(10段階) 9.09
	H28 (2016)	館園実習 受入大学数 14校、受入人数 22人、実習日数 6日間 施設見学・講義等による実習 3校(4回) 学芸員養成課程の博物館実習生を受け入れ(講義・展示実習・バックヤード見学)。展示実習の成果公開と展示解説(展示実習は博物館実習展を館蔵資料で準備)、人材育成に取り組む。博物館実習展示の実際の公開は他館ではあまりみられない。大学、博物館双方にプラスとなるような内容に高めたい。				(10段階) 9	博物館実習、JICA 研修、インターンシップなど人材育成においての社会貢献は意義も大きく、受講者からの評価も高く、その役割は果たしているように思われる。						(10段階) 9.09
	H27 (2015)	館園実習 受入大学数 14校、受入人数 24人、実習日数 6日間 施設見学・講義等による実習 3校 講義、展示実習・バックヤード見学を実施。展示実習の成果を公開する。展示実習は博物館実習展『大学生による館蔵品展－歴史・美術・考古・民俗資料がいっぱい－』を館蔵資料を用いて準備。展示の成果を公開し、展示解説を行った。				(10段階) 8	博物館の活動がどのように社会に貢献しているのか、積極的に示すことが重要である。博物館実習、JICA研修、インターンシップ、学会研究会などは社会の貢献としての意義も大きい。その意義を市民に伝える工夫が必要である。						(10段階) 8.31
第1次 中期計画	H26 (2014)	館園実習 受入大学数 12校、受入人数 25人、実習日数 6日間 施設見学・講義等による実習 2校(5回) 講義、展示実習・バックヤード見学を実施。展示実習は博物館実習展『すいはくDE実習展 収蔵品×大学生∞【無限大】』を館蔵資料を用いて準備。展示の成果を公開し、展示解説を行った。				(5段階) 4	JICA事業への貢献は地域博物館が国際的な結びつきを実現できる希少な機会である。その価値は非常に高いが、その果実をどのように市民に見せることができるか、このような事業をしている「すいはく」はすごいな、と思わせるような工夫がほしい。大学実習生への教育にはその一端が現れた。						(5段階) 3.9
	H25 (2013)	館園実習 受入大学数 9校、受入人数 13人、実習日数 6日間 施設見学・講義等による実習 2校 館園実習は講義、展示実習・バックヤード見学を実施。展示実習は企画展『さわって楽しむはくぶつかん in すいた』として準備。展示の成果を公開し、展示解説を行った。				(5段階) 4	博物館実習、JICA研修、インターンシップ、学会研究会などには、相互作用による研修につながる部分もあることから、今後とも機会を捉えて活用し継続していかれることを期待する。						(5段階) 4.1
	H24 (2012)	館園実習 受入大学数 15校、受入人数 24人、実習日数 6日間 施設見学・講義等による実習 2校 館園実習は講義、展示実習・バックヤード見学を実施。展示実習は企画展『さわって楽しむはくぶつかん in すいた』として準備。展示の成果を公開し、展示解説を行った。				(5段階) 4	博物館実習、JICA研修、インターンシップ等、自己評価の高い項目もあり、若い方々への力量のレベルアップや相互利用による研修につながり、今後とも継続していかれることを期待する。						(5段階) 4.1
	H23 (2011)	館園実習 受入大学数 10校、受入人数 18人、実習日数 6日間 施設見学・講義等による実習 なし 館園実習は講義、展示実習・バックヤード見学を実施。展示実習は秋季特別展『さわるーみんなで楽しむ博物館』の準備作業を行った。				—	学芸員養成課程における博物館実習、JICA研修、学芸員インターンシップ等を受け入れ、人材育成に力を入れていることは評価できる。						—
	H22 (2010)	館園実習 受入大学数 13校、受入人数 20人、実習日数 6日間 施設見学・講義等による実習 2校(3回) 実習展示を公開。展示解説、ワークショップ「大学生と博物館」を開催。				—	今後も継続してもらいたいが、インターンシップのプログラムを整理し、博物館実習の展示公開等成果面を広報によって広く知らしめることが課題である。						—

b. JICA研修					
事業概要		点検項目		指標・目標	
JICA研修を継続して受け入れる。		■研修を行った結果、館に何か寄与するものがあったか。		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
研究期間中の様々な事例紹介やデモンストレーションなどのほか、ディスカッションを通じて、外国人研修員と日本側関係者の双方が博物館の国際事情を知ること、所属館の事業に活かすための情報収集と技能・意識向上の機会となっている					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	研修生数 4人 実施日 12月4日～12月8日(5日間) 研修内容 JICAからの依頼を受けて、実施。テーマは「地域歴史博物館の運営」とし、吹田市立博物館・紫金山公園史跡・浜屋敷・高槻市立自然博物館・平野町ぐるみ博物館等の見学・講義・ディスカッション	(10段階) 9	地域博物館の意義を伝え、再確認する機会を吹田市役所内部に向けての情報発信にも利用してほしい。	(10段階) 9.00
	H29 (2017)	研修生数 4人 実施日 11月7日～11月11日(5日間) 研修内容 吹田市立博物館・紫金山公園史跡・旧西尾家住宅・浜屋敷・高槻市立自然博物館・平野町ぐるみ博物館等の見学・講義・ディスカッション	(10段階) 9	研修の実施により運営の再検討・改善の機会とできているのか。その検証のためにもJICAへの評価の申し入れの必要があろう。	(10段階) 8.91
	H28 (2016)	研修生数 5人 実施日 11月29日～12月3日(5日間) 研修内容 吹田市立博物館・紫金山公園史跡・旧中西家住宅・旧西尾家住宅・浜屋敷・高槻市立自然博物館・平野町ぐるみ博物館等の見学・講義・ディスカッション	(10段階) 9	博物館実習、JICA研修、インターンシップなど人材育成においての社会貢献は意義も大きく、受講者からの評価も高く、その役割は果たしているように思われる。	(10段階) 8.72
	H27 (2015)	研修生数 5人 実施日 12月8日～12月12日(5日間) 研修内容 吹田市立博物館・紫金山公園史跡・浜屋敷・茨木市立キリシタン遺物史料館・キリシタン墓碑等の見学・講義・ディスカッション	(10段階) 10	博物館の活動がどのように社会に貢献しているのか、積極的に示すことが重要である。博物館実習、JICA研修、インターンシップ、学会研究会などは社会の貢献としての意義も大きい。その意義を市民に伝える工夫が必要である。	(10段階) 9.23
第1次中期計画	H26 (2014)	研修生数 2人 実施日 7月1日～7月5日(5日間) 研修内容 吹田市立博物館・紫金山公園史跡・浜屋敷・茨木市立キリシタン遺物史料館・キリシタン墓碑等の見学・講義・ディスカッション	(5段階) 5	JICA事業への貢献は地域博物館が国際的な結びつきを実現できる希有な機会である。その価値は非常に高いが、その果実をどのように市民に見せることができるか、このような事業をしている「すいはく」はすごいな、と思わせるような工夫がほしい。大学実習生への教育にはその一端が現れた。	(5段階) 4.5
	H25 (2013)	研修生数 5人 実施日 7月2日～7月6日(5日間) 研修内容 吹田市立博物館・旧西尾家住宅・浜屋敷・千里ニュータウン情報館等の見学・講義・ディスカッション	(5段階) 5	博物館実習、JICA研修、インターンシップ、学会研究会などには、相互作用による研修につながる部分もあることから、今後とも機会を捉えて活用し継続していかれることを期待する。	(5段階) 4.5
	H24 (2012)	研修生数 2人 実施日 12月11日～12月15日(5日間) 研修内容 吹田市立博物館・旧西尾家住宅・旧中西家住宅・浜屋敷・千里ニュータウン情報館等の見学・講義・ディスカッション	(5段階) 5	博物館実習、JICA研修、インターンシップ等、自己評価の高い項目もあり、若い方々への力量のレベルアップや相互利用による研修につながり、今後とも継続していかれることを期待する。	(5段階) 4.6
	H23 (2011)	研修生数 8人 実施日 8月16日～8月20日(5日間) 研修内容 吹田市立博物館・旧西尾家住宅・旧中西家住宅・浜屋敷の見学・講義・ワークショップ・博物館主催のイベント見学とディスカッション等	—	学芸員養成課程における博物館実習、JICA研修、学芸員インターンシップ等を受け入れ、人材育成に力を入れていることは評価できる。	—
	H22 (2010)	研修生数 6人 実施日 6月21日・6月24日(2日間) 博物館の国際協力への貢献。	—	発展途上国の博物館職員への研修事業は、国際貢献の点で評価できる。	—

c. 学芸員インターンシップ(第1次中期計画は「インターンシップ」)					
事業概要		点検項目		指標・目標	
大学生の学芸員インターンシップを受け入れる。		■学芸員インターンシップを実施したか。		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	所属大学 関西大学 受入人数 1人 受入日数 6日間 作業内容 施設見学、展示替え、資料整理・イベント補助等 博物館活動の根幹となる資料に関わる作業を体験すること、来館者と交流は学芸業務を理解する上で貴重な機会となっている。また、館にとっても資料整理などの業務が進展することにもなる。さらに大学生は観覧者層としても少ない年齢層であり、業務を通じての交流ではあるが、その世代の博物館や労働に対する価値観に触れることができる機会となっている。	(10段階) 7	インターンシップを受け入れたことは評価することはできるが、博物館はそこで何を不得、何を失ったのか、その評価をすべきである。受け入れに際しても博物館実習・ボランティアとの境は明確にしておく必要がある。 客ではなく、仕事として向き合うことができたか？	(10段階) 7.00
	H29 (2017)	所属大学 ノートルダム女子大学 受入人数 1人 受入日数 10日間 作業内容 美術資料の整理等	(10段階) 7	インターンシップを受け入れたことは評価することはできるが、博物館はそこで何を不得、何を失ったのか、その評価をすべきである。受け入れに際しても博物館実習・ボランティアとの境は明確にしておく必要がある。	(10段階) 7.55
	H28 (2016)	所属大学 関西大学 受入人数 1人 受入日数 5日間 作業内容 美術資料の整理等	(10段階) 7	博物館実習、JICA 研修、インターンシップなど人材育成においての社会貢献は意義も大きく、受講者からの評価も高く、その役割は果たしているように思われる。	(10段階) 6.90
	H27 (2015)	所属大学 関西大学 受入人数 1人 受入日数 6日間 作業内容 美術資料の整理等 その他に関西大学から市役所に依頼のあったインターンシップを1人9日間を受け入れ。	(10段階) 6	博物館の活動がどのように社会に貢献しているのか、積極的に示すことが重要である。博物館実習、JICA研修、インターンシップ、学会研究会などは社会の貢献としての意義も大きい。その意義を市民に伝える工夫が必要である。	(10段階) 6.54
第1次中期計画	H26 (2014)	(「インターンシップ」の項目で点検・評価) インターンシップについては大学からの依頼がなかった。大学、博物館双方にプラスとなる内容に高めていきたい。	(5段階) 3	(「インターンシップ」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.3
	H25 (2013)	(「インターンシップ」の項目で点検・評価) 所属大学 関西大学 受入人数 2人 受入日数 延べ9日間 作業内容 たより編集作業・資料整理・写真撮影 チラシ発送 資料搬入等	(5段階) 4	(「インターンシップ」の項目で評価) 博物館実習、JICA研修、インターンシップ、学会研究会などには、相互作用による研修につながる部分もあることから、今後とも機会を捉えて活用し継続していかれることを期待する。	(5段階) 3.8
	H24 (2012)	(「インターンシップ」の項目で点検・評価) 所属大学 関西大学 受入人数 2人 受入日数 延べ15日間 作業内容 ニュータウン資料整理・古文書データ入力・展示準備補助等	(5段階) 3	(「インターンシップ」の項目で評価) 博物館実習、JICA研修、インターンシップ等、自己評価の高い項目もあり、若い方々への力量のレベルアップや相互利用による研修につながり、今後とも継続していかれることを期待する。	(5段階) 3.5
	H23 (2011)	(「インターンシップ」の項目で点検・評価) 所属大学 関西大学 受入人数 2人 受入日数 延べ15日間 作業内容 近代資料整理・古文書データ入力整理・イベント補助等	—	(「インターンシップ」の項目で評価) 学芸員養成課程における博物館実習、JICA研修、学芸員インターンシップ等を受け入れ、人材育成に力を入れていることは評価できる。	—
	H22 (2010)	(「インターンシップ」の項目で点検・評価) 所属大学 関西大学 受入人数 2人 受入日数 延べ16日間 作業内容 古写真データの整理。展示準備作業	—	(「インターンシップ」の項目で評価) 今後も継続してもらいたい、インターンシップのプログラムを整理し、博物館実習の展示公開等成果面を広報によって広く知らしめることが課題である。	—

② 学会・研究会等への支援				
事業概要		点検項目	指標・目標	
学会、研究会等と共同事業での貢献を果たす。		■学会、研究会等と共同事業を行ったか。	指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績				
吹田郷土史研究会との「西国街道」講座、歴史ウォークを共催にて実施。 (「4. 地域学習の拠点と連携 ②連携 e.吹田郷土史研究会との連携事業」の項を参照)				
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018) 共催事業 ・吹田郷土史研究会(「吹田再見ウォーク」講座及び歴史ウォーク) 博物館および郷土史研究会から1名ずつの講師をだし、研究活動の発表の機会とするとともにその成果の一部を市民に還元する。博物館単独では実施しづらい野外事業を共同で実施している。	(10段階) 7	リーダー層だけでなく、次世代の育成も重要。戦略的实施を	(10段階) 7.15
	H29 (2017) 共催事業 ・吹田郷土史研究会(「西国街道」講座及び歴史ウォーク)	(10段階) 7	共催事業を実施するまでの共同作業・関係が重要であり、その観点の評価が必要である。	(10段階) 7.55
	H28 (2016) 共催事業 ・全日本博物館学会・日本ミュージアムマネジメント学会 (シンポジウム「小規模館が地域に対して果たす役割」) ・吹田郷土史研究会(「西国街道」講座及び歴史ウォーク)	(10段階) 8	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 8.09
	H27 (2015) 共催事業 ・比較文明学会関西支部 (講演会「聖像と偶像－好む文化・嫌う文化－」) ・全日本博物館学会 (シンポジウム「来場者による大阪万博の経験と長期記憶」) ・吹田郷土史研究会(「西国街道」講座及び歴史ウォーク)	(10段階) 8	博物館の活動がどのように社会に貢献しているのか、積極的に示すことが重要である。博物館実習、JICA研修、インターンシップ、学会研究会などは社会の貢献としての意義も大きい。その意義を市民に伝える工夫が必要である。	(10段階) 8.08
第1次中期計画	H26 (2014) 共催事業 ・比較文明学会関西支部(講演会「上方の数寄者の美意識－『粹』から『萌』へ 木村兼葭堂からオタクまで－」(奥野卓司氏)) ・吹田郷土史研究会(「西国街道」講座及び歴史ウォーク) ・吹田地学会(「自然環境講座」) 共同研究会 ・歴史土器研究会(五反島遺跡出土土器の検討)	(5段階) 4	学会への貢献は会場の提供だけではなく、知見の提供を求めたい。	(5段階) 3.8
	H25 (2013) 共催事業 ・全日本博物館学会 (シンポジウム「博物館教育理論とその実践化を考える」) ・吹田郷土史研究会(「西国街道」講座及び歴史ウォーク) ・吹田地学会(「自然環境講座」及び「地球環境基礎講座」)	(5段階) 4	博物館実習、JICA研修、インターンシップ、学会研究会などには、相互作用による研修につながる部分もあることから、今後とも機会を捉えて活用し継続していかれることを期待する。	(5段階) 4.1
	H24 (2012) 共催事業 ・吹田郷土史研究会(「西国街道」講座及び歴史ウォーク)	(5段階) 3	(当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 3.4
	H23 (2011) 共催事業 ・吹田郷土史研究会(「西国街道」講座及び歴史ウォーク) ・吹田地学会(研究発表会) ・フィールドミュージアム史遊会 (講演会「百舌鳥・古市古墳群の世界」)	—	学会、地域の研究会への支援も果たされている。23年度に新たに支援を実施した百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録に関する活動を行っているフィールドミュージアム史遊会等は、これからの広報活動につながると期待している。今後は、内容、質を高めていく模索をしてほしい。	—
	H22 (2010) 共催事業 ・吹田郷土史研究会(「西国街道」講座及び歴史ウォーク) 共同研究会 ・民博研究会(「誰もが楽しめる博物館を創造する実践的研究」実験展示『さわる五感の挑戦V』開催に関する研究会)	—	学会、研究会等への支援については評価できる。今後ますます取り組んでいってほしい。	—

9. 施設の整備・維持管理		過去の総合評価点	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平成30年度総合評価点	5.91
①施設の維持・管理	a. 展示機器の定期点検											
	事業概要			点検項目				指標・目標				
	展示機器の定期点検を継続して実施する。			■展示機器の定期点検を実施しているか。				■定期点検回数 2回/年				
	平成30年度(2018年度)実績											
	下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。											
	年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価							評価点
	第2次中期計画	H30 (2018)	定期点検は年2回実施。 特別展示室のガラスケースパッキンを修繕	(10段階) 8	年2回の定期点検は、展示機器の日常的な運用にあたって最低限必要なものであり、今後とも継続して行ってほしい。 清掃、始業点検の項目が必要か？ 屋外の地層を見る望遠鏡が草木で見えない。日常点検が必要。							(10段階) 7.85
		H29 (2017)	定期点検は年2回実施。第2展示室のビデオ機器が不調。修理不能のため4台を2台に集約し(番組数は変わらず)、空いた2台の設置台に窯跡位置図を設置。	(10段階) 8	新しい機器でも設置当初より安価なのではないか。機器の不調にたいして、より適切な方法を検討して欲しい。							(10段階) 7.82
		H28 (2016)	定期点検は年2回実施。施設の維持管理は対応できている。開館から20年以上が経過、設備面で経年劣化が目立つ。	(10段階) 8	施設については、管理とは別に経年劣化については、市の文化的拠点としてのポテンシャルを確保、維持していくために、全市的問題として対応すべきかもしれない。							(10段階) 7.92
		H27 (2015)	定期点検は年2回実施。施設の維持管理は対応できている。開館から20年以上が経過、設備面で経年劣化が目立つ。	(10段階) 8	(当該事項に関するコメントなし)							(10段階) 7.92
第1次中期計画	H26 (2014)	定期点検は年2回実施。	(5段階) 4	開館より20年以上が過ぎ、展示機器や機械室の機械は経年劣化が目立っているようであるが、劣化はやむを得ないことであり、全体の清掃はもとより展示機器の定期点検、収蔵庫の空調機器の改修等、実際目にふれない事を確実にやっていくことは、大変意義のある事である。							(5段階) 4.0	
	H25 (2013)	定期点検は年2回実施。	(5段階) 4	施設の維持・管理については開館から20年以上経ているので建物の劣化が進むなか、施設を注意深く、何時も、見守っていく必要がある。							(5段階) 3.7	
	H24 (2012)	定期点検は年2回実施。	(5段階) 4	設備の点検については、アンケートによると、展示室の展示補助の機器について、ビデオを楽しむ人もいれば機器にクレームをつける人もいて、定期点検だけでなく、日常的点検が必要ではないか、							(5段階) 3.9	
	H23 (2011)	定期点検は年2回実施。	—	博物館活動を行っていく上での施設の整備、維持管理は重要なことで、毎年の点検や修理を行うことによって十分な成果を上げている。							—	
	H22 (2010)	定期点検は年2回実施。	—	展示機器や収蔵庫の空調機器の点検は博物館活動を支えるものであり、今後も継続して実施していただきたい。また、開館20年近くが経過し、設備の更新や施設の改修等の必要があるものは、事業に支障が生じないように計画的に対応して行ってほしい。							—	

①施設の維持・管理					
b. 外国語施設案内表示					
事業概要		点検項目		指標・目標	
外国語の施設案内表示を作成する。		■外国語の施設案内表示はできたか。		ICOM京都大会開催時期に対応できるようにする。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点	
第2次中期計画	H30 (2018)	施設内の外国語表示は進んでいない。	(10段階) 3	大阪を訪れる外国人旅行者は増加の一途である。来館者の動向を把握しつつ、施設内の必要な外国語表示を進めていくことが求められる。	(10段階) 3.08
	H29 (2017)	施設内の外国語表示はできていないが、ホームページにおいて「利用案内」の英語版ページを追加した。	(10段階) 6	点字も含め翻訳等にボランティアの利用はできないのか。速やかな実施のための工夫を求める。	(10段階) 5.91
	H28 (2016)	施設内の外国語表示はできていない。	(10段階) 2	外国語施設案内表示について、グローバル化の流れの中でもかなり遅れていると言わざるを得ない。早急に対応すべき課題である。地域には複数の大学があり、今後も留学生や研究者の来館も多くみられるであろう。吹田の歴史・文化を学びたいという外国籍の方へ向けた情報発信も重要である。また、「さわる展示」に力を入れていくのであれば、館案内も含め、点字の表示も不可欠である。	(10段階) 2.17
	H27 (2015)	平成28年度春季特別展において、図録、パネル、キャプションに英語表記を入れた。	(10段階) 2	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 5.08
第1次中期計画	H26 (2014)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H25 (2013)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H24 (2012)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H23 (2011)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—
	H22 (2010)	点検・評価項目なし	—	点検・評価項目なし	—

① 施設の維持・管理				
c. 機械室の設備更新				
事業概要		点検項目		指標・目標
機械室の設備を順次更新していく。		■定期的な点検が行われているか。 ■設備の更新は適切に実施されたか。		■定期点検回数 2回/年
平成30年度(2018年度)実績				
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。				
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018) 空調機器設備の修繕を実施 機械関係ではないが2階ロビーの漏水対策として3階エントランス付近の床面改修工事を実施。	(10段階) 8	空調機器をはじめ機械室の設備は施設の生命線であり、定期的な点検にもとづき、順次更新を進めていってほしい。	(10段階) 7.92
	H29 (2017) 定期点検は年2回実施。老朽化に伴う設備更新として高圧変受電設備の交換、空調用冷温水設備の修繕、外壁点検を実施。	(10段階) 8	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 7.82
	H28 (2016) 温湿度、空調、給排水、電気、防災等を監視、自動制御する中央監視板を取り替えた。29年度は受変電設備の更新予定。設備更新は市全体のバランスの中で館の運営に支障が生じないように、順次対応。	(10段階) 8	管理とは別に、施設の経年劣化については、市の文化的拠点としてのポテンシャルを確保、維持していくために、全体的問題として対応すべきかもしれない。	(10段階) 8.00
	H27 (2015) 平成28年度予算に温湿度、空調、給排水、電気、防災等を監視、自動制御する中央監視板の取り替え予算を計上、認められた。館の運営に支障が生じないように、順次対応していきたい。	(10段階) 6	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 6.38
第1次中期計画	H26 (2014) 施設の維持管理は対応できている。開館から20年以上が経過し、設備の経年劣化が目立ってきているが、設備の更新には館の運営に支障が生じないように、順次対応していきたい。	(5段階) 3	開館より20年以上が過ぎ、展示機器や機械室の機械は経年劣化が目立っているようであるが、劣化はやむを得ないことであり、全体の清掃はもとより展示機器の定期点検、収蔵庫の空調機器の改修等、実際目にふれない事を確実にやっていくことは、大変意義のある事である。	(5段階) 3.2
	H25 (2013) 施設の維持管理は対応できている。開館から20年以上が経過し、設備の面でも経年劣化が目立ってきているが、設備の更新には館の運営に支障が生じないように、順次対応していきたい。	(5段階) 3	施設の維持・管理については開館から20年以上経ているので建物の劣化が進むなか、施設を注意深く、何時も、見守っていく必要がある。	(5段階) 3.0
	H24 (2012) 施設の維持管理は対応できている。開館から20年以上が経過し、設備の面でも経年劣化が目立ってきているが、設備の更新には館の運営に支障が生じないように、順次対応していきたい。	(5段階) 3	設備の面では、経年劣化に対して順次対応していることを評価する。しかし、近年、博物館・美術館における種々の被害がみられ、設備面だけでなく建物の老朽化によることも多く、建物面の対応も必要かと思う。	(5段階) 3.2
	H23 (2011) 空調機器に関連する機器の修繕を実施。	—	博物館活動を行っていく上での施設の整備、維持管理は重要なことで、毎年の点検や修理を行うことによって十分な成果を上げている。	—
	H22 (2010) 空調機器に関連する機器の修繕を実施。	—	展示機器や収蔵庫の空調機器の点検は博物館活動を支えるものであり、今後も継続して実施していただきたい。また、開館20年近くが経過し、設備の更新や施設の改修等の必要があるものは、事業に支障が生じないように計画的に対応していってほしい。	—

a. JR岸辺駅前アクセス表示					
事業概要		点検項目		指標・目標	
JR岸辺駅前の本格的な整備にあわせてアクセス表示を設置する。		■博物館へのアクセス表示は設置されたか。		■JR岸辺駅前の整備完了にあわせてアクセス表示を設置する。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価		評価点	外部評価	評価点
第2次中期計画	H30 (2018)	健都のオープンに伴い、JR岸辺駅前にアクセス表示を新設した。従来の駅改札前の掲示は継続し、駅周辺地図上への博物館明記と各所に矢印表記を設置した。	(10段階) 9	JR岸辺駅前の整備にあわせて、アクセス表示等が新設されたことは評価できる。念願が果たされた。	(10段階) 8.38
	H29 (2017)	JR岸辺駅前整備を所管する北大阪健康医療都市推進室と協議。30年度中にアクセス表示を新装設置予定。	(10段階) 8	単に名前や所在を示すだけの案内板ではなく、全体的に取り上げられているのか。アクセス表示の効果の検証を継続しておこなっていただきたい。	(10段階) 7.55
	H28 (2016)	案内表示は昨年度の表示板に加え、地元の小中生や幼児に協力を呼びかけ、手作りの横断幕表示。トンネルアートの修正で、五月が丘側(駐車場側)からの案内が充実。	(10段階) 7	アクセスについては、平成27年度の表示看板に引き続き、28年度、地域を取り巻いての横断幕作成、特に近隣の子どもたちのアートによる作成というところは高く評価をつけたい。引き続き、JR岸辺駅前案内表示板設置には、大いに期待したい。	(10段階) 7.55
	H27 (2015)	アンケートによる駐車場や公園内からの博物館へのアクセスがわかりにくいとの指摘を受け、駐車場や紫金山公園内からのアクセス表示看板を4か所設置した。	(10段階) 6	アクセスについての課題は山積だが、博物館へのアクセス表示看板が増えたことは喜ばしい。今回最大の要因であるトンネルを越えると博物館ということを知らせる案内作成に迅速に対応されたことは高く評価する。これからの博物館の発展の力添えになることを期待する。	(10段階) 6.08
第1次中期計画	H26 (2014)	点検・評価項目なし	—	(「アクセス」の項目で評価) JR岸辺駅からのアクセスについては、博物館行きの専用バス、JR岸辺駅に案内図とかパンフレット等を置いてもらう、岸辺駅からの道順を明確にする等いろいろ検討してみてもどうか。	—
	H25 (2013)	点検・評価項目なし	—	(「アクセス」の項目で評価) JR岸辺駅の新築に伴い、以前の長い地下道を通らずに行けるのでより便利になったと思う。駅から歩くと所々に案内板があり、分かりやすい。駅には地図もあり、いろいろな努力がうかがえる。	—
	H24 (2012)	点検・評価項目なし	—	(「アクセス」の項目で評価) (当該事項に関するコメントなし)	—
	H23 (2011)	点検・評価項目なし	—	(「アクセス」の項目で評価) 博物館へのアクセスは、来館者にとって重要である。JR岸辺駅が新しくなり、博物館側への新たな駅前ができたので、この機会を逃さずに表示等を検討してみてもどうか。	—
	H22 (2010)	点検・評価項目なし	—	(「アクセス」の項目で評価) 博物館へのアクセスについては、現在も博物館の場所やルートがわかりにくいという意見が多い。博物館に至るルートに看板のような表示が必要と考える。できれば無味乾燥な文字情報やピクトグラムだけでなく、展示品の写真が添えられるとよい。	—

② アクセス					
b. 名神高速道路吹田サービスエリアからのアクセスロード					
事業概要		点検項目		指標・目標	
名神高速道路吹田サービスエリアからのアクセスロードを継続検討。名神高速道路吹田サービスエリアからのアクセス可能を継続協議する。		■西日本高速道路(株)や関連部局との協議が進んだか。		指標・目標値は設定していない。	
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点	
第2次中期計画	H30 (2018)	博物館とのアクセスロードは進展が期待できないため、サービスエリアと紫金山公園駐車場とを結ぶルート変更を検討する。	(10段階) 6	博物館にとって、吹田サービスエリアとのつながりは重要であり、実現可能なアクセス・ルートの検討に期待したい。	(10段階) 5.15
	H29 (2017)	西日本道路株式会社と継続協議中。	(10段階) 4	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 3.82
	H28 (2016)	西日本道路株式会社と継続協議中。名神高速道路からのアクセス道路設置はクリアしなければいけない法律上の問題がある。	(10段階) 4	吹田サービスエリアからのアクセスロードは進展がみられないが、引き続き協議継続を望む。	(10段階) 3.54
	H27 (2015)	西日本道路株式会社と継続協議中。	(10段階) 4	吹田サービスエリアからの文化パス(小径)をぜひ作ってもらいたい。	(10段階) 3.77
第1次中期計画	H26 (2014)	西日本道路株式会社と継続協議中。名神高速道路からのアクセス道路設置はクリアしなければいけない法律上の問題がある。	(5段階) 2	名神高速道路の吹田サービスエリアからのアクセスについては西日本道路(株)と長年交渉を行っているが、実現しない。交渉を継続することはいいことだと思うが、吹田市の関係部署との連携はもちろんの事、西日本道路(株)との連携協力が必須であろう。	(5段階) 2.0
	H25 (2013)	継続協議中。名神高速道路からのアクセス道路の建設は法律、財政問題もあり課題は多いが、さらなる努力が必要と考える。	(5段階) 2	名神高速道路の吹田サービスエリアからのアクセスは長年の課題であり、また、いろいろな面に関係することから継続課題である。サービスエリアの売店、トイレ、食堂等に博物館のチラシを掲出してはどうか。	(5段階) 2.4
	H24 (2012)	継続協議中。名神高速道路からのアクセス道路の建設は法律、財政問題もあり課題は多いが、さらなる努力が必要と考える。	(5段階) 2	吹田サービスエリアからのアクセスの可能性については、積極的に検討している努力を評価する。	(5段階) 2.3
	H23 (2011)	継続協議中。	—	名神高速道路吹田サービスエリアからのアクセス道路は法的な問題等、課題は多いが継続して検討していただいたい。	—
	H22 (2010)	継続協議中。	—	名神高速道路吹田サービスエリアからのアクセス道路については望む声も多く、今後とも引き続き協議していただいたい。また、名神高速道路を車で走る人に見えるような位置に目立つ看板がほしい。同乗者の視野に入れば、その効果は少なくないはずである。	—

a. 紫金山公園ビジターセンターの建設					
事業概要		点検項目	指標・目標		
紫金山公園ビジターセンターの建設を推進する。		■ビジターセンター建設事業を進めたか。	指標・目標値は設定していない。		
平成30年度(2018年度)実績					
下記「実績・自己点検・自己評価」に記載。					
年度	実績・自己点検・自己評価	評価点	外部評価	評価点	
第2次中期計画	H30 (2018)	平成21年度に庁内検討委員会において策定された基本構想に基づき、平成34年度設計、35年度建設の予定で実施計画として要求。結果は「査定せず」。紫金山公園ビジターセンターの建設は財政問題があり課題は多いが、引き続き協議、検討。	(10段階) 3	博物館を含めた紫金山公園エリアの活性化のため、その実現に向けて、引き続きの協議を進めてほしい。 ビジターセンターの建設は博物館の機能を多様化させ活性化させるものとして期待されている。引き続き実現に向けての努力を期待する。 吹田市の自然環境は気候の影響や開発により激しく変化している。いま調査し保全しなければ失われてしまう希少種もある。ビジターセンターの建物建設以前にその内容と保全について、市民団体、市民との協働により、早急に検討を開始し準備すべきと思われる。	(10段階) 3.08
	H29 (2017)	平成21年度に庁内検討委員会において策定された基本構想に基づき、平成33年度設計、34年度建設の予定で実施計画として要求。結果は「査定せず」。紫金山公園ビジターセンターの建設は財政問題があり課題は多いが、引き続き協議、検討。	(10段階) 3	ビジターセンターの建設は博物館の機能を多様化させ、活性化させるものとして期待されている。今後も継続して実現に向けての努力が必要である。	(10段階) 2.91
	H28 (2016)	平成21年度に庁内検討委員会において策定された基本構想に基づき、平成32年度設計、33年度建設の予定で実施計画として要求。結果は「査定せず」。紫金山公園ビジターセンターの建設は財政問題があり課題は多いが、引き続き協議、検討。	(10段階) 3	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 2.82
	H27 (2015)	平成21年度に庁内検討委員会において策定された基本構想に基づき、平成31年度設計、32年度建設の予定で実施計画として要求。結果は「査定せず」。紫金山公園ビジターセンターの建設は財政問題があり課題は多いが、引き続き協議、検討。	(10段階) 4	(当該事項に関するコメントなし)	(10段階) 3.69
第1次中期計画	H26 (2014)	平成21年度に庁内検討委員会において策定された基本構想に基づき、建設の予算化を働きかけたが、財政事情により計画は進展していない。課題は多いが、引き続き協議、検討していく。	(5段階) 2	(当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 2.0
	H25 (2013)	建設検討中。ビジターセンターの建設は法律、財政問題もあり課題は多いが、さらなる努力が必要と考える。	(5段階) 2	(当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 2.2
	H24 (2012)	建設検討中。ビジターセンターの建設は法律、財政問題もあり課題は多いが、さらなる努力が必要と考える。	(5段階) 2	(当該事項に関するコメントなし)	(5段階) 2.1
	H23 (2011)	建設検討中。	—	ビジターセンターの建設は博物館の機能を多様化させる意味で必要であり、時間をかけて設立に努力が必要かと思う。	—
	H22 (2010)	建設検討中。	—	ビジターセンターの建設は財政事情もあろうが、市民が博物館活動を行う際の作業スペースとしての利用も計画されており、博物館の機能を補完するものでもあり活性化につながる。今後も継続して実現に努力していただきたい。	—